TOSHIBA
Leading Innovation >>>

REGZA

ハードディスク内蔵
地上・BS・110度CS
デジタルハイビジョン液晶テレビ
取扱説明書

42ZH7000/46ZH7000/52ZH7000

準備編

：：必ず最初にこの「準備編」をお読みください。
：：本書では安全上のご注意、設置、接続、設定などについて説明しています。

このたびは東芝テレビをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お求めのテレビを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書「準備編」と別冊の「操作編」をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

準備(接続・設定)早わかり

● 以下は、テレビを視聴できるようになるまでの基本的な準備の流れです。
外部機器を接続して楽しむ場合の準備については、38ページの「本機に接続できる外部機器一覧」をご覧ください。

1 付属品を確認する 5ページ

▼

2 「安全上のご注意」〜「たいせつなお知らせ」を読む 6〜16ページ

▼

3 リモコンの準備をする 21ページ

▼

4 テレビの設置、接続、設定をする 22〜33ページ

- テレビを設置する …… 22〜23ページ
- B-CAS(ビーキャス)カードを入れる …… 23ページ
- アンテナ線を接続する …… 24〜27ページ
- 電話回線に接続する(※1) …… 28ページ
- LAN端子の接続(1)をする(※2) …… 29ページ
- LAN端子の接続(2)をする(※3) …… 30ページ
- 電源を入れる …… 31ページ
- はじめての設定をする …… 32〜35ページ

※1、※2、※3の項目は、必要に応じて準備してください。
詳しくは下の「お知らせ」をご覧ください。

▼

5 お客様登録をする

● 付属の「お客様登録のお願い」のハガキをご覧ください。

▼

6 B-CAS(ビーキャス)カードの登録をする

● B-CASカードが貼ってある説明書をご覧ください。

7 受信契約をする

● 付属のBS・110度CSデジタル放送受信契約申込書をご覧ください。
※ B-CASカードの説明書についている「加入申込書用バーコードシール」を受信契約申込書に必ず貼ってください。

※1…「電話回線の接続」は、デジタル放送で電話回線を使用した双方向サービスを利用する場合に必要です。(地上デジタル放送では、番組によってはダイヤルアップ通信が使われることがあります)
※2…「LAN端子の接続(1)」は、
- 地上アナログ放送でiNETサーバーを利用した番組表を使う場合に必要です。
- デジタル放送で、イーサネット通信を使用した双方向サービスを利用する場合に必要です。
- インターネット機能、アクトビラ、Eメール録画予約機能などを利用する場合に必要です。

※3…「LAN端子の接続(2)」は、「ひかりTV」を利用する場合に必要です。

準備編もくじ

ご使用の前に

設置と基本の接続・設定

外部機器の接続と設定

個別に設定をするとき

その他

資料

● この取扱説明書は、42ZH7000、46ZH7000、52ZH7000で共用です。記載しているイラストは46ZH7000のものです。他の機種はイメージが多少異なります。また、42ZH7000は仕様が一部異なります。

別冊(操作編)もくじ

※以下は別冊の内容です。(一部省略しています。操作編もよくお読みください)

操作編(別冊)

この取扱説明書内のマークの見かた

参照していただきたい情報が記載されているページの番号を示しています。

機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。

取扱上のお願いを記載しています。

取扱上のご注意を記載しています。

付属品

- 本機には以下の付属品があります。お確かめください。
- アンテナや外部機器、電話回線などに接続するためのケーブルやコード、器具・機器などは付属されておりません。機器の配置や端子の形状、使用環境などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

付属品/名称	付属数
スタンド(42ZH7000のみ) ● 「スタンド取付説明書」の手順に従って組み立て、テレビ本体に取り付けてください。	1式
リモコン(CT-90312)	1個
単四形乾電池(R-03)	2個
F型コネクター 緑色ラベル：5C用 青色ラベル：4C用 ● アンテナ線の端子が本機のアンテナ入力端子に合わない場合に使います。 24	2組
クリップ ● 柱や丈夫な壁などに転倒防止の処置をする場合に使います。 22	1個
クリーニングクロス	1枚

付属品/名称	付属数
BS・110度CSデジタル放送 受信契約申込書 (ファーストステップガイド) ● 冊子名「ファーストステップガイド」は2008年9月現在のものです。将来は変更される可能性があります。	1式
「お客様登録のお願い」のハガキ	1枚
取扱説明書 準備編(本書) 操作編	各1部
簡単ガイド	1部
たいせつなお知らせ	1部
B-CAS(ビーキャス)カード ● B-CASカードはテレビ本体の背面に貼付された袋の中にあります。 ※ B-CASカードは、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから供給されたものを同梱しています。	1枚

安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

表　示	表示の意味
⚠警告	“取扱いを誤った場合、人が死亡、または重傷[*1]を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、人が傷害[*2]を負うことが想定されるか、または物的損害[*3]の発生が想定されること”を示します。

＊1： 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものをさします。
＊2： 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
＊3： 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の例】

図記号	図記号の意味
⃠ 禁　止	“⃠”は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
● 指　示	“●”は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
△ 注　意	“△”は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

⚠警告

異常や故障のとき

■ **煙が出ている、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

プラグを抜け

■ **画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

プラグを抜け

シ～ン…

⚠警告

異常や故障のとき つづき

■ **内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

■ **落としたり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

■ **電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
電源コードや電源プラグが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

設置するとき

■ **本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する**

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

■ **屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には置かない**

火災・感電の原因となります。

■ **ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない**

テレビが落ちて、けがの原因となります。
水平で安定したところに据え付けてください。
テレビ台を使用するときは、その取扱説明書もよくお読みください。

■ **振動のある場所に置かない**

振動でテレビが移動・転倒し、けがの原因となります。

安全上のご注意 つづき

⚠警告

設置するとき つづき

■ 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む

● 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
● 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
● 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

指　示

■ 上にものを置かない

● 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体が内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
● 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

上載せ禁止

■ 壁に取り付けて使用する場合、壁掛け工事は、お買い上げの販売店に依頼する

工事が不完全だと、けがの原因となります。

指　示

使用するとき

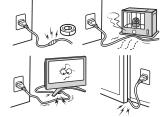
■ 修理・改造・分解はしない

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

■ 電源コード・電源プラグは、

● **傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり（熱器具に近づけるなど）しない**
● **引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない**
● **無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない**

火災・感電の原因となります。

■ 異物を入れない

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

異物挿入禁止

■ 雷が鳴りだしたら、テレビ・電源コード・アンテナ線・電話機コード・LANケーブルに触れない

感電の原因となります。

禁　止

⚠警告

使用するとき つづき

■ 包装に使用しているビニール袋でお子様が遊んだりしないように注意する

かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

お手入れについて

■ ときどき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。
（電源プラグを抜く前に、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」13をお読みください）

⚠注意

設置するとき

■ 温度の高い場所に置かない

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。
また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

■ 湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

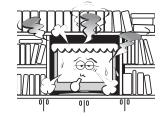
■ 転倒・落下防止の処置をする

転倒・落下防止の処置をしないと、テレビの転倒・落下によってけがなどの危害が大きくなることがあります。
転倒防止のしかたは22～23をご覧ください。

■ 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 壁に押しつけないでください。（10cm以上の間隔をあける）
- 押し入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

安全上のご注意 つづき

⚠注意

設置するとき つづき

■ 移動したり持ち運んだりする場合は、

指示

● **離れた場所に移動するときは電源プラグ・アンテナ線・機器との接続線および電話機コードや転倒防止をはずす**

はずさないまま移動すると、電源コードが傷つき火災・感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。
（電源プラグを抜く前に、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」13をお読みください）

● **包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で取り扱う**

ひとりで取り扱うと、からだを痛めたり、テレビを落としてけがをしたりする原因となることがあります。

● **車（キャスター）付きのテレビ台に設置している場合、移動させるときは、キャスターの固定を解除し、テレビを支えながら、テレビ台を押す**

テレビを押したり、テレビを支えていなかったりすると、テレビが落下してけがの原因となることがあります。

● **衝撃を与えないように、ていねいに取り扱う**

テレビが破損してけがの原因となることがあります。

■ **車（キャスター）付きのテレビ台に設置する場合は、キャスターが動かないように固定する**

指示

固定しないとテレビ台が動き、けがの原因となることがあります。
畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。キャスターをはずさないと、揺れたり、傾いたりして倒れることがあります。

⚠注意

使用するとき

■ テレビ台を使用するときは、

- 不安定な台を使わない
- 片寄った載せかたをしない
- テレビ台のトビラを開けたままにしない

倒れたり、破損したり、指をはさんだり、引っ掛けたりして、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない

タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。
「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」13 もご覧ください。

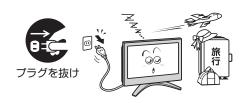
■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

■ テレビやテレビ台にぶら下ったり、上に乗ったりしない

落ちたり、倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

■ 旅行などで長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。
本体やリモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。
(電源プラグを抜く前に、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」13 をお読みください)

■ ヘッドホーンやイヤホーンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

安全上のご注意 つづき

⚠注意

使用するとき つづき

■ **液晶テレビの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない**

ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。
もしも、ガラスが割れて液晶（液体）がもれたときは、液晶に触れないでください。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

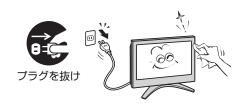
■ **リモコンに使用している乾電池は、**

- **指定以外の乾電池は使用しない**
- **極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない**
- **充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない**
- **火や直射日光などの過激な熱にさらさない**
- **表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない**
- **種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない**

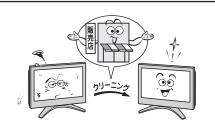
これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

お手入れについて

■ **お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く**

感電の原因となることがあります。
お手入れのしかたは操作編 118 をご覧ください。
（電源プラグを抜く前に、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」 13 をお読みください）

■ **1年に一度は内部の清掃を、お買い上げの販売店にご相談ください**

本体の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

使用上のお願いとご注意

取扱いについて

● 本機をご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
● 本機をご使用中は、内蔵ハードディスクの動作音が発生します。その音は電源が「切」や「待機」でも発生する場合がありますが、それらは故障ではありません。
● 本機から「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。
● **本機にはハードディスクが内蔵されています。ハードディスクは衝撃や振動、温度などの周囲環境の変化の影響を受けやすく、記録されている内容が損なわれることがありますので、以下のことにご注意ください。**
  • 振動や衝撃を与えないでください。
  • 本機を移動するときは、右上の「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」に従って、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、衝撃を与えないように、ゆっくりとていねいに取り扱ってください。
  • 振動する場所や不安定な場所で使用しないでください。
  • 本機は水平な場所に置いてご使用ください。
  • 通風孔をふさがないでください。
  • 温度の高い場所や急激な温度変化のある場所では使用しないでください。
  • ハードディスクの動作中に、停電や雷などによる瞬間的な停電が起こると、ハードディスクに録画された内容がすべて消えたり、ハードディスクが故障したりすることがあります。雷が鳴っているようなときには本機の使用をひかえてください。
  • 分解、改造などをしないでください。ハードディスクに記録されている内容が失われる原因となります。
● たばこの煙や煙を出すタイプの殺虫剤、ほこりなどが本機内部にはいると、故障の原因になります。
● 引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動をあたえないでください。
● 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
● 電源プラグは非常時と長期間ご使用にならないとき以外は、常時コンセントに接続してください。（番組情報を取得するためです）
● 外部入力（ビデオ入力1 ～ 4、HDMI入力1 ～ 4）の映像や音声には若干の遅れが生じます。以下の場合にはこの遅れによる違和感を感じることがあります。
  • ゲーム、カラオケなどを接続して楽しむ場合
  • DVDやビデオなどの音声を、直接AVシステム機器（AVアンプなど）の外部機器に接続して視聴する場合

電源プラグをコンセントから抜く際のご注意

● 電源プラグをコンセントから抜いたり、コンセントの元につながっているブレーカーを落としたりする際は、以下の手順で行ってください。
  ① 本体の電源ボタンを押して電源を「切」にする
  ② 本体の「ハードディスク」表示が消えるのを待つ
  ③ 電源プラグをコンセントから抜く、またはコンセントの元につながっているブレーカーを落とす
※ ハードディスクの動作中に電源プラグをコンセントから抜いたり、コンセントの元につながっているブレーカーを落としたり、ハードディスクを取り出したりすると、録画された内容がすべて消えたり、ハードディスクが故障したりすることがあります。

録画・録音について

● 内蔵ハードディスクや、本機に接続した録画機器に録画・録音する際は、事前に試し録画・録音をして、正しくできることを確かめておいてください。
● ハードディスクに録画した内容の長期保存は保証できません。たいせつな番組の録画には、DVDレコーダーやビデオなど、他の録画機器を併用することをおすすめします。
● 著作権保護のため、コピーが禁止されている番組は、録画をすることはできません。また、著作権保護のため、1回だけ録画が許された番組は、録画した番組をさらにコピーすることはできません。

著作権について

● **あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、権利者の許諾なく、録画・録音したものを複製・改変したり、インターネットなどで送信・掲示したりすることは著作権法上禁止されています。著作権法違反によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いませんので、ご理解のほどお願いします。**
なお、著作権法違反は刑事処罰を受けますので自己責任の下でご利用ください。
たとえば、以下の行為は違反になりますのでご注意ください。
  • **録画した番組を自分のホームページで見られるようにする。**
  • **録画した番組をメールやメッセンジャーサービスなどで他人に送る。**
また、以下の行為も著作権法違反となるおそれがありますのでご注意ください。
  • **番組を録画したビデオテープやDVDなどの媒体を友人に貸す。**
● 本製品は、マクロヴィジョン社ならびに他の権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権で保護された著作権保護技術を採用しています。
この著作権保護技術の使用は、マクロヴィジョン社の許可が必要で、また、マクロヴィジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他一部の観賞用の使用に制限されています。分解したり、改造したりすることも禁じられています。

使用上のお願いとご注意 つづき

ハードディスクについて

- ハードディスクはパソコンなどで使われているものと同様に非常に精密な機器です。使用状況によっては部分的に破損して、再生映像にノイズが出たり、最悪の場合は録画や再生が全くできなくなることがあります。
- ハードディスクには寿命があり、使用状態によっては数年で異常をきたす場合があります。内蔵ハードディスクに録画した映像にノイズが発生しやすくなった場合は、別売の「東芝テレビ内蔵用ハードディスクユニット」(形名：THH-30U5)に交換してください。
  内蔵用ハードディスクユニットのご購入については、お買い上げの販売店にご相談ください。また、「内蔵ハードディスクの交換について」97もご覧ください。
- 本機では複数のハードディスクを交換して使用することができますが、ひとつのハードディスクを複数のテレビで使用することはできません。番組を録画したハードディスクを別のテレビに取り付けて使用する場合は、初期化をしてください。

■ **内蔵ハードディスクの容量について**
- 内蔵ハードディスクの総容量は300GB（1GB=10億バイトで算出）ですが、本機では容量の一部をシステム管理領域として使用しています。また、「今すぐニュース番組登録」34、93をすると、ハードディスクの容量の一部を確保するため、録画できる容量が少なくなります。

■ **本機を長期間使用しないとき**
- ハードディスクの機能に支障をきたす場合があります。ときどき電源を入れて本機を使用してください。

結露(露付き)について

結露はハードディスクを傷めます。結露がおきた状態で使用しないようにご注意ください。以下をよくお読みください。

■ **「結露」はこんなときにおきます。**
- 本機を寒いところから、急に暖かいところに移動したとき
- 暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなどの冷風が直接あたるところに置いたとき
- 夏季に、冷房のきいた部屋・車内などから急に温度・湿度の高いところに移動したとき
- 湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋に置いたとき

■ **結露がおきそうなときは、本機をすぐにご使用にならないでください。**
その場合は電源プラグをコンセントから抜き、一定の温度の場所にしばらくおいてからご使用ください。

蛍光管について

- 本機内部に使用している蛍光管には寿命があります。
  画面が暗くなったり、チラついたり、点灯しなくなったりしたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- 「すべての初期化」95をして、暗証番号や双方向サービスの情報(お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数など)なども含めて、初期化することをおすすめします。
- B-CAS(ビーキャス)カードの登録廃止、登録名義変更などについては、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズにお問い合わせください。
  お問い合わせ先：
  カスタマーセンター　TEL.0570-000-250
- **一般の廃棄物といっしょにしないでください。**
  ごみ廃棄場で処分されるごみの中にテレビを捨てないでください。本機の内部で使用している蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- ハードディスクや録画・録音機器に正しく記録(録画、録音など)できなかった内容または変化・消失した内容の補償、および付随的な損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 他の接続機器との組合せによる誤動作や動作不能、誤操作などから生じた損害(録画機器などの故障、録画内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 誤操作や、静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータなどが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。
- 故障・修理のときなどに、データ放送の双方向サービスなどで本機に記憶されたお客様の登録情報やポイント情報などの一部あるいはすべてが変化・消失した場合の損害や不利益について、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

たいせつなお知らせ

■ デジタル放送の番組情報取得について

● **番組情報を取得するために、「番組情報取得設定」（操作編 86）を「取得する」にして、毎日2時間以上本機の電源を「切」または「待機」にしておくことをおすすめします。**（番組表の内容が表示されないときは、「番組情報の取得」（操作編 15）で情報を取得・更新することができます）
- デジタル放送では、番組情報（番組名や放送時間など）が放送電波の中にはいって送られてきます。
  本機は、電源が「切」または「待機」のときに番組情報を自動的に取得して、番組表表示や番組検索、予約などに使用します。電源が「入」のときにも番組情報は取得しますが、視聴中のデジタル放送以外の放送の番組情報は取得できない場合があります。（デジタル放送の種類や本機のご使用状態によって、取得できる内容は異なります）
- 電源プラグを抜いている場合、および「番組情報取得設定」（操作編 86）を「取得しない」に設定している場合には、番組情報は取得できません。番組情報が取得できていない場合には、番組表が正しく表示されなかったり、番組検索や録画予約などができなかったりすることがあります。

■ お問い合わせ先について

● 受信契約など放送受信については、各放送事業者にお問い合わせください。（付属の「ファーストステップガイド」をご覧ください。冊子名「ファーストステップガイド」は 2008年9月現在のものです。将来は変更される可能性があります）

■ 同梱のB-CAS（ビーキャス）カードについて

● B-CASカードはデジタル放送の受信に必要です。常に本体に挿入しておいてください。 23
● B-CASカードの登録や取扱いの詳細については、カードが貼ってある説明書をご覧ください。
● カードの破損、紛失、盗難などの場合、および本機の廃棄などでカードが不要となった場合などは、（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズにご連絡ください。（お問い合わせ先：カスタマーセンター　TEL.0570-000-250）

■ デジタル放送の録画について

● 地上デジタル／ BSデジタルテレビ放送局は、著作権保護のために電波に「1世代のみ録画可能」や「コピー 9回＋ムーブ1回（ダビング10）」のコピー制御信号を加えて放送しています（2008年9月現在）
● 「1世代のみ録画可能」の番組は、録画したものをコピーすることはできません。
● 本機は、「ダビング10」のデジタル放送番組で以下のことができます。（他の録画機器での録画やダビングなどの制限については、録画機器の取扱説明書をご覧ください）
- 内蔵ハードディスク/USBハードディスク/LANハードディスクから、DTCP-IP対応サーバーへコピー９回＋ムーブ１回ができます。ムーブ（移動）完了後は、ムーブした番組はムーブ元のハードディスクから自動的に削除されます。
- 46ZH7000および52ZH7000は、内蔵ハードディスクからSDメモリーカードへワンセグのコピー９回＋ムーブ１回ができます。ムーブ完了後は、ムーブしたワンセグは内蔵ハードディスクから自動的に削除されます。

※ 内蔵ハードディスク/USBハードディスク/LANハードディスク間はムーブしかできません。

■ HDMI連動機能について

● 推奨機器以外の機器を本機のHDMI入力端子に接続した場合に、本機がHDMI連動機能対応機器として認識し、一部の連動操作ができることがありますが、その動作については保証いたしかねます。 52

■ LANハードディスクの自動登録について

● LANハードディスクを本機に接続して電源を入れてから自動登録されるまで10分ほどかかります。 59

■ インターネット機能について

● インターネットの利用には、ADSL、ケーブルテレビなどのインターネット回線事業者および接続業者（プロバイダー）との契約が必要です。契約、費用などについては、お買い上げの販売店または接続業者などにご相談ください。
● 本機でインターネットが使用できるのは、イーサネット通信のみです。ダイヤルアップやISDNなどには対応していません。
● 回線の接続環境や接続先のサーバーの状況などによっては、正しく動作しない場合があります。
● Webサイトによっては、本機の仕様が対応していない場合があり、映像、文字などが正しく表示されない、または正しく動作しないことがあります。
● 本機で採用しているインターネット機能は、基本的な閲覧機能だけに対応しています。メール機能やインターネット上のプラグインソフト（FlashやJavaなど）の機能には対応していません。また、今後の新技術にも対応できない場合があることを、あらかじめご了承ください。

たいせつなお知らせ つづき

本機の現在時刻表示について

● 本機は、デジタル放送やIPTVのサーバーおよびインターネット（iNETサーバー）から現在時刻を取得しています。
デジタル放送を受信しない場合で、IPTV、インターネットも利用していない場合は、本機の現在時刻表示はできません。

地上アナログ放送の番組表や番組情報を使用した機能について

● 本機はDEPG[TM]（Dynamic Electronic Program Guide）システムによる地上アナログ放送の番組表機能を搭載しています。これによって、デジタル放送だけでなく地上アナログ放送でも以下の機能が使えます。
- 番組表をテレビ画面に表示させて、選局や視聴予約をする（操作編 12、32）
- 番組情報や番組説明を見る（操作編 17）
- ジャンルなどを指定して番組を検索する（操作編 13）

● 地上アナログ放送の番組表を見るには、インターネットの常時接続・設定 29 とチャンネル設定（33 または 72）が必要です。

取扱説明書（本書および別冊の操作編）について

● 記載されているテレビ画面表示は、実際に表示される画面と文章表現などが異なる場合があります。画面表示については実際のテレビ画面でご確認ください。
● 受信画面の図などに記載されている番組名などは架空のものです。
● 記載されている機能の中には、放送サービス側がその運用をしていない場合には使用できないものがあります。
● 画面に表示されるアイコン（絵文字や絵記号）については、「アイコン一覧」（操作編 114）をご覧ください。
● 本書および別冊の操作編、画面表示、リモコンの操作ボタン名などでは、以下の略語を使用しています。

略　語	意　味
デジタル放送	地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送
地上アナログ、地アナ	地上アナログ放送
地上デジタル、地デジ	地上デジタル放送
BS	BSデジタル放送
110度CS、CS	110度CSデジタル放送

ソフトウェアの更新について

● お買い上げ後、より快適な環境でお使いいただくために、本機内部のソフトウェア（制御プログラム）を更新する場合があります。
本機の自動ダウンロード機能を「する」の状態に設定しておくと、放送電波で送られるソフトウェアを本機が受信し、自動的にソフトウェアを更新することができます。（お買い上げ時は、「する」の状態に設定されています）
ソフトウェアの更新や自動ダウンロードについては、操作編の 87 をご覧ください。

インターネットで情報を･･･

● ホームページに最新の商品情報やサービス･サポート情報、その他のお知らせなどを掲載しておりますので、ご覧ください。

■ http://www.toshiba.co.jp/product/tv/

※ 上記アドレスは予告なく変更する場合があります。このような場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/)をご覧ください。

● 東芝総合ホームページからもさまざまな情報を提供しています。

放送、通信サービスについて

● 放送や通信サービス（インターネットを利用した地上アナログ放送の番組表、光通信回線などを利用した映像配信サービス、その他の通信サービスなど）は、お客様への予告なしに、放送事業者や通信事業者などによって一時的に中断したり、内容が変更されたり、サービス自体が終了されたりする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

アフターサービスをご依頼になる際のお知らせ

● 以下をあらかじめご了承ください。
- テレビ本体の修理の際に内蔵ハードディスクの保存内容が消える場合があります。
- 破損、消失した記録内容の復旧はできません。
- 内蔵ハードディスク交換の場合、もとの内蔵ハードディスクの保存内容を新しい内蔵ハードディスクや他のハードディスクなどに移動させることはできません。

各部のなまえ

● イラストは、見やすくするために誇張、省略しており、実際とは多少異なります。
● 詳しくは ☞ 内のページをご覧ください。（代表的なページを示しています）

前面

背面

各部のなまえ つづき

右側面
SDメモリーカード挿入口（操作編 59）
（42ZH7000にはありません）
• SDメモリーカードの写真を見たり、ワンセグをダビング・再生したりできます。
• SDメモリーカード専用です。ほかの種類のメモリーカードは挿入しないでください。
• 図の向きにして差し込みます。
• 取り出すときは、いったん押し込みます。
※ SDメモリーカードを抜差しするときは、本体またはリモコンの電源ボタンで電源を切ってください。
押してから取り出す
てから取り出す
ここを上にする
TOSHIBA
LOCK
SDメモリーカード
B-CASカード挿入口 23
• B-CASカードを差し込みます。
B-CAS
電源
電源 31
• 電源を「入」、「切」にします。
チャンネル
チャンネル▲・▼（アップ・ダウン）
• チャンネルを順番に切り換えます。
音量
音量 ＋・ー
• 音量を調節します。
入力切換
入力切換（操作編 11「お知らせ」）
• 入力を順番に切り換えます。
放送切換
放送切換（操作編 4）
• 放送の種類を切り換えます。
録画する場合は背面専用端子へ
USB
USB端子 50
• USB機器をつなぐことができます。
※USBハードディスクに録画する場合は背面のUSB端子（録画専用）につないでください。ここにつないでも録画・再生はできません。
HDMI
HDMI 入力4
HDMI入力4端子 48 49
• HDMI出力端子付のポータブル機器やゲーム機などをつなぐのに便利です。
S2映像入力端子優先
ビデオ入力4／ゲーム
S2映像
映像
左
音声
右
ビデオ入力4／ゲーム端子 48 49
• ポータブル機器やゲーム機などをつなぐのに便利です。
ヘッドホーンのモード切換はメニューの「音声設定」で行ってください。
ヘッドホーン端子
• ヘッドホーンで聴くときに、プラグをここに差し込みます。モノラルイヤホーンをつないだ場合は、左音声だけが聞こえます。
左側面
● 録画
録画（操作編 30）
• 見ている番組を内蔵ハードディスクに録画します。
▶ 再生
II 一時停止
ちょっとタイム再生
再生／一時停止（操作編 30 43）
• 録画番組を再生／一時停止します。
• 「ちょっとタイム再生」に使います。
■ 停止
停止（操作編 43）
• 録画番組の再生を停止します。
HARD DISK
HARD DISK RECORDING

背面の入出力端子

光デジタル音声出力端子 46
- オーディオ機器で音声を聴きたい場合などに使います。

USB端子(録画専用) 55
- USBハードディスクをつないで録画･再生ができます。

ハードディスク専用LAN端子 59
- LANハードディスクをつないで録画･再生ができます。

LAN端子 29
- デジタル放送でイーサネット通信を使用した双方向サービスを利用する場合や、Eメールでの録画予約、アクトビラなどを利用する場合に使います。

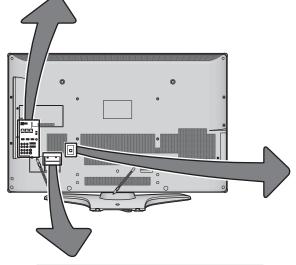
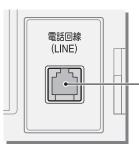
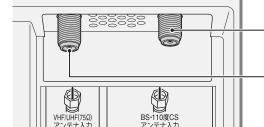
ひかりTV専用LAN端子 30
- 「ひかりTV」を視聴する場合に使います。

i.LINK端子 67
- i.LINK機器をつないで録画･再生ができます。

HDMI3アナログ音声入力端子 40 45
- HDMI入力3端子に接続した機器からアナログ音声を入力するときに使います。

HDMI入力1, 2, 3端子 40 44 45 46 49
- HDMI出力端子のある機器(レグザリンク対応機器など)をつなぎます。

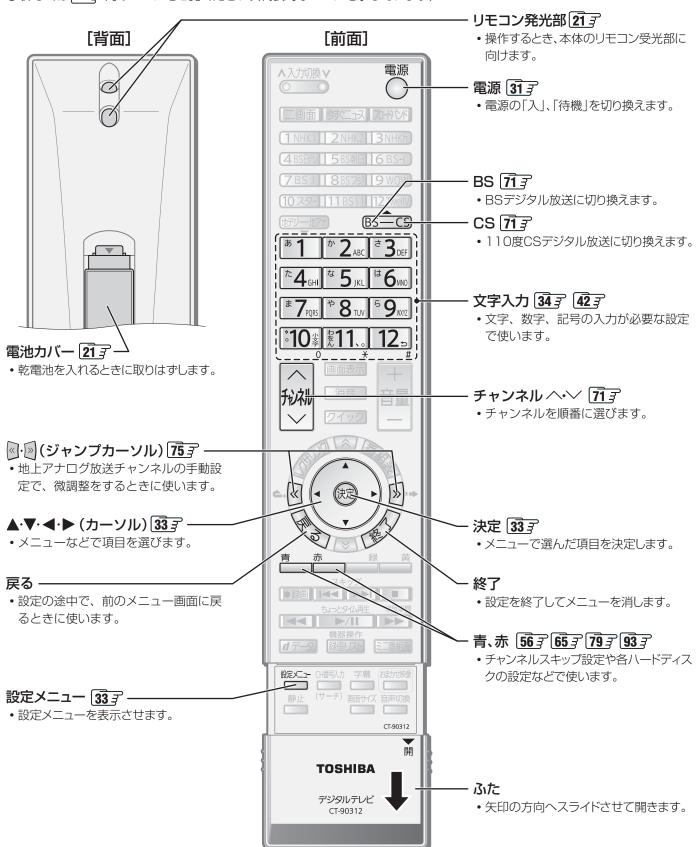
ビデオ入力1, 2, 3端子 39 40 41 43
- ビデオやDVDプレーヤー(レコーダー)などの映像機器をつなぎます。

デジタル放送録画出力端子 39 41 43 45
- ビデオやDVDレコーダーなどの録画機器をつないで、本機で受信したデジタル放送番組を録画できます。(地上アナログ放送、データ放送、ビデオ入力端子、HDMI入力端子からの映像音声などは録画できません)
- デジタル放送のほかに、内蔵ハードディスク、USBハードディスク、LANハードディスク、i.LINK機器の再生時や、ひかりTV、アクトビラビデオサービス視聴時の映像･音声を480iに変換したアナログ信号が出力されます。(二画面表示中には出力されません)
- S1映像出力端子からは、ワイド映像の識別信号も出力されます。

電話回線(LINE)端子 28
- デジタル放送で、電話回線を使用した双方向サービスを利用する場合に使います。

BS･110度CSアンテナ入力端子 27
- 衛星放送を視聴する場合にBS･110度CSアンテナをつなぎます。

VHF/UHF(75Ω)アンテナ入力端子 25
- 地上放送を視聴する場合にVHF/UHFアンテナをつなぎます。

各部のなまえ つづき

リモコン

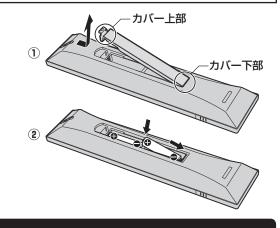
- 準備編で使用するリモコンのボタンと、そのおもな機能は以下のとおりです。(ボタンによっては、通常操作時と機能の異なるものがあります)
- イラストは、見やすくするために誇張、省略しており、実際とは多少異なります。
- 詳しくは 内のページをご覧ください。(代表的なページを示しています)

リモコンの準備

乾電池の入れかた

⚠注意	■ リモコンに使用している乾電池は、 ● 指定以外の乾電池は使用しない ● 極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない ● 充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない ● 火や直射日光などの過激な熱にさらさない ● 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない ● 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。 もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

● 単四形乾電池R03またはLR03を2個ご使用ください。

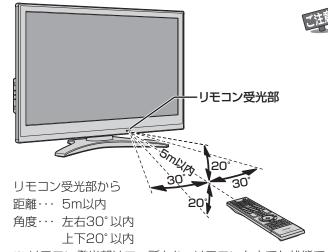
■カバーをはずし、乾電池を入れる

① カバーをはずすときは、カバー上部の▼部分を▼方向に押しながら、すくい上げます。
② 極性表示⊕と⊖を確かめて、間違えないように入れます。
● カバーを閉めるときは、カバー下部の突起をリモコン本体のみぞに差し込んで、パチンと音がするまでカバー上部を押し込みます。

リモコンの使用範囲

● リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用してください。
● リモコン受光部に強い光を当てないでください。(強い光が当たっていると、リモコンが動作しないことがあります)
● リモコン受光部とリモコンの間に障害物があると、動作しなかったり、動作しにくくなったりします。ご注意ください。

リモコン受光部から
距離･･･ 5m以内
角度･･･ 左右30°以内
上下20°以内

※ リモコン発光部は二ヵ所あり、リモコンを立てた状態でも操作できます。

ご注意

■リモコンについて
● 落としたり、振りまわしたり、衝撃などを与えたりしないでください。
● 水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。
● 分解しないでください。
● 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。

お願い

■ 乾電池について
● 乾電池の寿命はご使用状態によって変わります。リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら2個とも新しい乾電池と交換してください。
● 使用済の乾電池は、地方自治体またはお住まいの地域で定められた規則に従って廃棄してください。

テレビを設置する

● 設置の前に「安全上のご注意」6～12 を必ずお読みください。

⚠警告	■ 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する 万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。
⚠注意	■ 転倒・落下防止の処置をする 地震などでのテレビの転倒・落下によるけがなどの危害を軽減するために、転倒・落下防止の処置をしてください。

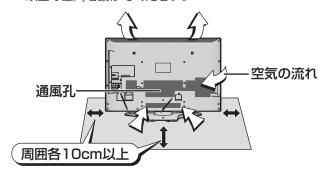
正しい置きかた

■ 丈夫で水平な安定した所に設置してください

■ テレビ台を使用する場合

● テレビ台の取扱説明書をご覧ください。

■ 周囲からはなして置いてください

● 通風孔をふさがないように本機の上および周囲に10cm以上の空間を設けてください。

転倒・落下防止のしかた

● 転倒・落下防止器具を取り付ける壁や台の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は、適当な補強を施してください。以下に記載した転倒・落下防止のしかたは、けがなどの危害の軽減を意図したものですが、すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。

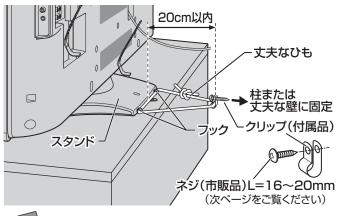
壁または柱などに固定するとき

● アンテナや他の機器などとの接続が済んでから固定してください。

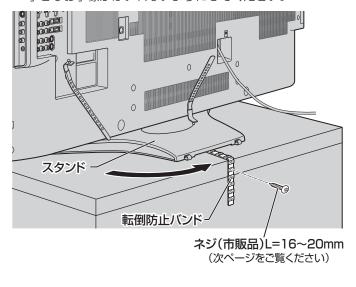
● スタンド背面のフックと付属のクリップを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもで固定してください。

● クリップはスタンド背面のフックと同じくらいの高さの場所にネジ（市販品）で取り付けてください。

※ 針金や鎖など金属製のものは、瞬間的な衝撃に対する柔軟性が乏しく、本機や柱などの取付部分が破損する原因となるので使用しないでください。

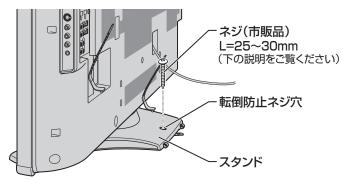
※ 移動するときは、ひもをはずしてください。

転倒防止バンドを使用して固定するとき

● スタンド底面の転倒防止バンドを後方に回転させて、設置する台の確実に支持できる背面にネジ（市販品）で固定してください。

※ 後方には倒れます。固定後は台を壁などに近づけて設置し、小さなお子様がはいれないようにしてください。

● 他のデジタル機器や電子レンジなどから出る電磁波によって、本機の映像が乱れたり、雑音が出たりする場合があります。相互に影響しない位置に設置してください。

転倒・落下防止のしかた つづき

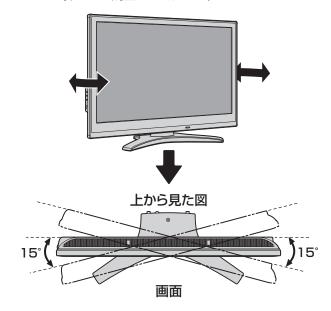
転倒防止ネジ穴を使用して固定するとき

- 転倒防止ネジ穴を使ってネジ(市販品)でスタンドを設置面にしっかりと固定します。
- 材質のしっかりした、十分に厚い場所に固定してください。

※ 固定後は、本機を押したり、持ち上げたりしないでください。破損の原因になります。

固定用のネジ(市販品)について

- 下図を参考に、固定する場所の状況に応じて、しっかりと固定できる長さのタッピングネジや木ネジをご使用ください。
- 頭の形状が❷:ナベ、❸:丸のネジは、固定部が変形・破損するおそれがあるので、ワッシャーを併用してください。
- 頭の形状が❹:ラッパ、❺:皿のネジは使用しないでください。
- ネジの太さは、公称3.8〜4.1mmのものをご使用ください。

本機を見やすい角度に調整するとき

- 42ZH7000、46ZH7000は、本体が左右方向に15°ずつ回転します。(前後方向には傾けられません)
- 見やすい角度に調整してお使いください。
  (本機がずれたり、倒れたりしないよう、スタンド部分をしっかり押さえて調整してください)

設置と基本の接続・設定

設置と基本の接続・設定

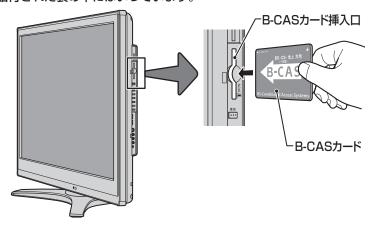
B-CAS(ビーキャス)カードを入れる

- 同梱のB-CAS(ビーキャス)カードは、デジタル放送の受信や「放送局からのお知らせ」の受信などに必要です。
  常に本体に入れておいてください。

※ お買い上げ時、B-CAS(ビーキャス)カードは本体背面に貼付された袋の中にはいっています。

● B-CASカードの絵柄面を本体の前面側に向けて、奥まで差し込みます。

※ 取り出すときは、B-CASカードをつかんで抜きます。

- 同梱のB-CAS(ビーキャス)カードの説明書についている「加入申込書用バーコードシール」は、受信契約をする際に加入申込書に必ず貼ってください。
- 「同梱のB-CAS(ビーキャス)カードについて」15も必ずお読みください。
- 説明書は、よくお読みのうえ、のちのお問い合わせ先確認などにそなえて、たいせつに保管してください。

アンテナの接続

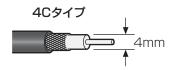
※ **アンテナ工事には技術と経験が必要です。アンテナの設置・調整については、お買い上げの販売店にご相談ください。また、アンテナの取扱説明書もよくお読みください。**

● アンテナや接続に必要なアンテナ線(同軸ケーブル)、混合器、分配器などは付属されておりません。機器の配置や端子の形状、使用環境条件などに合わせて適切な市販品を別途お買い求めください。

VHF/UHF用アンテナ線の端子を加工するとき

● VHF/UHF用アンテナ線の端子形状が本機のアンテナ入力端子の形状と合わないときは、アンテナ線を加工してF型コネクターを取り付けてください。

アンテナ線とF型コネクターについて

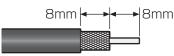
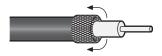
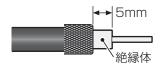
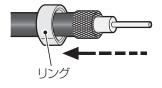
● 本機には4Cタイプおよび5Cタイプのアンテナ線用F型コネクター 5 が付属されています。

4Cタイプ

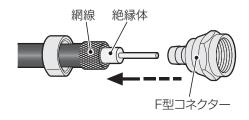
5Cタイプ

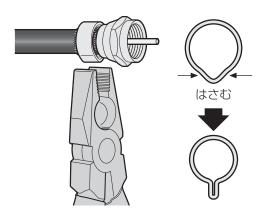
● ご使用のアンテナ線が4Cタイプまたは5Cタイプ以外の場合は、アンテナ線の太さに合った市販のF型コネクターを別途お買い求めください。

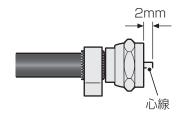
付属のF型コネクターの取り付けかた

● アンテナ線の太さに応じたF型コネクターをご使用ください。
● 市販のF型コネクターを使用する場合の加工方法は、F型コネクターに付属の説明書をご覧ください。

❶ アンテナ線の先端を下図の寸法に加工する

❷ 網線を折り返す

❸ 絶縁体を下図の寸法に加工する

❹ アンテナ線にリングを通す

❺ F型コネクターを差し込む

F型コネクターの管状の部分が、網線と絶縁体の間にはいるようにします。

❻ リングをペンチなどではさんで、しめつける

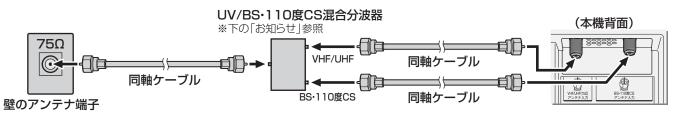
リングを網線の部分に移動してからはさみます。

❼ 心線の長さを調整する

心線の出寸法が約2mmになるところで切断します。

● 心線が長かったり、曲がっていたりすると、破損やショートなどの原因になります。
● 心線が短いと、接触不良の原因になります。

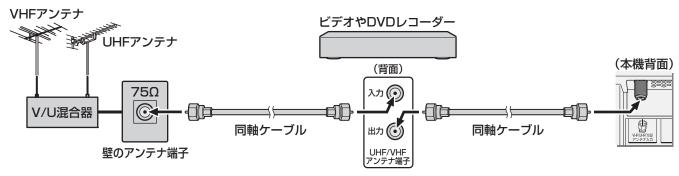
VHF/UHFアンテナ線のつなぎかた

- 接続するときは必ず本機および接続機器の電源を切り、電源プラグを抜いてください。
- 同軸ケーブル両端のコネクターのピンが曲がっていないか、確認してください。曲がったままでつなぐと、ショートすることがあります。
- 地上デジタル放送はUHFアンテナで受信します。UHFアンテナが設置されている場合はそのままで受信できることもありますが、状況によってはアンテナの交換やアンテナ方向の変更などが必要になる場合があります。

アンテナ線がVHF/UHF混合の場合（またはVHFだけ、またはUHFだけの場合）

マンションなどの共聴システムのとき（VHF/UHF/BS・110度CS混合のとき）

- 「はじめての設定」 32 のあとで「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給しない」に設定してください。詳しくは 70 をご覧ください。

ビデオやDVDレコーダーを経由したつなぎかた（壁の端子が75Ωでビデオなどの入力がV・U混合のとき）

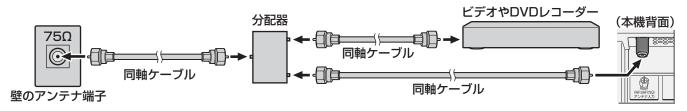
次のページにつづく

- VHF/UHFアンテナ線は同軸ケーブルをおすすめします。
  平行フィーダー線を使用すると受信状態が不安定になることがあり、妨害電波を受けやすくなります。
- やむをえず、平行フィーダー線を使用するときは、平行フィーダー線をBS・110度CSデジタル用アンテナケーブルから妨害を受けない距離まで離してください。（同軸ケーブルを使用する場合でも、妨害を受けるようであれば、BS・110度CSデジタル用アンテナケーブルから離してみてください）
- アンテナ線を他のデジタル機器に近づけないでください。受信障害の原因となることがあります。
- VHF、UHFアンテナは定期的な点検・交換をおすすめします。アンテナの設置場所は、屋外のため傷みやすく性能が低下します。特にばい煙の多い地域、温泉、海岸の近くでは傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

平行フィーダー線

■ 地上デジタル放送を受信する場合

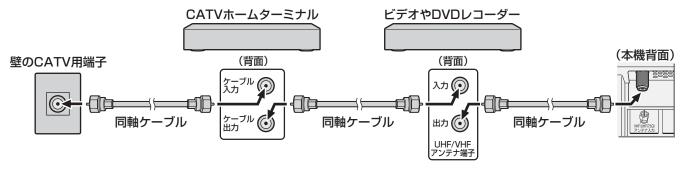
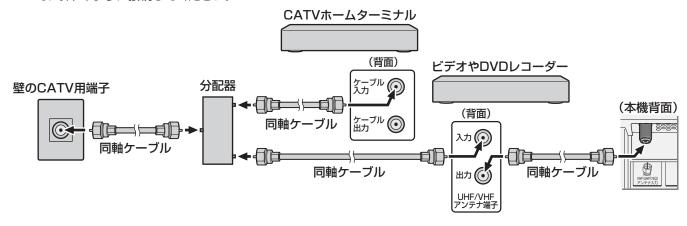
- 混合器、分波器、分岐器、ブースターなどを使用する場合は、地上デジタル放送の伝送チャンネルに対応したものを選び、妨害波の影響などを防ぐために空き端子には終端抵抗器（75Ω）を接続してください。（お買い上げの販売店にご相談ください）
- 一般的に地上デジタル放送はUHFアンテナで受信しますが、CATV（ケーブルテレビ）で伝送される場合や共聴システム（VHF帯、またはUHF帯）で伝送される場合もあります。詳しくは、共聴システム管理者（マンション管理者や管理組合など）や、お住まいの地域のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

アンテナの接続 つづき

分配器を使用したつなぎかた

VHFとUHFのアンテナ線がそれぞれ別になっているとき

● V/U混合器、形名HMX-77(別売品)などが必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

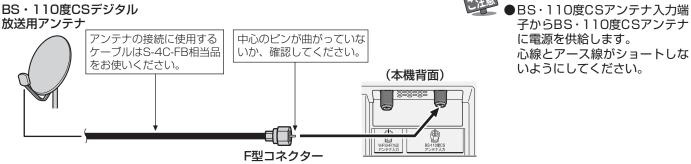
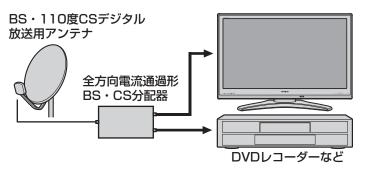
CATV(ケーブルテレビ)をご利用のとき

● CATVホームターミナルによっては端子の名称が異なる場合があります。接続方法や、地上デジタル放送の視聴についてなど、詳しくはご契約のケーブルテレビ会社にご相談ください。

● 地上デジタル放送のUHF電波が壁のCATV用端子に送られてきている場合でも、CATVホームターミナルによっては「ケーブル出力」端子にその電波が出力されないことがあります。その場合には、UHFに対応した市販の分配器を使用して、以下のように接続してください。

※ 本機のUHF/VHF(75Ω)アンテナ入力端子に地上デジタル放送の電波が入力されない場合は、本機の「今すぐニュース」の機能や、地上デジタル放送番組の録画・再生の機能は使用できません。

BS・110度CSデジタル用アンテナ線のつなぎかた

- 接続するときは必ず本機および接続機器の電源を切り、電源プラグを抜いてください。
- F型コネクターのピンが曲がっていないか、確認してください。曲がったままでつなぐと、ショートすることがあります。
- BSデジタル放送だけを視聴する場合はBSデジタル用アンテナを、110度CSデジタル放送も視聴する場合はBS・110度CSデジタル用アンテナをご使用ください。(以下、これらのアンテナをBS・110度CSデジタル用アンテナと記載します)
- アンテナをつないだあとにアンテナの方向調整 71ページ が必要です。(「はじめての設定」32ページ のあとで調整してください)
- 本機とBS・110度CSデジタル用アンテナの接続には、BS・CSデジタル対応のケーブル(S-4C-FB相当)をご使用ください。
- BS・110度CSデジタル放送用アンテナの取扱説明書もご覧ください。

BS・110度CSデジタル用アンテナをつなぐとき

ご注意
- BS・110度CSアンテナ入力端子からBS・110度CSアンテナに電源を供給します。
  心線とアース線がショートしないようにしてください。

BS・110度CSデジタル用アンテナ1台で、本機などBSや110度CS機器を2台以上つなぐ場合

BS・CS分配器をご使用の場合は全方向電流通過形分配器で、周波数2150MHzに対応したものをご使用ください。

- 2分配 CSG-D2B(別売品)など
- 3分配 CSG-D3B(別売品)など
- 4分配 CSG-D4B(別売品)など

※ BSや110度CS機器をつなぐときは、BSや110度CS機器付属の取扱説明書をご覧ください。

※ 将来、110度CSデジタル放送でチャンネルがふえた場合、ご使用のアンテナによっては分配器は使用できないことがあります。

アンテナ電源について

- BS・110度CSデジタル用アンテナは電源を必要とします。本機にはアンテナ電源を供給する機能がありますが、マンションなどの共聴システムや他の機器などから供給されている場合は、本機から供給する必要はありません。
  「はじめての設定」32ページ のあとで、お使いの条件に合わせて「BS・110度CSデジタル用アンテナ電源供給」70ページ の設定をしてください。

従来のBSアンテナについて

- 従来のBSアンテナでは110度CSデジタル放送は受信できません。また、多くのものはBSデジタル放送を受信できますが、一部には安定して受信できないものもあります。その際には、BSデジタル用、またはBS・110度CSデジタル用アンテナをご使用ください。

マンションなどの共同受信の場合

- お住まいのマンションの共同受信設備でBSデジタル放送や110度CSデジタル放送が受信できるかどうかは、マンションの管理会社や管理組合にご確認ください。
  既存の設備で受信できない場合には、BS・110度CSデジタル用アンテナの設置・接続が必要です。

■BS・110度CSデジタル用アンテナの設置について
- マンションなど共同住宅の場合は、出入口や避難設備にはアンテナを設置できません。また、避難通路や消防上必要な通路のじゃまにならない所に設置する必要があります。消防法、地方自治体の条例などに触れないように、ご注意ください。また、建物の管理者にもご相談ください。

- 110度CSデジタル放送を受信する場合でブースターやBS・CS分配器を使用する場合は、110度CSデジタル放送(周波数2150MHz以上)に対応したものをお使いください。対応していないものを使用した場合には、110度CSデジタル放送を受信できません。
- スカイパーフェクTV!用のアンテナでは、110度CSデジタル放送を受信することはできません。

電話回線の接続

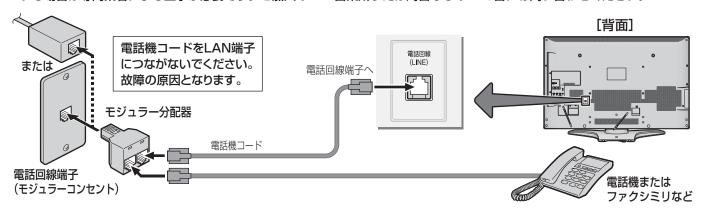
● デジタル放送で電話回線を使用した双方向サービス（クイズ番組への参加、通販番組での商品購入など）を利用する場合には、電話回線の接続をします。（地上デジタル放送では、番組によっては双方向サービスに電話回線によるダイヤルアップ通信を使用することがあります）

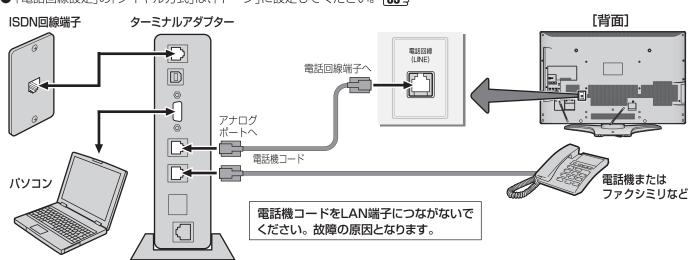
● **電話回線につないだ場合は、「はじめての設定」** 32ﾐ **のあとで「電話回線設定」** 83ﾐ **をしてください。**

※ ADSLモデムを電話回線につないでいる場合は次ページをご覧ください。

●電話機コードを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
●電話機コードを抜き差しするときは、プラグを持ってください。抜くときは、コードを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。（右図を参照）

モジュラーコンセントの場合の接続例

● **電話回線がモジュラーコンセントでない場合や、電話機の主装置、ターミナルボックス、ドアフォンなどが壁に埋め込まれている場合は専門業者による工事が必要です。ご加入のNTT営業所または局番なしの116番にお問い合わせください。**

ISDN回線の場合の接続例

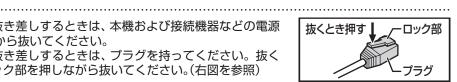
● ターミナルアダプターのアナログポートに本機を接続してください。（ターミナルアダプターの取扱説明書をご覧ください）
● 「電話回線設定」の「ダイヤル方式」は、「トーン」に設定してください。 83ﾐ

● 本機は公衆電話、共同電話、携帯電話、ビジネスホン、PHS、IP電話、ひかり電話などの回線には接続できません。ホームテレホンの場合は、ホームテレホンのメーカーにご相談ください。
● 本機の通信中は電話機やファクシミリは使用できません。逆に、電話機やファクシミリを使用中は、本機の通信はできません。キャッチホン契約の場合、本機の通信中に電話がかかってくると、本機の通信は終了します（キャッチホンⅡ契約の場合は終了しません）。
● 一部のダイヤル式電話機では、本機が通信をしているときに電話機の呼出音が鳴ることがあります。呼出音が鳴らないようにしたい場合は、市販の電話回線切換器をご使用ください。
● 電話回線に接続の際に工事が必要な場合は有料となります。電話工事には資格が必要です。無資格の方は工事できません。
● ノイズがはいると誤動作することがあります。冷蔵庫などのモーターを使った機器の近くに電話機コードを近づけないでください。

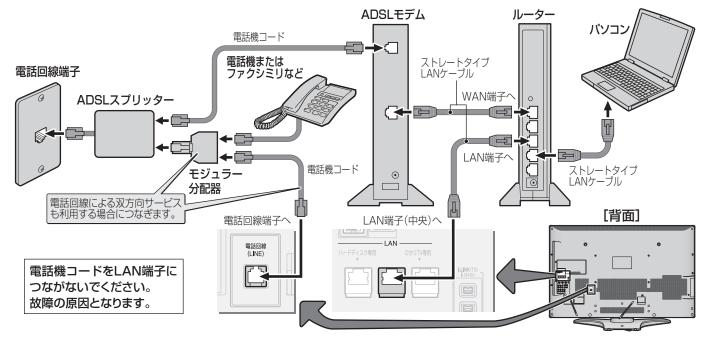
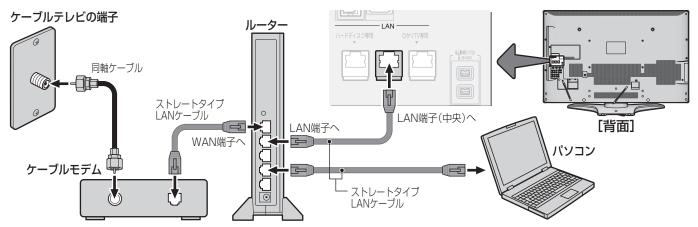
LAN端子の接続（1）～インターネット、アクトビラ～

- デジタル放送でイーサネット通信を使用した双方向サービスを利用する場合や、インターネット機能（操作編 68）、Eメールでの録画予約機能（操作編 35）、アクトビラ（操作編 63）、地上アナログ放送の番組表機能などを利用する際に、LAN端子（中央）からルーターとモデムを通して電話回線などを使ったインターネット回線に接続します。

※ **光回線を使用したインターネットを利用している場合のLAN端子（中央）の接続方法は、次ページをご覧ください。**

- **LAN端子の接続でご不明な点は、裏表紙に記載の「東芝 レグザ サポートセンター」にお問い合わせください。**
- **「LAN端子について」 31 もお読みください。**
- **LAN端子の接続をした場合は、「はじめての設定」 32 のあとで必要に応じて「通信接続設定」 86 ～ 87 をしてください。**

- LANケーブルや電話機コードを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- LANケーブルや電話機コードを抜き差しするときは、プラグを持ってください。抜くときは、コードを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。（右図を参照）

電話回線のADSLでインターネットを利用している場合の接続例

- デジタル放送で、電話回線を使用した双方向サービスも利用する場合は、図のように本機の電話回線端子への接続もしてください。（前ページの「電話回線の接続」もお読みください。また、この接続をした場合は、「電話回線設定」 83 もしてください）
- ADSLモデムとルーターが一体化されている場合もあります。それぞれの取扱説明書もよくお読みください。

ケーブルテレビインターネットを利用している場合の接続例

- 本機では、ルーターやルーター内蔵モデムの設定はできません。これらの機器によっては、パソコンでの設定が必要な場合があります。
- インターネットやEメールの利用には、ADSL、ケーブルテレビなどのインターネット回線事業者および接続業者（プロバイダー）との契約が必要です。契約、費用などについては、お買い上げの販売店、または接続業者などにご相談ください。
- 契約によっては、本機やパソコンなどの複数の端末機器を接続できない場合があります。ご利用の回線事業者にご確認ください。
- 本機はイーサネット通信でのみインターネットが利用できます。ダイヤルアップやISDNなどでは利用できません。

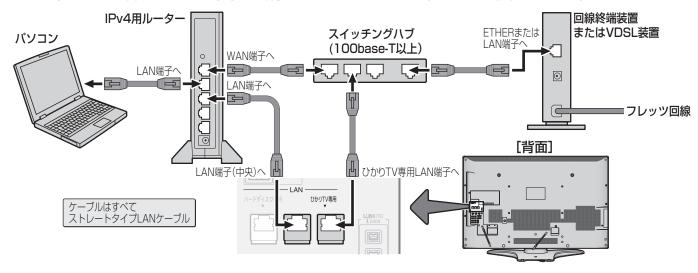
LAN端子の接続（2）~ひかりTV ~

● ひかりTVについては、操作編 65 をご覧ください。
● フレッツ回線を利用するには、NTTおよびプロバイダーとの契約が必要です。
● ひかりTVを視聴するには、あらかじめ申込みが必要です。

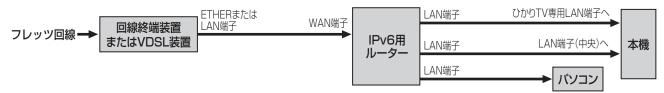
ひかりＴＶのお問い合わせ・お申し込みはこちらから	
お電話でのお問い合わせ	フリーダイヤル 0120-001144 ひかりTVカスタマーセンター　営業時間10:00～21:00　年中無休
ホームページ	http://www.hikaritv.net/

● 前ページ冒頭の説明とご注意、および次ページの内容もお読みください。
● **接続が終了したら、「はじめての設定」32 のあとで「IPTV設定」90 をしてください。**

一般的な接続の例

● 下図の接続の場合、パソコンではIPv6サービスは利用できません。
● **IPv4用ルーターを本機のひかりTV専用LAN端子につながないでください。（ひかりTVを視聴できません）**

IPv6用ルーターを使用する場合（参考接続例）

● 下図の接続の場合、ネットワークに接続した機器の動作状況によっては、ひかりTVを正常に視聴できない場合があります。（例：パソコンで大容量のファイルをダウンロードしている場合など）

プロバイダーがサービスしているIP電話を使用する場合（参考接続例）

● 集合住宅（マンションなど）でPNA装置を使用している場合は、IPTVの視聴はできません。
● 本機ではルーターの設定はできません。ルーターによってはパソコンでの設定が必要な場合があります。
● 以下について詳細は、NTT東日本、またはNTT西日本にお問い合わせください。
  • フレッツ回線を用いて通常のインターネット接続をするには、PPPoEに関する項目をルーターに設定する必要があります。
  • パソコンでIPv6サービスを使用する際の制限事項。
● IPTVを視聴中にパソコンなどでインターネットを使用すると、IPTVの映像や音声が乱れることがあります。

LAN端子について

● 「LAN端子の接続(1)」29、「LAN端子の接続(2)」30、「東芝レコーダーをつなぐ」の「ルーターを通してつなぐ」43 をする場合には、以下をお読みください。

お知らせ

● イーサネット通信機能は、本機が動作状態のときにだけ使用できます。
● プロバイダー（インターネット接続事業者、以下同じ）側の設定や制限によっては、LAN機能の一部が使用できない場合があります。
● ADSLを利用するには、ADSLモデムが必要です。通信事業者やプロバイダーが採用している接続の方式や契約の約款などによって、本機を使用できない場合や、同時接続する台数に制限や条件がある場合があります。（契約が一台に制限される場合、すでに接続されているパソコンがあると、本機を二台目として接続することが認められていないことがあります）
● LANケーブルは、カテゴリ5（CAT5）と表示された規格以上のものをご使用ください。アクトビラビデオ、ひかりTVをご利用の場合には、カテゴリ3と表示されたケーブルでは、正しく視聴できない場合があります。
● ご使用のモデムなどによっては、正常に通信できない場合があります。
● 29、30、43 で図示した以外の機器が接続されているときは、正常に通信できない場合があります。
● ルーターなどが正しく設定されていない回線に本機のLAN端子を接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。

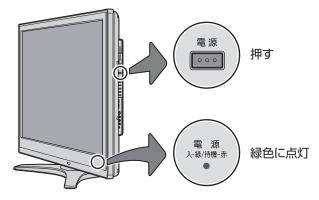
お願い

● 通信事業者およびプロバイダーとの契約費用および利用料金などは、お客様ご自身でお支払いください。
● 以下の場合やご不明な点は、ご契約のADSL回線事業者やケーブルテレビ会社、プロバイダーにお問い合わせください。
- ご契約によっては、本機やパソコンなどの機器を複数接続できないことがあります。
- 一部のインターネット接続サービスでは、本機を利用できないことがあります。
- プロバイダーによっては、ルーターの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
- ADSL回線の状況によっては、うまく通信できないことがあります。
- ADSLモデムやケーブルモデムについてご不明な点など。

電源を入れる

1 電源プラグをコンセントに差し込む

● 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
● 番組情報を取得するために、電源プラグは非常時と長期間使用しないとき以外はコンセントに差し込んでおいてください。

2 本体右側面の電源ボタンを押す

● 電源がはいり、本体前面の「電源」表示が緑色に点灯します。
● もう一度本体の電源ボタンを押すと、電源が切れます。
● 画面左上に 処理中 が表示されている間は、ハードディスクの機能は使用できません。

はじめて電源を入れたとき

● 「はじめての設定」の画面が表示されます。
次ページの内容をお読みのうえ、33～35 の手順に従って設定してください。

リモコンで電源を入/待機にするには

● 電源「入」の状態でリモコンの 電源 を押すと待機状態になり、「電源」表示が赤色に点灯します。
● 「待機」のときにリモコンの 電源 を押すと電源がはいり、「電源」表示が緑色に点灯します。

はじめての設定をする

● 本機を使えるようにするための基本的な設定をまとめて行います。
● 設定項目は下表のとおりです。
「はじめての設定」は何度でもできますが、やり直した場合は、下表の各設定項目ごとにそれまでに設定していた内容（特に、地上アナログ放送や地上デジタル放送のチャンネルを手動で設定した内容）は消去されますのでご注意ください。双方向サービスの情報（お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数など）は消去されません。

設定項目	内　容
地上アナログ/デジタル放送チャンネル設定	地上アナログ放送と地上デジタル放送のチャンネル設定を同時に行います。 また、地域の設定もします。
↓	
今すぐニュース設定	「今すぐニュース」機能を使うための設定です。
↓	
郵便番号の設定	お住まいの地域に密着したデータ放送（たとえば、天気予報や選挙速報など）や緊急警報放送を視聴したり、電話回線での通信をもよりのアクセスポイントで利用するための設定です。
↓	
室内環境設定	映像メニューの「おまかせ」をより効果的に働かせるために、室内の照明環境を設定します。

■「地上アナログ/デジタル放送チャンネル設定」について
● 地上アナログ放送の場合
入力された地方、地域に応じて、リモコンの地上ダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 に自動的にチャンネルが設定されます。
自動設定される内容については「地上アナログ放送の自動設定一覧表」（104 ～ 111）をご覧ください。
● 地上デジタル放送の場合
「初期スキャン」33 （または 73 ）をすることで、本機が地上デジタル放送の受信できるチャンネルを探し、リモコンの地上ダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 に自動設定します。
自動設定は、入力された地方、地域と実際に受信できたチャンネルの情報をもとに、放送システム上の規定などに従って行われます。
初期スキャンは（VHF1 ～ 12）→（UHF13 ～ 62）→（CATV13 ～ 63）の順で行われます。
※ 自動設定された内容の確認や変更をしたい場合は「手動設定」75 で行ってください。
※ 初期スキャンによってチャンネルが設定されても、電波が弱い場合には正常に受信できないことがあります。

■ 地方と地域の設定について
● チャンネルの自動設定は、33 の手順**4** ～ **6**で設定された地方、地域に基づいて行われます。
34 の郵便番号でも地域を設定しますが、それは地域に密着したデータ放送（たとえば、天気予報や選挙速報など）を視聴したり、電話回線での通信をもよりのアクセスポイントで利用したりするための設定であり、34 の手順**4** ～ **6**の設定とは別のものです。

■ 新たに開局したチャンネルを追加登録したいとき
● 地上デジタル放送の放送局が新たに開局した場合や、中継局が新設されるなどしてチャンネルがふえたなどの場合は、「自動設定」の「再スキャン」74 をしてください。新たに受信できたチャンネルが追加設定されます。

地上アナログ／デジタル放送チャンネル設定

● 地上アナログ放送と地上デジタル放送のチャンネルを同時に設定します。また、データ放送の地域も同時に設定します。
● 詳しい動作については前ページの「お知らせ」をご覧ください。
※ B-CASカードが挿入されていないと「はじめての設定」ができません。あらかじめご確認ください。23

※ **はじめて電源を入れたときは、手順2から操作してください。**

1 以下の操作で「はじめての設定」の説明画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「はじめての設定」を選び、決定を押す

はじめての設定

ここでは、デジタル放送を受信するのに必要な設定を下記の順に行います。アンテナの接続とB－CASカードが挿入されていることを確認してください。また、それぞれの設定方法は、各画面の説明および取扱説明書をご覧ください。

地上アナログ／デジタル放送チャンネル設定
↓
今すぐニュース設定
↓
郵便番号の設定
↓
室内環境設定

2 画面の説明を読んで、決定を押す

● 「地上アナログ/デジタル放送チャンネル設定」の説明画面が表示されます。

3 画面の説明を読んで、決定を押す

● 地方を選ぶ画面が表示されます。

4 お住まいの地方を▲･▼･◀･▶で選び、決定を押す

はじめての設定　地上アナログ放送チャンネル設定

お住まいの地方を選んでください。

北海道	東北	関東
甲信越	中部	近畿
中国	四国	九州・沖縄

5 お住まいの都道府県を▲･▼･◀･▶で選び、決定を押す

● 地域を選ぶ画面が表示されます。

6 お住まいの地域を▲･▼･◀･▶で選び、決定を押す

● お住まいの地域名が表示されないときは、近くの地域名を選びます。

7 表示された地上アナログチャンネル一覧の内容を確認して、決定を押す

8 画面の説明を読んで、以降の操作をする

はじめての設定　地上デジタル放送チャンネル設定

続いて地上デジタルの初期スキャンを行います。初期スキャンは終了するまでに数分かかります。

地上デジタルの初期スキャンを行いますか？

はい　いいえ

ここで初期スキャンをスキップした場合は、後ほどメニューの初期スキャンを行ってください。

地上デジタル放送の初期スキャンをする場合

❶ ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す
● 初期スキャンが自動的に始まります。終了するまでしばらくお待ちください。
● 初期スキャンが終わったら、次は手順9に進みます。
● 以下の画面が表示された場合は、「データ放送用メモリーの割当て」37をしてください。「データ放送用メモリーの割当て」が終了すると、次は手順9に進みます。

はじめての設定　地上デジタル放送チャンネル設定

放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。メモリーを割り当てたい放送局を９つ選んでください。

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
☑ 6	―――	×	あり
☑ 7	テレビ東京	○	あり
☑ 8	―――	×	あり
☑ 9	―――	×	あり
☑ 10	―――	×	あり

選択した放送局の数：１２

初期スキャンをあとでする場合

❶ ◀･▶で「いいえ」を選んで決定を押し、「今すぐニュース設定」(手順10)に進む
● あとで「自動設定」の「初期スキャン」73をしてください。

設置と基本の接続・設定

はじめての設定をする つづき

9 下図の画面が表示されたら、以降の操作をする

はじめての設定　地上デジタル放送チャンネル設定
初期スキャンを終了しました。
設定内容を確認しますか？
はい　いいえ

❶ ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す
● 設定内容の確認画面（下図例）が表示されます。

はじめての設定　地上デジタル放送チャンネル設定

リモコン	チャンネル	放送局
1	テレビ	NHK総合・東京
2	テレビ	NHK教育・東京
3	–––	
4	テレビ	日本テレビ
5	テレビ	テレビ朝日
6	テレビ	TBS

❷ 設定内容を確認して決定を押し、「今すぐニュース設定」（手順10）に進む
● これで、地上デジタル放送チャンネルの自動設定が終了しました。
● チャンネルの欄が「–––」となった場合は、放送がないか、または受信できなかったことを示します。
● 設定された内容を変更したい場合は、「はじめての設定」がすべて終了したあとで、「手動設定」76で行ってください。

今すぐニュース設定

● 「今すぐニュース」は、リモコンの今すぐニュースを押すだけで、自動録画されたニュース番組を再生して見ることができる機能です。詳しくは、操作編の34をご覧ください。
● ここでは、**録画するニュース番組の自動登録をします。**
ここで登録しないで、「はじめての設定」終了後に「内蔵ハードディスク設定」93の「今すぐニュース番組登録」で登録することもできます。
※ 番組編成は変更になることがあります。その場合は「内蔵ハードディスク設定」93の「今すぐニュース番組登録」で変更してください。

10 画面の説明を読んで、以降の操作をする

はじめての設定　今すぐニュース番組登録
「今すぐニュース」は、登録された日時に新しいニュース番組を自動的に録画し、いつでも見ることができる機能です。
自動登録を行うとこれまでの登録内容は変更されます。
「今すぐニュース設定」の自動登録を行いますか？
はい　いいえ

■「今すぐニュース番組」の自動登録をする場合

❶ ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す
■ 以下のメッセージが表示された場合

内蔵ハードディスクの残量が不足しているため、
設定できません。
決定を押す

● 内蔵ハードディスクの残量を確認し、録画ができるように不要な番組を削除してください。（操作編46）

❷ 自動登録内容の画面（下図例）が表示されたら、確認して決定を押す

はじめての設定　今すぐニュース番組登録

1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～土	AM 6:00～AM 6:30
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(日)	AM 6:00～AM 6:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～金	PM 0:00～PM 0:20
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(土)	PM 0:00～PM 0:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(日)	PM 0:00～PM 0:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎　日	PM 7:00～PM 7:30
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月～金	PM 9:00～PM10:00

● 「新規登録」や取消しをしたい場合は、あとで「内蔵ハードディスク設定」93の「今すぐニュース番組登録」をしてください。
● 次は手順**11**に進みます。

■「今すぐニュース」の自動登録をしない場合

❶ ◀・▶で「いいえ」を選んで決定を押し、手順11に進む

郵便番号の設定

● お住まいの地域に密着したデータ放送（天気予報・選挙速報など）の視聴や、電話回線を通しての双方向サービスを、もよりのアクセスポイント（接続中継点）で利用するための設定です。
● 郵便番号を設定することで、地域が指定されます。

11 お住まいの地域の郵便番号を 1 ～ 10(0) で入力し、決定を押す

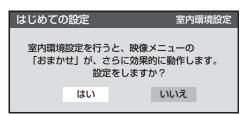
● 間違えて入力したときは、◀でカーソルを戻してからもう一度入力します。

はじめての設定　郵便番号の設定
デジタル放送では、それぞれの地域に適した番組を放送する場合があります。この設定をすることによって、お住まいの地域に適した番組を視聴することができます。
お住まいの郵便番号を入力してください。
1 0 5 - 0 0 2 3

■ 郵便番号の設定について
● データ放送の視聴中に郵便番号の設定を変更した場合、設定を有効にするには設定終了後にデータ放送を選局し直してください。
● 郵便番号入力で、上3ケタを入力して決定を押すと残りの4ケタは自動的に「0」が入力されます。

室内環境設定

● 本機の「映像メニュー」には、テレビを見る室内の照明環境などに応じて自然で見やすい映像に自動調整する「おまかせ」があります。ここでは、「おまかせ」をより効果的に働かせるための設定をします。

12 設定する場合は◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

■ 室内環境設定をしない場合

❶ **◀･▶で「いいえ」を選んで決定を押し、手順14に進む**

● 必要になったときに「室内環境設定」 92ページ をしてください。

13 ◀･▶で照明の色（「電球色（暖かい白）」または「蛍光灯色（クールな白）」）を選び、決定を押す

はじめての設定　室内環境設定
部屋の照明色を選択してください。
電球色（暖かい白）　蛍光灯色（クールな白）

- **電球色（暖かい白）**…室内の照明が白熱灯（電球）や電球色の蛍光灯の場合に選びます
- **蛍光灯色（クールな白）**…室内の照明が蛍光灯の場合に選びます（蛍光灯のタイプが電球色の場合は「電球色」を選んでください）

※ 照明のタイプがわからない場合は、「電球色」を選んでください。

14 設定完了の画面が表示されたら、内容を確認して、決定を押す

● これで「はじめての設定」は終了です。

はじめての設定をする つづき

■「はじめての設定」や「地上アナログ自動設定」72 をしても地上アナログ放送を正しく受信できない場合

● アンテナの種類（チャンネル1～12はVHF、13～62はUHF）や向きが、設定した地域・都市名の条件に合っていることを確認してください。

● 複数の地域・都市名が隣接する地域にお住まいの場合は、地域・都市名を変えて設定すれば受信状態が改善されることがあります。
例：お使いになる地域が「横浜みなと」の場合は「横浜・川崎」または「平塚・茅ケ崎」など。
このような場合は、次のようにして設定します。

❶ 近隣の別の地域・都市にアンテナの種類や向きを合わせる
● お買い上げの販売店にご相談ください。

❷「自動設定」の「地上アナログ放送の場合」72 の手順1～4の操作をする

❸ 手順5で、アンテナを向けた地域・都市名を選び、決定を押す

■ 上記の対処をしても地上アナログ放送の一部のチャンネルが正しく受信できない場合

❶「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」75 の手順1～2の操作をする

❷ 手順3で、該当する「リモコンボタン」を選び、手順4の❶でほかに受信できる「チャンネル」を選んで、決定を押す

例：地域・都市名を「横浜・川崎」に設定した場合で、リモコンボタン7に割り当てられている「テレビ神奈川」「42CH」だけが正しく受信できないときは、隣接地域の「48CH」（横浜みなと）や「46CH」（小田原）などに変えてみて、正しく受信できるところを探します。

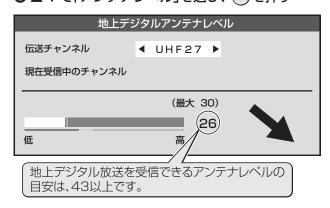
手動設定	地上アナログ
リモコンボタン	7
チャンネル	◀ 48 ▶
表示	地アナ42
放送局	TVKテレビ
受信地域	―――

■「はじめての設定」をしても地上デジタル放送が正しく受信できないとき

● 正しく受信できないチャンネルで以下の操作をして、アンテナレベルの数値を確認してください。

❶ クイック を押す

❷ ▲・▼で「その他の操作」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「アンテナレベル」を選び、決定を押す

❹ アンテナレベル」を確認したら、終了を押す

● アンテナレベルが低い場合は、アンテナが正しく接続されているかご確認ください。

● 症状が改善されない場合は、アンテナの交換や方向調整が必要になることがあります。お買い上げの販売店にご相談のうえ、「地上デジタル用アンテナの方向調整」70 を参照して、アンテナレベルを確認しながらアンテナの方向を調整してください。

● CATVをご利用の場合やマンションなどの共聴システムをご利用の場合は、パススルー方式での地上デジタル放送受信に対応しているか、ご契約のCATV会社や共聴システムの管理者にそれぞれお問い合わせください。

データ放送用メモリーの割当て

- 33 の手順8や、「初期スキャン」 73 の手順4などで、データ放送用メモリーの割当画面が表示されたときには、以下の手順で設定します。

■ 個人の情報とデータ放送用メモリーの割当てについて

- 地上デジタル放送では、放送局ごとに視聴者個人の情報（たとえば、視聴ポイント数など）を利用したサービスが行われる場合があり、本機はその情報を放送局ごとに本機内のデータ放送用メモリーに記憶しています。
  通常、メモリーは足りていますが、たとえば、引越しをした場合で、以前受信していた放送局の設定が残っていたときなどには、放送局の数が本機のメモリーの数を超えてしまうことがあります。
  その場合には、初期スキャン時などに、データ放送用メモリーの割当画面（下の手順1の画面）が表示されますので、以下の操作でメモリーを割り当てる放送局を設定してください。
  メモリーを割り当てなかった放送局については、個人の情報がすべて消去されますのでご注意ください。

1 メモリーを割り当てる放送局を▲・▼で選び、決定を押す

- 選んだ放送局にチェックマーク「✓」がつきます。
  もう一度決定を押すと、指定が取り消されます。
- リモコンの 1 ～ 12 に設定されている放送局（放送局名表示の左側に1 ～ 12の数字が表示されています）については、メモリーが割り当てられるように自動的に設定されています。設定を取り消すことはできません。
- **このあと、手順2～4の操作をすると、メモリー割当ての指定をしなかった放送局の個人の情報はすべて消去されます。**
  消去された情報は元に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定の場面によって名称が変わります。

初期スキャン

放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。
メモリーを割り当てたい放送局を９つ選んでください。

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
▲ ☑１１	テレビ埼玉	○	あり
☑１２	テレビ東京	○	あり
☐－－	－－－	○	あり
☐－－	－－－	○	あり
▼ ☐－－	－－－	○	あり

選択した放送局の数：12

2 手順1を繰り返し、九つの指定をする

- 1 ～ 12 については自動的に設定されます。それらを除いた九つを指定します。

3 ▶を押す

- 手順4の画面になります。（確認メッセージが表示されます）
- 九つよりも多い場合や少ない場合には、その旨のメッセージが表示されます。
  決定を押したあと、手順1～2の操作で九つの指定をしてください。

4 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

- 指定した放送局についてデータ放送用メモリーが割り当てられ、このページの設定をする前の場面に自動的に戻ります。
  指定以外の放送局の個人の情報はすべて消去されます。

初期スキャン

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
▲ 5	TOKYO　MX	○	あり
6	TBS	○	あり
▼ 7	TVKテレビ	○	あり

メモリーを割り当てる放送局は上記でよろしいですか？

はい　　いいえ

メモリーを割り当てなかった放送局に関するデータはすべて消去されます。消去されたデータは元に戻すことができませんのでご注意ください。

5 このページの設定をする前の操作を続ける

- 「はじめての設定」の中の「初期スキャン」の場合
  34 の手順9へ
- 「初期スキャン」の場合
  「初期スキャン」 73 の手順5へ
- 「再スキャン」の場合
  「再スキャン」 74 の手順2または手順3へ

お知らせ
- 個人の情報を消去するには、「すべての初期化」をしてください。 95

本機に接続できる外部機器一覧

● 本機に接続できるおもな外部機器は以下のとおりです。接続や設定のしかたはそれぞれの参照ページをご覧ください。

● 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。
● 他の機器を接続するときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
● 録画または録音したものは個人的に楽しむほかは、著作権法によって権利者に無断で使用することはできません。
● DVDプレーヤーやデジタルチューナーなどのコピー制御のかかった映像を出力する機器を、ビデオやAVシステム機器（AVアンプなど）を経由して本機につなぐと、コピー制御が働き映像が乱れる場合がありますので、レグザリンク対応のAVシステム機器を経由する場合（46）を除いて直接本機につないでください。

テレビ（本機）

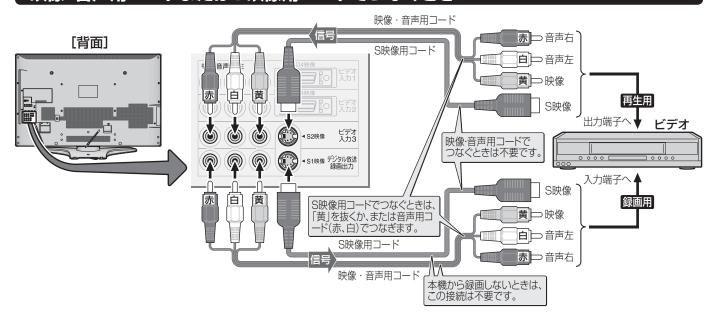
接続できる外部機器	参照ページ
ビデオ	接続 39 設定 51、53
DVDプレーヤー	接続 40 設定 53
東芝レコーダー	接続 41、43 設定 42、44、51～53
東芝製以外のDVDレコーダー	接続 45 設定 51、53
オーディオ機器	接続 46 設定 47
ビデオカメラレコーダー	接続 48 設定 52、53
ゲーム機	接続 49 設定 53
パソコン	接続 49 設定 52、53
USB機器 ・USBキーボード ・メモリーカードリーダー ・デジタルカメラ ・USBメモリー	接続 50
USBハードディスク	接続 55 設定 56～57
LANハードディスク	接続 58～60 設定 65～66
DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバー	接続 60 確認 64
i.LINK端子付き機器 ・D-VHSビデオ ・ハードディスクビデオレコーダー	接続 67～68 設定 69

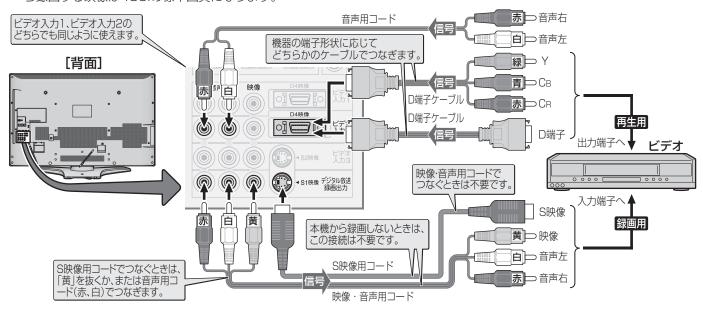
お願い

● 接続機器の音声出力がモノラルのときは、市販のステレオ／モノラル変換コードをご使用ください。

ビデオをつなぐ

● 本機のデジタル放送録画出力端子とビデオの外部入力端子をつなげば、本機で受信したデジタル放送をビデオで録画することができます。(録画や録画予約については操作編の「録画・予約をする」28 をご覧ください)
● DVDプレーヤーやデジタルチューナーなどのコピー制御のかかった映像を出力する機器を、ビデオやAVシステム機器(AVアンプなど)を経由して本機につなぐと、コピー制御が働き映像が乱れる場合がありますので、直接本機につないでください。
● 接続後は必要に応じて「デジタル放送録画出力設定」51、「録画再生設定」の「ダイレクト録画時間」51、「外部入力設定」53 をしてください。

映像・音声用コードまたはS映像用コードでつなぐとき

D端子ケーブルでつなぐとき (D端子付ビデオ)

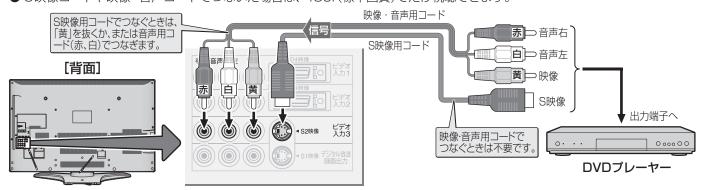
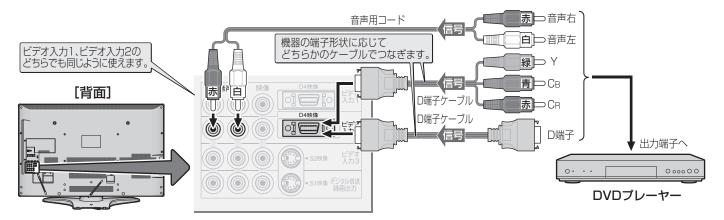
● D端子ケーブルでつなげばD-VHSビデオのハイビジョン映像も視聴できます。ただし、本機のデジタル放送録画出力端子から録画する映像は480iの標準画質になります。

● ビデオ入力1、2のD4映像入力端子と映像入力端子の両方につないだ場合は、D4映像入力端子が選択されます。
● ビデオ入力3のS2映像入力端子と映像入力端子の両方につないだ場合は、S2映像入力端子が選択されます。
● 本機のD4映像入力端子が対応している映像信号　コンポーネント映像信号480i、480p、720p、1080i

■ **デジタル放送録画出力端子について**
● デジタル放送録画出力端子からは、「デジタル放送録画出力設定」51 に従って映像・音声の信号が出力されます。
● 自動録画機能(映像信号の入力を検出して自動録画をする機能)のある録画機器の場合には、「デジタル放送録画出力設定」を「録画時出力」に設定すれば、本機の操作や予約で録画機器に録画することができます。
● 自動録画機能のない録画機器の場合には、本機の操作や予約のほかに録画機器側でも録画の操作や録画予約の設定をしてください。

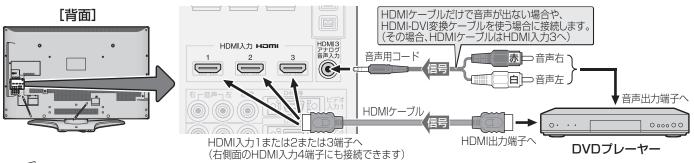
DVDプレーヤーをつなぐ

● 必要に応じて「外部入力設定」53 の設定をしてください。
※ 本機の超解像処理と同様の高画質機能を備えた機器をつないだ場合、本機の機能との相乗効果で画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、接続機器の高画質機能または本機の超解像処理（操作編 80）をオフにしてください。

S映像用コードまたは映像・音声用コードでつなぐとき

● S映像コードや映像・音声コードでつないだ場合は、480i（標準画質）でだけ視聴できます。

D端子ケーブルでつなぐとき

HDMIケーブルでつなぐとき

● HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。また、1080pの映像信号を入力する場合は、High Speed HDMI™ Cableをご使用ください。（一般のHDMIケーブルでは、正常に動作しないことがあります）
● HDMIケーブルだけで音声が出ない機器の場合や、HDMIケーブルのかわりにHDMI-DVI変換ケーブルを使う機器の場合は、HDMI入力3端子につなぎ、HDMI3アナログ音声入力端子に音声用コードもつないでください。

お知らせ

● ビデオ入力1、2のD4映像入力端子と映像入力端子の両方につないだ場合は、D4映像入力端子が選択されます。
● ビデオ入力3のS2映像入力端子と映像入力端子の両方につないだ場合は、S2映像入力端子が選択されます。
● 本機のD4映像入力端子が対応している映像信号　コンポーネント映像信号480i、480p、720p、1080i

■ HDMI入力端子について
- 本機にはHDMIおよびDVI機器を接続できますが、接続する機器によっては映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- 本機のHDMI入力端子が対応している映像信号　480i、480p、720p、1080i、1080p
- 本機のHDMI端子が対応している音声信号　リニアPCM、MPEG-2 AAC　サンプリング周波数：48kHz／44.1kHz／32kHz
ドルビーデジタル　サンプリング周波数：48kHz
- この製品はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- DVDなどの再生時に、音声の出始めが少し途切れることがありますが、これはデジタル信号の判定のためで故障ではありません。

東芝レコーダーをつなぐ

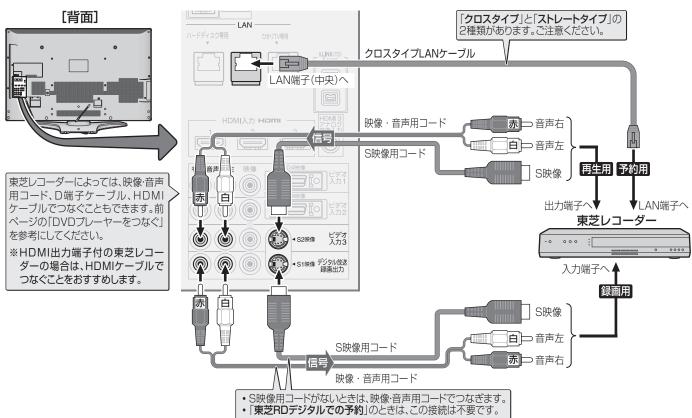
※ レグザリンク対応の東芝レコーダーをつなぐ場合は、「レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合」44をご覧ください。

「テレビdeナビ予約」をする場合

- 本機から東芝レコーダーに「テレビdeナビ予約」をする場合のつなぎかたです。
  「テレビdeナビ予約」は、本機（テレビ）で録画予約をすれば東芝レコーダーに自動的に録画予約される機能です。本機で予約設定した情報は、LANケーブルを使って東芝レコーダーに送られます。
- 「テレビdeナビ予約」には以下の二つの種類があります。
  - ■ **東芝RDアナログでの予約**
    本機（テレビ）のデジタル放送録画出力端子からの信号を録画します。（ハイビジョン画質での録画はできません）
  - ■ **東芝RDデジタルでの予約**
    東芝レコーダーで受信したデジタル放送（テレビ放送のみ）を録画します。（デジタルチューナーを内蔵した東芝レコーダーの場合にできます）
- 録画や録画予約については操作編の「録画・予約をする」28をご覧ください。

本機と東芝レコーダーのLAN端子を直接つなぐ

- 本機のLAN端子と東芝レコーダーのLAN端子を直接つないで録画予約をする方法です。「LAN端子の接続（1）」29をしていない場合で、東芝レコーダーが１台の場合にできるつなぎかたです。
- 接続後は次ページの設定をしてください。また、必要に応じて「録画再生設定」の「ダイレクト録画時間」51と「外部入力設定」53をしてください。

- LANケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。本機と東芝レコーダーを直接つなぐ場合には、クロスケーブルをご使用ください。
- 「LAN端子の接続」28の「ご注意」もお読みください。

- 本機の「テレビdeナビ予約」で録画予約ができる東芝レコーダー　－2008年9月現在－
  形名：RD-X6、RD-XD71、RD-XD91、RD-XV81、RD-XD72D、RD-XD92D、RD-T1、RD-A1、RD-E160、RD-E300、RD-A300*、RD-A301*、RD-A600*、RD-S300、RD-S301*、RD-S600、RD-S601*、RD-E301*、RD-W300、RD-W301、RD-X7*、RD-S502*、RD-S302*、RD-E302*
  ※ *印はレグザリンク対応の機種です。「レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合」44をご覧ください。
  ※ 以下の機種は「東芝RDアナログでの予約」だけができます。
  形名：RD-XS24、RD-X3、RD-XS31、RD-XS34、RD-XS36、RD-XS37、RD-XS38、RD-X4、RD-X4EX、RD-XS40、RD-XS41、RD-XS43、RD-XS46、RD-X5、RD-XS53、RD-XS57、RD-XV34、RD-XV44、RD-H1、RD-H2、RD-XS48
- 「デジタル放送録画出力設定」51は、どれに設定してもかまいません。

東芝レコーダーをつなぐ つづき

直接つなぐ場合の設定をする

● 前ページの接続をした場合の設定です。東芝レコーダーと本機の電源を入れて、以下の設定をしてください。

東芝レコーダーの「ネットワーク設定」(または「イーサネット設定」)をする

● この手順は、東芝レコーダー側の設定です。
東芝レコーダーの取扱説明書を参照して、以下の設定をしてください。

❶「ネットワーク設定」(または「イーサネット設定」)画面にする

❷以下を設定して保存する

項　目	設定内容
本体名	※ 設定内容を確認し、メモする メモした内容は、右の「テレビdeナビ設定」で使います。
本体ユーザー名	
本体パスワード	
本体ポート番号	
DHCP	使わない
IPアドレス	192. 168. 1. 15
サブネットマスク	255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ	192. 168. 1. 1
DNSサーバー	192. 168. 1. 1

本機の「LAN端子設定」をする

1 「通信接続設定」86～87の「LAN端子設定」を以下のように設定する

●「IPアドレス設定」

項　目	設定内容
IPアドレス自動取得	しない
IPアドレス	192. 168. 1. 20
サブネットマスク	255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ	192. 168. 1. 1

●「DNS設定」

項　目	設定内容
DNSアドレス自動取得	しない
DNSアドレス(プライマリ)	192. 168. 1. 1

※ DNSアドレス(セカンダリ)の入力は不要です。

●「プロキシ設定」：「使用しない」に設定

2 終了を押して、メニューを消す

3 本体の電源ボタンで電源を切ってから、電源を入れ直す

● 設定した内容が有効になります。

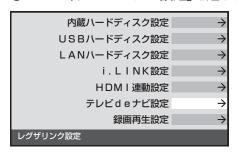
本機の「テレビdeナビ設定」をする

1 以下の操作で「テレビdeナビ設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲・▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「テレビdeナビ設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で設定の種類を選び、決定を押す

- 東芝RDアナログ………「東芝RDアナログでの予約」用の設定をする場合に選びます。
- 東芝RDデジタル1～3…「東芝RDデジタルでの予約」用の設定をする場合に、三つの中のどれかを選びます。

3 設定する項目を▲・▼で選び、決定を押す

● 各項目を下表に従って設定してください。

ＲＤ本体名
ユーザー名
パスワード　未設定
ポート設定　80
連動ライン入力番号　ライン入力3
東芝ＲＤ アナログ

設定項目	説明、および操作手順
RD本体名	●「ポート設定」以外の項目では文字入力画面になります。文字入力のしかたは、操作編の26をご覧ください。 ① 左上の手順❷でメモした、東芝レコーダーの本体名、本体ユーザー名、本体パスワード、本体ポート番号を入力する ② 決定を押す
ユーザー名	
パスワード	
ポート設定	
連動ライン入力番号 ※	① 本機を接続した東芝レコーダーのライン入力を◀・▶で選び、決定を押す

※「東芝RDアナログ」の場合に設定します。

4 終了を押して、メニューを消す

5 本体の電源ボタンで電源を切ってから、電源を入れ直す

● 設定した内容が有効になります。

ルーターを通してつなぐ

● 「LAN端子の接続（1）」29ﾃﾞ をしている場合のつなぎかたです。
● 「東芝RDアナログでの予約」用として1台、「東芝RDデジタルでの予約」用として最大３台の東芝レコーダーをつなぐことができます。（複数台の東芝レコーダーをつなぐ場合も、ルーターのLAN端子、本機のビデオ入力端子またはHDMI入力端子につないでください）
● 接続後は次ページの設定をしてください。また、必要に応じて「録画再生設定」の「ダイレクト録画時間」51ﾃﾞ と「外部入力設定」53ﾃﾞ をしてください。

● LANケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。ルーターを通して本機と東芝レコーダーをつなぐ場合には、ストレートケーブルをご使用ください。
● 「LAN端子の接続（1）」29ﾃﾞ の「ご注意」と、「LAN端子について」31ﾃﾞ もお読みください。

ルーター
パソコン
ADSLモデム
またはケーブルモデム
29ﾃﾞ
ストレートタイプ
LANケーブル
WAN端子へ
ストレートタイプ
LANケーブル
ストレートタイプ
LANケーブル
LAN端子へ
ストレートタイプ
LANケーブル
［背面］
LAN
ハードディスク専用
ひかりTV専用
LAN端子（中央）へ
HDMI入力
映像・音声用コード
S映像用コード
信号
赤 音声右
白 音声左
S映像
再生用
予約用
出力端子へ
LAN端子へ
東芝レコーダー
入力端子へ
録画用
S映像
白 音声左
赤 音声右
S映像用コード
信号
映像・音声用コード
赤 白 赤 白
ビデオ入力1
ビデオ入力2
S2映像 ビデオ入力3
S1映像 デジタル放送録画出力

東芝レコーダーによっては、映像・音声用コード、D端子ケーブル、HDMIケーブルでつなぐこともできます。「DVDプレーヤーをつなぐ」40ﾃﾞ を参考にしてください。
※HDMI出力端子付の東芝レコーダーの場合は、HDMIケーブルでつなぐことをおすすめします。

• S映像用コードがないときは、映像・音声用コードでつなぎます。
• 「**東芝RDデジタルでの予約**」のときは、この接続は不要です。

外部機器の接続と設定

お知らせ
● 41ﾃﾞ の「お知らせ」をご覧ください。

東芝レコーダーをつなぐ つづき

ルーターを通してつなぐ場合の設定をする

- 前ページの接続をした場合の設定です。
- 最初にルーターの電源を入れ、続いて他の機器の電源を入れて、以下の設定をしてください。

ルーターのDHCP機能を確認する

- DHCP機能が「有効」になっていることを確認してください。出荷時点で「有効」の状態に設定されているのが一般的ですが、詳しくはルーターの取扱説明書をご覧ください。

東芝レコーダーの「ネットワーク設定」（または「イーサネット設定」）をする

- この手順は、東芝レコーダー側の設定です。
東芝レコーダーの取扱説明書を参照して、以下の設定をしてください。

❶「ネットワーク設定」（または「イーサネット設定」）画面にする

❷下表の項目を設定して保存する

※ ルーターを使って東芝レコーダーを複数台つないでいる場合は、すべての東芝レコーダーについて設定・保存します。その場合、「本体名」はそれぞれ異なる名称にします。（1文字変えるだけでもかまいません）

項　目	設定内容
本体名	※ 設定内容を確認し、メモする メモした内容は、右の「テレビdeナビ設定」で使います。
本体ユーザー名	
本体パスワード	
本体ポート番号	
DHCP	使う

本機の「LAN端子設定」をする

1 「通信接続設定」86～87の「LAN端子設定」を以下のように設定する

- 「IPアドレス設定」

項　目	設定内容
IPアドレス自動取得	する（お買い上げ時の状態です）

- 「DNS設定」

項　目	設定内容
DNSアドレス自動取得	する（お買い上げ時の状態です）

2 終了を押して、メニューを消す

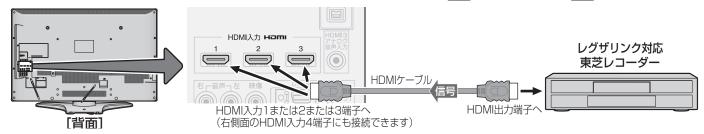
3 本体の電源ボタンで電源を切ってから、電源を入れ直す

- 設定した内容が有効になります。

本機の「テレビdeナビ設定」をする

- 手順の内容は42と同じです。
- ルーターを使って複数台の東芝レコーダーをつないでいる場合は、すべての東芝レコーダーに「テレビdeナビ設定」をしてください。（「東芝RDアナログでの予約」用として録画用の接続をした１台、「東芝RDデジタルでの予約」用として３台までの設定ができます）
- 録画用の接続をした１台の東芝レコーダーを「東芝RDアナログでの予約」と「東芝RDデジタルでの予約」の両方で使用することもできます。その場合は、「東芝RDアナログ」と「東芝RDデジタル」の両方の設定をしてください。

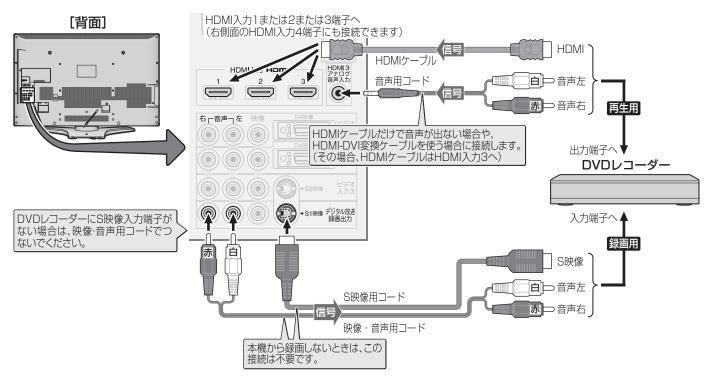
レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合

- レグザリンク対応の東芝レコーダーの場合は、本機とHDMIケーブルでつなげば本機から録画予約をしたり、本機のリモコンで東芝レコーダーの基本操作をしたり、本機との連動機能52を使ったりすることができます。
- 録画予約や基本操作などについては、「レグザリンクを使う」（操作編54）をご覧ください。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。また、1080pの映像信号を入力する場合は、High Speed HDMI™ Cableをご使用ください。（一般のHDMIケーブルでは、正常に動作しないことがあります）
- 必要に応じて「録画再生設定」の「ダイレクト録画時間」51、「HDMI連動設定」52、「外部入力設定」53をしてください。

- レグザリンク対応の東芝レコーダー　－2008年9月現在－　（★印は11月中旬発売予定）
RD-A300＊、RD-A301、RD-A600＊、RD-E301、RD-E302、RD-S301、RD-S302、RD-S303★、RD-S502、RD-S503★、RD-S601、RD-X7、RD-X8★、D-H320★
（＊印の機種はバージョンアップが必要です。詳しくはhttp://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/index_j.htmlでご確認ください）
- 本機のHDMI入力端子については、40のお知らせをご覧ください。

東芝製以外のDVDレコーダーをつなぐ

● 本機のデジタル放送録画出力端子とDVDレコーダーの外部入力端子をつなげば、本機で受信したデジタル放送をDVDレコーダーで録画することができます。(録画や録画予約については操作編の「録画・予約をする」28をご覧ください)
※ 本機で録画の操作や録画予約の設定をしてもDVDレコーダーには録画されません。DVDレコーダー側でも録画の操作や予約の設定をしてください。
● 接続後は必要に応じて「録画再生設定」の「ダイレクト録画時間」51と「外部入力設定」53をしてください。

HDMIケーブルでつなぐとき

● HDMIケーブルは、HDMIロゴ(HDMI)の表示があるケーブルをご使用ください。また、1080pの映像信号を入力する場合は、High Speed HDMI™ Cableをご使用ください。(一般のHDMIケーブルでは、正常に動作しないことがあります)
● HDMIケーブルだけで音声が出ない機器の場合や、HDMIケーブルのかわりにHDMI-DVI変換ケーブルを使う機器の場合は、HDMI入力3端子につなぎ、HDMI3アナログ音声入力端子に音声用コードもつないでください。

※ 映像・音声用コードや、S映像用コード、D端子ケーブルなどでつなぐ場合は、「ビデオをつなぐ」39と同じ接続にしてください。(39「お知らせ」の「デジタル放送録画出力端子について」もよくお読みください)
※ 本機の超解像処理と同様の高画質機能を備えた機器をつないだ場合、本機の機能との相乗効果で画面のノイズが目立つことがあります。その場合には、接続機器の高画質機能または本機の超解像処理(操作編80)をオフにしてください。

お知らせ
● 本機のHDMI入力端子については、40のお知らせをご覧ください。

オーディオ機器をつなぐ

ミニコンポなどの場合

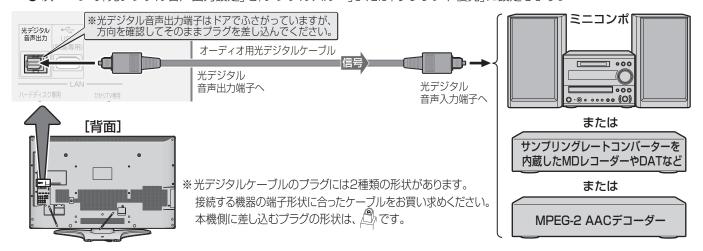
ミニコンポなどの音響システムにつなぐとき

- 本機の音量を最小に調整し、ミニコンポなどの音響システム側で音量を調節してご使用ください。
- 音響システム側が対応しているデジタル音声入力に従って、次ページの「光デジタル音声出力設定」をします。

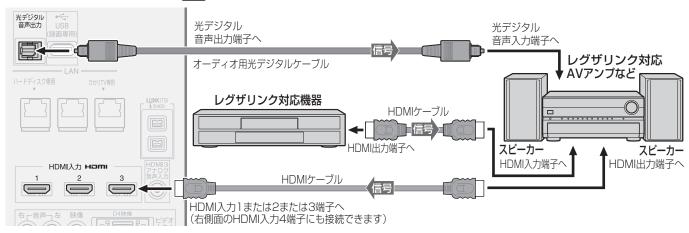
サンプリングレートコンバーターを内蔵したMDレコーダーやDATにつなぐとき

- MDレコーダーやDATの光デジタル音声入力端子につなげば、高音質で録音して楽しむことができます。
- 次ページの「光デジタル音声出力設定」を「PCM」に設定します。

MPEG-2 AACデコーダーにつなぐとき

- デジタル放送のMPEG-2 AAC方式の信号を、MPEG-2 AACデコーダーで楽しむことができます。
- 次ページの「光デジタル音声出力設定」を「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定します。

レグザリンク対応のAVシステム機器(AVアンプなど)の場合

- レグザリンク対応のAVシステム機器の場合は、本機のリモコンでAVシステムの音量を調節するなどの操作ができます。 52
- レグザリンク対応のAVシステム機器にレグザリンク対応機器をつなぐことができます。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ(HDMI)の表示があるケーブルをご使用ください。また、1080pの映像信号を入力する場合は、High Speed HDMI™ Cableをご使用ください。(一般のHDMIケーブルでは、正常に動作しないことがあります)
- AVシステム機器が対応しているデジタル音声入力に従って、次ページの「光デジタル音声出力設定」をしてください。
- 必要に応じて「HDMI連動設定」52 をしてください。

お知らせ

- レグザリンク対応AVシステム機器(推奨機器) −2008年9月現在−　※ 推奨機器以外での動作は保証いたしかねます。

メーカー	形　名
オンキヨー	TX-SA806X、TX-SA706X、TX-SA606X、TX-SA605、TX-SA705、TX-SA805、TX-NA906X、TX-NA905、DTX-9.9、DTX-8.9、DTX-5.9、DTX-5.8、DTX-7.8、DTX-8.8、DHC-9.9、DTC-9.8、BASE-V20HD、SA-205HD、HTX-22HD、CB-SP1380 + DHT-9HD(再生にはオプションサブウーハー DHT-9HDが必要になります)
YAMAHA	YSP-1000、YSP-600、DSP-AX863、DSP-AX763、YSP-LCP4000、YSP-LC4000、YSP-4000、YSP-3000、YSP-LC3000、YSP-LCW3000
デノン	AVP-A1HDSP、AVC-A1HDSP、AVC-2809、AVC-1909

- 本機のHDMI入力端子については、40 のお知らせをご覧ください。
- 光デジタル音声出力端子について、次ページの「お知らせ」をご覧ください。

光デジタル音声出力の設定

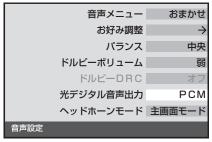
● 光デジタル音声出力端子から出力する音声信号の設定です。
● お買い上げ時は、「PCM」に設定されています。
● MPEG-2 AACデコーダーやAACデコーダー内蔵アンプおよびドルビーデジタルデコーダー内蔵アンプをつなぐときは、「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定してください。

1 以下の操作で「音声設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「音声設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「光デジタル音声出力」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で信号を選び、決定を押す

- **PCM**……………………リニアPCM信号が出力されます。
- **デジタルスルー** ……MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル信号の場合、その信号が出力されます。
- **サラウンド優先** ……MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル信号で、サラウンド音声（5.1CHや4.1CHサラウンド音声など）の場合には、それらの信号が出力されます。それ以外の場合にはリニアPCM信号が出力されます。

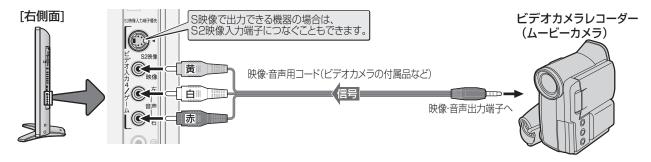
4 終了を押して、メニューを消す

● クイックを押して、クイックメニューから「音声設定」を選ぶこともできます。
● 背面の「光デジタル音声出力」からは、テレビのスピーカー音声と同じ音声のデジタル信号が出力されます。ただし、音声メニュー、音声調整、お好み調整、ドルビーボリュームの効果は得られません。（ドルビー DRCの効果は、ドルビーデジタル音声が記録された映像ソフトなどの視聴時に、「PCM」を選択している場合や「サラウンド優先」を選択していてリニアPCM信号が出力される場合に得られます）
● 光デジタル音声出力設定が「デジタルスルー」や「サラウンド優先」に設定されている場合で、MPEG-2 AAC音声のときには、データ放送の一部の音声（効果音など）が、光デジタル音声出力端子からは出力されないことがあります。
● 地上アナログ放送の視聴時およびビデオ入力1 ～ 4を選択しているときは、光デジタル音声出力端子からは設定にかかわらずリニアPCM信号が出力されます。
● 本機が出力する光デジタル音声出力のサンプリング周波数は、「PCM」（リニアPCM）の場合、48kHz、44.1kHzまたは32kHzです。
● サンプリングレートコンバーターを内蔵していないMDレコーダーには、デジタル信号での録音はできません。
● MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル音声の場合には、主音声・副音声の切換は本機では行われません。MPEG-2 AACデコーダー、ドルビーデジタルデコーダー側で切り換えてください。
● HDMI入力端子が対応している音声信号については43の「お知らせ」をご覧ください。ほかの音声信号が入力されている場合は、設定にかかわらず光デジタル音声出力端子から信号は出力されません。
● HDMI入力の選択時に光デジタル音声出力端子から出力される信号を、他の機器に録音することはできません。

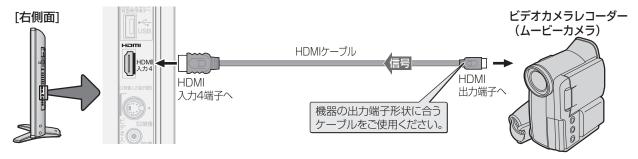
ビデオカメラレコーダーをつなぐ

- ビデオカメラレコーダーなどのポータブル機器は、右側面の端子を使用すれば接続や取りはずしのときに便利です。（背面の端子も使用できます）
- 必要に応じて「外部入力設定」53 をしてください。
- 本機はデジタルビデオカメラレコーダーのDV端子との接続はできません。

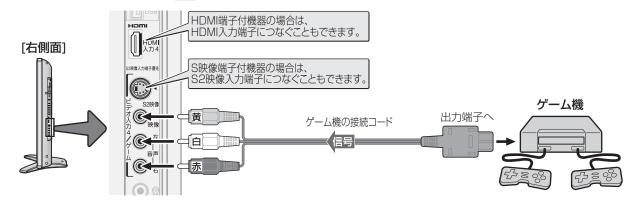
映像・音声用コードやS映像用コードでつなぐとき

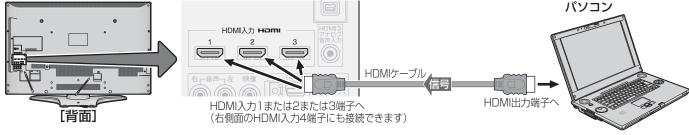
- ビデオ入力4/ゲーム入力端子は、お買い上げ時に「ゲーム」に設定されています。
  ビデオ入力4にビデオカメラレコーダーをつないで使うときは、入力切換で「ビデオ入力4」を選んでから、「映像設定」の「映像メニュー」（操作編 74）で「ゲーム」以外を選んでください。
- 映像・音声コードやS映像用コードでつないだ場合は、480i（標準画質）の映像でだけ視聴できます。

HDMIケーブルでつなぐとき

- ハイビジョン対応のビデオカメラレコーダーの場合、ハイビジョン画質で視聴するにはHDMIケーブルでつなぎます。（D端子ケーブルでつなぎたいときは、背面の端子をご使用ください）
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。また、1080pの映像信号を入力する場合は、High Speed HDMI™ Cableをご使用ください。（一般のHDMIケーブルでは、正常に動作しないことがあります）

※ レグザリンク対応のビデオカメラレコーダーをHDMI端子につなげば、本機のリモコンで再生･停止などの操作ができます。（本機からの録画や録画の操作はできません）
必要に応じて「HDMI連動設定」52 をしてください。

- レグザリンク対応ビデオカメラレコーダー　－2008年9月現在－
  東芝ハイビジョンムービーカメラ gigashot GSC-A100F、GSC-A40F
- 本機のHDMI入力端子については、40 のお知らせをご覧ください。

ゲーム機をつなぐ

● ゲーム機は、本機右側面のビデオ入力4/ゲーム入力端子につなぎます。
※ ビデオ入力1～4およびHDMI入力1～4のどれにでも接続して楽しめます。
ビデオ入力4以外につないだ場合は、つないだ入力を入力切換で選択して、「映像設定」の「映像メニュー」（操作編 74）を「ゲーム」に設定してください。
● 必要に応じて「外部入力設定」53 をしてください。

パソコンをつなぐ

● HDMI端子付のパソコンをつなぐことができます。（HDMI-DVI変換ケーブルを使えば、DVI出力端子付の機器もつなぐことができますが、本機から音声を出すことはできません）
● HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。また、1080pの映像信号を入力する場合は、High Speed HDMI™ Cableをご使用ください。（一般のHDMIケーブルでは、正常に動作しないことがあります）
● 外部モニターで表示できるようにパソコンを設定してしてください。詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。
● 必要に応じて「外部入力設定」53 をしてください。
※ レグザリンク対応の東芝パソコンの場合は、必要に応じて「HDMI連動設定」52 をしてください。
※ パソコンをネットワーク接続してハードディスクを共有する場合は、60 をご覧ください。

お知らせ
● レグザリンク対応東芝パソコン －2008年9月現在－
Qosmio G50/98G、G50/97G、F50/88G、F50/86G、G40/97E、G40/97D
dynabook AX/54G、AX/53G、AX/53GBL、AX/53GPK、AX/55F、AX/54F、AX/53F、AX/53FBL、AX/53FPK、TX/67G、TX/66G、TX/66GBL、TX/66GPK、TX/68F、TX/67F、TX/66F、TX/66FBL、TX/66FPK、CX/48G、CX/47G、CX/45G、CX/48F、CX/47F、CX/45F
dynabook Qosmio GX79G、FX/77G
● パソコンから、本機が対応しているフォーマットの信号を入力してください。対応している信号フォーマットや条件などについては、操作編 118 をご覧ください。
● 本機が対応している信号を入力しても、パソコンによっては本機が認識できないことがあります。
● パソコンのDVD再生ソフトなどで再生した映像は、本機の画面で正しく表示されなかったり、映像の動きが不自然になったりする場合があります。

USB機器をつなぐ

※ 以下の機器は、図のように本機右側面のUSB端子に接続してください。(背面のUSB端子には接続しないでください)

USBキーボードをつなぐ

● USBキーボードをつなげば、インターネット機能(操作編 68)などで文字入力をするときに便利です。

[右側面]

放送切換
録画する場合は背面専用端子へ
USB
HDMI 入力4
USBキーボード
向きを確認して差し込んでください。

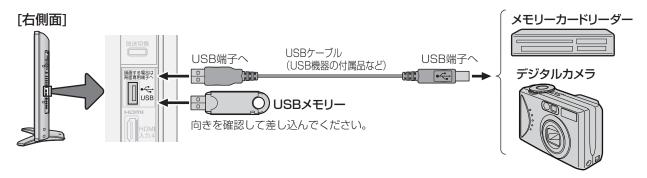
メモリーカードリーダーやデジタルカメラ、USBメモリーをつなぐ

● USB接続に対応しているメモリーカードリーダーやデジタルカメラ、USBメモリーなどをつないで、写真(JPEGファイル)をテレビ画面で見ることができます。(操作編 59)

ご注意

● USB機器の抜き差しをするときは、本体またはリモコンの電源ボタンで本機の電源を切ってください(写真を見ている場合は、終了してから電源を切ってください)。電源が「入」の状態でUSB機器の抜き差しをしたり、写真を見ているときに電源を切ったりすると、メモリーカードなどに記録されているデータが破壊されるおそれがあります。
● それぞれの機器の動作や取扱いなどについては、機器の取扱説明書もよくお読みください。

お知らせ

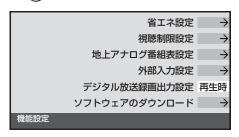
● USBハブを使って本機のUSB端子に接続した場合に認識できる機器数は最大8台です。スロットを複数持つメモリーカードリーダーなどの場合は、1スロットで1台とみなします。なお、USBハブを使った場合は、正常に動作しなくなることがあります。

デジタル放送録画出力設定

● 本機のデジタル放送録画出力端子を使ってビデオなどの外部機器に録画や予約での録画（操作編 28）をする場合には、あらかじめ以下の設定をしておくことが必要です。

1 以下の操作で「デジタル放送録画出力設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「デジタル放送録画出力設定」を選び、決定を押す

2 録画の目的に合った項目を▲·▼で選び、決定を押す

デジタル放送録画出力設定

常時出力
再生時出力
録画時出力

録画をしていない場合のみ、再生中の信号を出力します。

※ただし、デジタル放送録画出力から録画をする場合は、録画チャンネルの信号を出力します。

- **常時出力**
  以下の①〜③の優先順で出力されます。
  ① 録画予約の実行時は、予約したデジタル放送
  ② 本機のリモコンの●録画を押した場合は、そのときに視聴しているデジタル放送
  ③ 内蔵ハードディスクや本機につないだハードディスク（USB、LAN）およびi.LINK機器での再生をしている場合はその再生出力
  また、ひかりTVやアクトビラのビデオサービスを視聴している場合は、その出力
  ※ ①〜③以外の場合には、次のようになります。
  - デジタル放送の視聴時は視聴中の放送
  - アナログ放送やビデオ入力などの視聴時は、その前に視聴していたチャンネルのデジタル放送
  - 二画面の表示中は出力されません。
- **再生時出力**
  上記③の場合に出力されます。ただし、デジタル放送を録画する場合はデジタル放送が出力されます。
- **録画時出力**
  上記①、②の場合に出力されます。

● 映像信号の入力を検出して自動録画をする機能のある機器の場合は、「録画時出力」に設定すれば本機での録画の操作や録画予約の設定だけで機器に録画できます。（自動録画に対応していない機器の場合は、機器側でも録画の操作や予約の設定が必要です）

3 終了を押して、メニューを消す

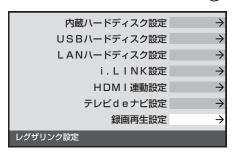
録画再生設定

● 本機につないだ録画機器およびハードディスク（内蔵、USB、LAN）、i.LINK機器（ハードディスクビデオレコーダー）での録画・再生に関する設定をすることができます。

1 以下の操作で「録画再生設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「録画再生設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選び、決定を押す

● 各項目を下表の説明に従って設定してください。

ダイレクト録画時間 2時間
ワンタッチスキップ設定 30秒
ワンタッチリプレイ設定 10秒
録画再生設定

3 終了を押して、メニューを消す

設定項目	説明、および操作手順
ダイレクト録画時間	● 本機のリモコンの●録画で録画を開始したときの録画時間を設定します。（自動録画機能のない録画機器では、機器側の操作も必要です） ❶ **▲·▼で時間を選び、決定を押す** • 30分、60分、90分、2時間、3時間、4時間の中から選択できます。
ワンタッチスキップ設定	● 機器の再生時、»を押したときに先に進む時間を設定します。 ❶ **▲·▼で時間を選び、決定を押す** • 5秒、10秒、30秒、5分から選択できます。
ワンタッチリプレイ設定	● 機器の再生時、«を押したときに前に戻る時間を設定します。 ❶ **▲·▼で時間を選び、決定を押す** • 5秒、10秒、30秒、5分から選択できます。 • 時間は目安です。録画番組のレート（時間あたりのデータ量）によって多少変わります。

※ ビデオ、東芝レコーダー、東芝製以外のDVDレコーダーは、「ワンタッチスキップ設定」と「ワンタッチリプレイ設定」は対象外です。

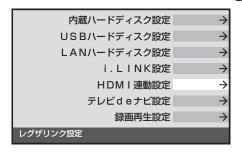
HDMI連動設定

● レグザリンク対応機器(HDMI連動機能対応機器)でレグザリンクの機能や各種の連動機能を使う場合は、以下の設定をする必要があります。

1 以下の操作で「HDMI連動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「HDMI連動設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選び、決定を押す

● 各項目を表の説明に従って設定してください。

HDMI連動機能	使用する
HDMI連動機器リスト	→
連動機器→テレビ入力切換	連動する
連動機器→テレビ電源	連動する
テレビ→連動機器電源オフ	連動する
PC映像連動	使用する
AVシステム連動	使用しない
優先スピーカー	テレビスピーカー

HDMI連動設定

3 終了を押して、メニューを消す

設定項目	説明、および操作手順
HDMI連動機能	レグザリンクや以下の連動機能を使う場合には、▲·▼ で「使用する」を選んで決定を押します。
連動機器→テレビ入力切換	連動機器の再生操作をしたときに、本機が自動的に入力切換をして、その機器を選択する機能です。(本機の電源が「入」の場合) この機能を使う場合は、▲·▼ で「連動する」を選んで決定を押します。
連動機器→テレビ電源	連動機器の再生操作をしたときに本機の電源が「入」になり、連動機器の電源を「待機」にしたときに本機の電源も「待機」になる機能です。 この機能を使う場合は、▲·▼ で「連動する」を選んで決定を押します。 ※ この機能と、「連動機器→テレビ入力切換」を「連動する」に設定しておくと、本機の電源が「入」になったあとに自動的に入力が切り換わります。
テレビ→連動機器電源オフ	本機の電源を「待機」にしたときに、連動機器の電源も「待機」になる機能です。(録画中の機器など、動作状態によっては「待機」にならない場合があります) この機能を使う場合は、▲·▼ で「連動する」を選んで決定を押します。 ※「省エネ設定」(操作編 86)の「無操作自動電源オフ」、「オンエアー無信号オフ」、「外部入力無信号オフ」や、「オフタイマー」(操作編 18)の各機能によって本機の電源が「待機」になった場合も、連動機器の電源が「待機」になります。
PC映像連動	本機に接続したレグザリンク対応東芝パソコン 49 からの映像を見る場合に、パソコンの画面の形式や映像に応じて、本機が自動的に画面サイズや映像メニューの設定を切り換える機能です。 この機能を使う場合は、▲·▼ で「使用する」を選んで決定を押します。
AVシステム連動	レグザリンク対応のAVシステム機器(AVアンプなど)とスピーカーを接続している場合に、本機のリモコンで以下のことができます。 • 音声をテレビから出すか、AVシステムのスピーカーから出すかの切換え • 音声をAVシステムのスピーカーから出す場合の音量調節 この機能を使う場合は、▲·▼ で「使用する」を選んで決定を押します。
優先スピーカー	「AVシステム連動」を「使用する」に設定した場合に、優先するスピーカーを選択することができます。この機能は本機の電源が「入」のときに働きます。 ▲·▼ で以下から選んで決定を押します。 • **テレビスピーカー** 本機のスピーカーから音声が出ます。 • **AVシステムスピーカー** AVシステム機器の電源が「入」のときは、AVシステムのスピーカーから音声が出ます。 ※ 本機のヘッドホーン端子は、本機のスピーカーから音声が出る条件のときに使用できます。

● 本機が認識できるレグザリンク対応機器の台数は、AVシステム機器１台、東芝レコーダーは3台まで、東芝パソコンは1台です。
● 「連動機器→テレビ入力切換」、「連動機器→テレビ電源」、「テレビ→連動機器電源オフ」の機能は、東芝レコーダー RD-A600、RD-A300(どちらもバージョンアップ後)では使用できません。

外部入力設定

外部入力表示設定

● 入力切換をしたときに表示される機器の名称(ビデオ、DVDなど)を変更することができます。

1 以下の操作で「外部入力設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「外部入力設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「外部入力表示設定」を選び、決定を押す

HDMI 3音声入力設定	オート
外部入力表示設定	→
外部入力スキップ設定	→
外部入力設定	

3 設定する外部入力を▲·▼で選び、決定を押す

ビデオ1設定	DVD
ビデオ2設定	DVD
ビデオ3設定	DVD
ビデオ4設定	ゲーム
HDMI 1設定	DVD
HDMI 2設定	DVD
HDMI 3設定	DVD
HDMI 4設定	DVD
初期設定に戻す	→
外部入力表示設定	

4 機器名を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

ビデオ1設定	
レコーダー	DVD
VTR	CATV
ゲーム	チューナー
PC	ムービーカメラ
表示しない	

5 終了を押して、メニューを消す

■ 外部入力表示をお買い上げ時の状態に戻すには

❶ 上記手順**3**で「初期設定に戻す」を選び、決定を押す

❷ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● お買い上げ時の状態(手順**3**のイラストの設定)に戻ります。

❸ 終了を押して、メニューを消す

外部入力スキップ設定

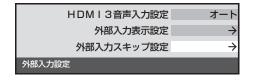
● 入力切換をするときに、使っていない入力をスキップする(飛び越す)ことができます。

1 以下の操作で「外部入力設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「外部入力設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「外部入力スキップ設定」を選び、決定を押す

3 設定する外部入力を▲·▼で選び、決定を押す

● 決定を押すたびに「スキップ」が「する」、「しない」に交互に切り換わります。

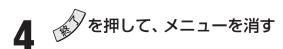
外部入力スキップ設定	
ビデオ	スキップ
ビデオオート	する
HDMI 1	しない
HDMI 2	しない
HDMI 3	しない
HDMI 4	しない

■「ビデオオート」を選択しているとき

- **する**……入力切換時に、ビデオ入力1～4の入力端子(映像、D4映像、S2映像)に何もつながっていない入力をスキップします。
- **しない**…入力切換時にスキップしません(ビデオ入力1～4が順に切り換わります)。

■「ビデオオート」以外を選択しているとき

- **する**……入力切換時にスキップします。
- **しない**…入力切換時にスキップしません。

4 終了を押して、メニューを消す

外部入力設定 つづき

HDMI3音声入力設定

- 通常は「オート」の設定のままでご使用ください。
- 「オート」で、HDMI3アナログ音声入力端子への音声用コードを接続（「HDMIケーブルでつなぐとき」40 、45 を参照）しても音声が出ない場合は、以下の手順で「アナログ」に設定してください。

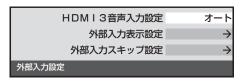
1 以下の操作で「外部入力設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「外部入力設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「HDMI3音声入力設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で以下の項目から選び、決定を押す

- **オート**……… 自動切換になります。
- **デジタル**…… HDMI入力3端子からの音声が出ます。
- **アナログ**…… HDMI3アナログ音声入力端子からの音声が出ます。

4 終了を押して、メニューを消す

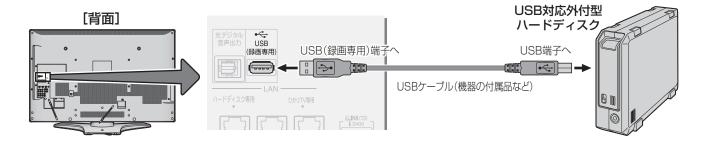
USBハードディスクをつなぐ

※ USBハードディスクは、図に示すように本機背面のUSB（録画専用）端子に接続してください。右側面のUSB端子では録画・再生はできません。

※ **USBハードディスクを取りはずす場合は、次ページの「USBハードディスク設定」で「機器の取りはずし」**57**の操作をしてください。**
USBハードディスクの動作中は、USBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりしないでください。保存した内容が消えたり、ハードディスクが故障したりする原因となります。

機器の接続

● USBハードディスクを本機に接続すれば、本機で受信した番組を録画したり、再生したりすることができます。詳しくは、「録画・予約をする」（操作編 28）、「ハードディスクなどに録画した番組を見る」（操作編 43）をご覧ください。
※ 接続が終わったら、次ページの「USBハードディスク設定」で「機器の登録」の操作をしてUSBハードディスクを登録してください。接続したUSBハードディスクを本機が自動的に検出した場合には、ハードディスク登録画面が表示されます。その場合には、「機器の登録」の❷～❻の操作でUSBハードディスクを登録してください。
※ 本機に登録できるUSBハードディスクの台数は8台までです。
※ **本機には、ハブなどを使用してUSBハードディスクを複数台同時に使用することはできません。**

● パソコンで使用していたUSBハードディスクを本機につないで登録すると、パソコンなどで保存していたデータはすべて消去されます。
● 本機で使用していたUSBハードディスクをパソコンで使用するには、パソコンで初期化する必要があります。その際に、本機で保存した内容はすべて消去されます。
● 本機右側面のUSB端子に、USBバスパワー方式の機器を接続して同時に使用すると、USBハードディスクでの録画動作に障害を与えることがあります。

● USBハードディスクに保存した録画内容は、本機でしか再生できません。ほかのテレビ（同じ形名のテレビも含みます）やパソコンなどにつないで再生することはできません。
● 以下のハードディスクで本機と組み合わせた動作を確認済みです。（動作を保証するものではありません）

メーカー	機　種
アイ・オー・データ機器	HDC2-Uシリーズ *、HDCN-Uシリーズ、HDC-Uシリーズ、RHD-UXシリーズ、RHD-UX320A/UX500A、HDC-UXシリーズ、HDC-UX320A/UX500A
バッファロー	HD-CEU2シリーズ、HD-HSSU2シリーズ、HD-HESU2シリーズ、HD-ESU2シリーズ、HD-HSU2シリーズ

*HDC2-Uシリーズは、2台のハードディスクドライブを一つのハードディスクとみなす「ストライピングモード（出荷時のモード）」でのみ接続確認をしています。このモードのままでご使用ください。（ハードディスクの表示ランプは青色に点灯します）

● 本機が対応しているUSBハードディスクの容量は2TB（公称値）までです。
● 接続できる機器については、ホームページで順次公開する予定です。（ホームページについては、16をご覧ください）

USBハードディスクをつなぐ つづき

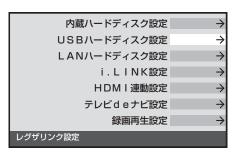
USBハードディスク設定

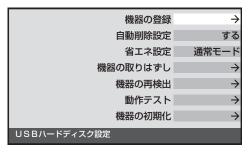
● USBハードディスクを使用する場合は、必要に応じて以下の設定をしてください。

1 以下の操作で「USBハードディスク設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「USBハードディスク設定」を選び、決定を押す

2 以下の操作で設定する

● 設定が必要な項目（次ページまで）の操作をして、終わったら手順3の操作でメニューを消してください。

■ 機器の登録

● 未登録のUSBハードディスクを本機で使用できるようにするには、USBハードディスクを本機に接続して以下の操作で本機に登録します。

● 未登録のUSBハードディスクを接続したときに本機が自動的に検出する場合があります。その場合は以下の❷以降の操作をしてください。

※ 登録できるのは8台までです。

※ はじめて登録するときには、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

❶ ▲･▼で「機器の登録」を選び、決定を押す

❷ 登録の確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

❸ 初期化（消去）の確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

- 初期化と登録の処理が始まり、終了すると登録名設定のメッセージが表示されます。

❹ 登録名を設定する場合は、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

- 文字入力画面で登録名を入力します。文字入力のしかたは操作編 26をご覧ください。

❺ 録画･予約時の録画機器を、登録したハードディスクに変更する場合は、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

❻ 登録結果の内容を確認し、決定を押す

● 登録済USBハードディスクの登録名を変更したり、登録を解除したりする場合は、上記❶の操作で表示される「機器の登録」画面で以下の操作をします。

■ 登録名の変更

① 登録名を変更したいUSBハードディスクを▲･▼で選択し、青を押す
② ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す
③ 文字入力画面で登録名を入力する

■ 登録の解除

① 登録を解除したいUSBハードディスクを▲･▼で選択し、赤を押す
② ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

■ 自動削除設定

● ハードディスクの容量が足りない場合に、日付の古い録画済番組から自動的に削除する機能です。ただし、保護（操作編 48）されている録画番組は、自動削除されません。

● 保護をした録画済番組が多くなると、自動削除機能が働かなくなる場合があり、録画できる時間は短くなります。

❶ ▲･▼で「自動削除設定」を選び、決定を押す

❷ ▲･▼で「する」または「しない」を選び、決定を押す

省エネ設定

● USBハードディスクは電源がはいってから録画や再生ができるようになるまでに、しばらく時間がかかります。「通常モード」に設定すればUSBハードディスクの電源は常に「入」の状態となり、USBハードディスクをすぐに使いたい場合に便利です。

※「省エネモード」に設定した場合に、USBハードディスクの機種によっては待機状態になっても、USBハードディスクの表示ランプが待機状態を示さないことがあります。

❶ ▲·▼で「省エネ設定」を選び、決定を押す

❷ ▲·▼で「通常モード」または「省エネモード」を選び、決定を押す

- 通常モード……本機の電源が「入」のとき、USBハードディスクの電源は常時「入」の状態です。
- 省エネモード…USBハードディスクをしばらく使わないとUSBハードディスクの電源は待機状態になり、USBハードディスクを使う操作をすると自動的に電源がはいります。

機器の取りはずし

● 本機に接続したUSBハードディスクの電源を切ったり、接続ケーブルを抜いたりするときには、その前に以下の操作をします。

❶ ▲·▼で「機器の取りはずし」を選び、決定を押す

❷ 確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

- 停止の処理が始まり、終了すると安全に取りはずしができる旨のメッセージが表示されます。

❸ メッセージを確認し、USBハードディスクを取りはずしてから決定を押す

機器の再検出

● 「機器の取りはずし」の操作をしたUSBハードディスクがまだ接続されている場合、以下の操作をすれば使用できるようになります。

● 本機に登録済みのUSBハードディスクを接続したときには自動的に検出されます。

❶ ▲·▼で「機器の再検出」を選び、決定を押す

❷ 検出のメッセージを確認し、決定を押す

動作テスト

● 本機につないだUSBハードディスクで、以下の動作ができるかテストします。

- 録画………………ハイビジョン画質で録画ができるかテストします。
- 録画中の再生…ハイビジョン画質で録画しながら録画済番組再生ができるかテストします。
- 録画中の早見早聞…録画中に早見早聞ができるかテストします。

❶ ▲·▼で「動作テスト」を選び、決定を押す

● テストが始まります。終了までに数分間かかります。

● テスト結果が「OK」となった動作ができます。

※ テスト結果は目安です。結果どおりの動作にならないことがあります。

機器の初期化

● USBハードディスクを初期化します。
正常に使用できなくなった場合は、初期化をすれば使用できるようになる場合があります。

※ 初期化すると、USBハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

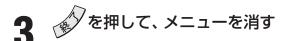
❶ ▲·▼で「機器の初期化」を選び、決定を押す

❷ 初期化の確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

❸ 初期化終了の画面で決定を押す

3 終了を押して、メニューを消す

外部機器の接続と設定

● 「録画再生設定」51もご覧ください。

LANハードディスク、パソコン、DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバーをつなぐ

LANハードディスクやパソコンを本機につないで使用する際は、必ず以下をお読みください！

■本機に接続できるLANハードディスク

● 下表の機種は、本機に接続して録画・再生などができることを確認済みです。ただし、すべての動作を保証するものではなく、機種によってはいくつかの機能が正常に動作しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
● 下表以外の機種と本機の組合わせでは、正しく動作しない場合があります。
● 接続できる機器については、ホームページで順次公開する予定です。（ホームページについては、16 をご覧ください）
● 本機のLAN端子（中央）に接続するときは、必ずルーターを通してください。

メーカー	機 種
アイ・オー・データ機器	HDL-GXRシリーズ、HDL-GTRシリーズ、HDL4-Gシリーズ、HDL-GSシリーズ、HDL2-Gシリーズ
バッファロー	LS-GLシリーズ、LS-HGLシリーズ、LS-WTGL/R1シリーズ、LS-WSGL/R1シリーズ、LS-WHGL/R1シリーズ

■LANハードディスクの本機への登録について

● 本機のハードディスク専用LAN端子につないだ場合は、本機に自動的に登録されます。（登録には時間がかかる場合があります）
※ LAN端子（中央）につないだ場合は、手動操作での登録が必要です。（詳しくは 65 をご覧ください）

■本機のDHCPサーバー機能（IPアドレスの自動割当機能）について

● ハードディスク専用LAN端子につないだ機器には、本機のDHCPサーバー機能でIPアドレスが自動的に割り当てられます。
● LAN端子（中央）につないだ機器は、ルーターのDHCPサーバー機能でIPアドレスが割り当てられます。

■LANハードディスクやパソコンを本機につないで使用する際のご注意

● LANハードディスクやパソコンには、データ放送は録画できません。
● LAN端子（中央）につないだLANハードディスクやパソコンでは、追っかけ再生（録画中の番組の再生）はできない場合があります。
● 放送電波の状態やネットワークの接続状況などによって、録画・再生ができない場合がありますので、ご了承ください。
● LANハードディスクやパソコンに本機で録画した放送番組などは、USB経由やi.LINK経由で他の機器にコピー（複製）することはできません。（内蔵ハードディスク/USBハードディスク/LANハードディスク間のムーブ（移動）はできます）
● LANハードディスク、パソコンのハードディスクの中には、フォルダを作って、その中に番組、写真などのファイルを保存できます。このフォルダ内のファイルは、番組を再生するためにすべて必要なものです。パソコンなどで削除しないでください。削除すると、番組の再生ができなくなりますので、ご注意ください。
● 本機から録画したもの以外の正常な再生は保証できません。
● ネットワークに無線を使った場合は、番組の録画・再生ができないことがあります。
● パソコンのハードディスクのファイルシステムがFAT32の場合、1回に録画できるのはファイルサイズで最大4GBまでです。

■複数のLANハードディスクを使用する場合のご注意とお願い

● LANハードディスクと同じネットワーク内にあるパソコンなどで、システムフォルダを削除したり変更したりしないでください。削除・変更すると、それまでに録画した番組が再生できなくなります。
システムフォルダは、「.toshibaXXXXXXXXXXXX 」というフォルダ名で作成されています。
● 同じ名称の複数のLANハードディスクを本機に登録することはできませんので、LANハードディスクの名前をそれぞれ異なる名前（たとえば、TOSHIBADISK1、TOSHIBADISK2、TOSHIBADISK3 など）に変更してください。LANハードディスクの名前の変更方法はLANハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

● 本機が対応しているLANハードディスクの容量は4TB（公称値）までです。

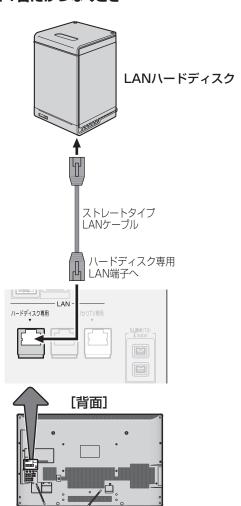
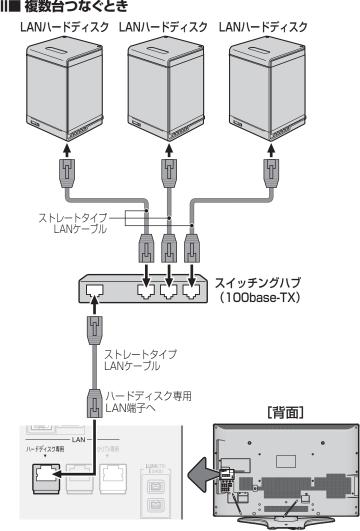
■ アイ・オー・データ機器製のLANハードディスクを本機のハードディスク専用LAN端子につないで使用するとき
● LANハードディスクの「省電力設定」（機種によっては「ディスク省電力」）を「無効」に設定してご使用ください。製品によっては、お買い上げ時に「有効」に設定されている場合があります。
● DLNA認定サーバー機能を「有効」にしている共有フォルダでは録画・再生が正常にできないことがあります。
● 暗号化ボリューム機能が有効になっていると、録画・再生が正常にできないことがあります。
※ 設定方法や注意事項など、詳しくはLANハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

■ バッファロー製LS-GLシリーズのLANハードディスクを本機のハードディスク専用LAN端子につないで使用するとき
● ごくまれにLANハードディスクが認識されないことがあります。その場合は、本機の電源を入れた状態でLANハードディスクの電源を入れ直してください。
● LANハードディスクの動作が安定しない場合は、高性能スイッチングハブ（100base-TX対応品）を経由してつないでください。
● 電源スイッチに（ON/OFF/AUTO）のように（AUTO）がある場合や、AUTO電源機能切換スイッチ（MANUAL/AUTO）が付いている場合に、スイッチを（AUTO）にすると番組の録画・再生に失敗することがあります。

基本的なつなぎかた（ハードディスク専用LAN端子につなぐ）

- LANハードディスクにデジタルハイビジョン放送などのデジタル放送をそのままの画質で録画できます。
- LANハードディスクを接続した場合は、必要に応じて「LANハードディスク設定」65～66をしてください。

- LANケーブルを抜き差しするときは、必ず本機と接続機器の電源を「切」にしてください。
- 動作中に、本機や接続されている機器の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしないでください。記録されているデータが破壊されるおそれがあります。

1台だけつなぐとき

複数台つなぐとき

複数のLANハードディスクを本機につなぐ場合

- 高性能スイッチングハブ（100base-TX対応品）が必要です。

LANハードディスクの本機への登録

- 本機、LANハードディスクの順に電源を入れ、そのまま10分間ほど待てば本機に自動登録されます。(8台まで登録できます)
- 登録されたLANハードディスクは、「機器選択」画面（操作編44）で確認することができます。

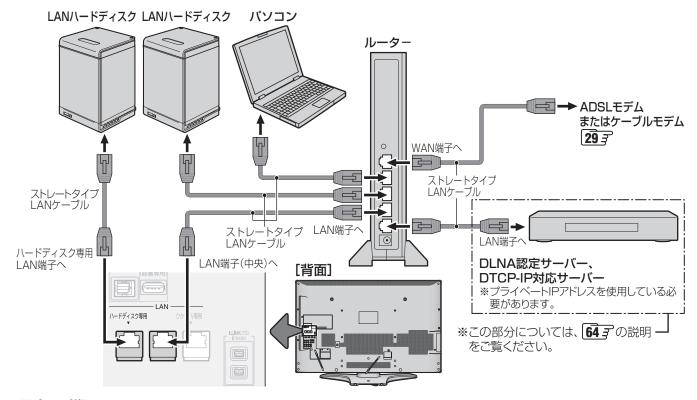
使いかた

- 本機で受信したデジタル放送をLANハードディスクに録画するには、「録画・予約をする」（操作編28）をご覧ください。
- 録画した番組を見るには、「ハードディスクなどに録画した番組を見る」（操作編43）をご覧ください。

LANハードディスク、パソコン、DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバーをつなぐ つづき

応用的なつなぎかた（中央のLAN端子も使う）

● 本機をインターネット常時接続環境に接続している場合（29）には、外出先から携帯電話やパソコンのEメールを使って録画予約をすることができます（操作編 35）。
● ルーターにつないだLANハードディスクやパソコンにも本機からデジタル放送を録画できます。
- パソコンには標準画質の番組（SD放送など）やハイビジョン番組が録画できます。
- 録画した番組は本機でだけ視聴できます。（パソコンでは視聴できません）
- 次ページ以降を参照して、あらかじめパソコンのOSに応じた設定をしてください。

● パソコンが独自に録画した番組を、本機でも視聴することができます。本機で再生できるフォーマットは次のとおりです。
映像：MPEG-2 Video（VRフォーマット準拠）、音声：MPEG-1 Audio Layer Ⅱ
※ **接続をする前に、前ページの「ご注意」をお読みください。**

■ 設定の手順

● ルーターを経由した場合を含み、LAN端子（中央）につないだLANハードディスクやパソコンは、手動で登録する必要があります。
● 本機に登録するパソコンは、OSに応じて次ページ～63 の手順であらかじめ設定しておいてください。

❶ **ルーター、LANハードディスク、本機の順に電源を入れる**
上の図のようにハードディスク専用LAN端子にもLANハードディスクを接続した場合で、初めて電源を入れたときには、これが自動登録されるまで10分間ほど待ってください。

❷ **「LAN端子設定」（中央のLAN端子）86 ～ 87 で、IPアドレスが「192.168.XXX.XXX」または「10.XXX.XXX.XXX」または「172.XX.XXX.XXX」（XXXは数字）になっていることを確認する**
「IPアドレス設定」、「DNS設定」ともに「自動取得」で使用する前提です。

❸ **「LANハードディスクの登録・解除」65 でLANハードディスクやパソコンを登録する**

■ 使いかた

● 本機で受信したデジタル放送をLANハードディスクに録画するには、「録画・予約をする」（操作編 28）をご覧ください。
● 録画した番組を見るには、「ハードディスクなどに録画した番組を見る」（操作編 43）をご覧ください。

● ルーターにつないだLANハードディスクやパソコンへの録画・再生は、ネットワークのトラフィック（ネットワーク上の情報量）などによっては安定にできない場合があります。
● ルーターにつないだLANハードディスクやパソコンへの録画中は、ネットワークのトラフィック増加などによってアクトビラやインターネットへのアクセス速度が低下する場合があります。
● パソコンが独自に録画した番組は、番組録画時のエンコード（アナログ信号をデジタル化すること）方法やレート（時間あたりのデータ量）、パソコンの性能や他のソフトの動作状況、ネットワークのトラフィックなどによっては、本機で視聴できない場合があります。
● パソコンの性能や使用環境によっては録画できない場合があります。

パソコンの設定

- 本機からパソコンのハードディスクに録画したり、録画した番組を再生したりするには、パソコンで以下の設定をする必要があります。接続の前に設定しておいてください。
- 対応しているOSは、Windows XP、Windows 2000、Windows Vistaです。Windows NT、Windows Me、Windows 98、MAC OSなどには対応していません。
- 各OSによって、パソコン側の設定は異なります。
  以下に各OSでの設定の概要を記載しますが、詳しくは、ご使用のパソコンやOSの説明書をご覧ください。
  OSのバージョンアップなどの変更によって、設定の手順が以下の内容とは異なっている場合があります。

- 以下の操作でパソコンでフォルダを共有に設定した場合は、セキュリティを高めるためにフォルダにパスワードなどを設定することをおすすめします。
  ※ **パスワードなどを設定してセキュリティを高めておかないと、悪意の第三者からの不正アクセスによって書込み・消去などをされるおそれがありえます。また、ウイルスソフトがはいる原因にもなりますので、ご注意ください。**
- Windows XP Home Editionの場合はパスワード設定はありませんが、ファイルとプリンタの共有ができる機器のIPアドレスを制限することによって、セキュリティを高めておくことをおすすめします。(次ページの「Windows XP Home Editionの場合のセキュリティを高める設定」をご覧ください)

Windows XPの場合

1 コンピュータ名、ワークグループの設定

① **マイコンピュータを右クリックし、プロパティをクリックしてシステムのプロパティを開く**
② **コンピュータ名タブをクリックする**
③ **変更(C)...ボタンをクリックする**
④ **以下の設定をする**
- コンピュータ名
  他の機器と重ならないように名前を設定する
- ワークグループ名
  本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

※ Windows XP Home Editionの場合は、ワークグループ名を「WORKGROUP」にしてください。

2 ネットワーク設定

① **以下のように進む**
「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット接続」(ない場合は次へ)→「ネットワーク接続」→「ローカルエリア接続」→「プロパティ」
② **全般タブをクリックし、以下の設定をする**
- Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有にチェックを入れる
- インターネットプロトコル(TCP/IP) にチェックを入れる

3 共有フォルダ設定

① **共有したいフォルダを右クリックして、「共有とセキュリティ(H)...」をクリックする**
② **共有タブの「ネットワーク上での共有とセキュリティ」で、以下の設定をする**
- 「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」にチェックを入れる
- 共有名を12文字以内(日本語不可)で設定する
- 「ネットワークユーザによるファイルの変更を許可する」にチェックを入れる

- ウィルス対策ソフトを使用している場合は、ウィルス対策ソフトのファイアウォール設定を無効にする必要があります。
- 「ローカルでの共有とセキュリティ」の「このフォルダをプライベートにする(M)」にチェックがあるフォルダの下ではネットワークでの共有はできません。
- SP2で、Windowsファイアウォールを有効にしている場合は、以下の操作でファイルとプリンタ共有を例外に指定してください。

① **以下のように進む**
「コントロールパネル」→「セキュリティセンター」→「Windowsファイアウォール」
② **全般タブで「例外を許可しない(D)」のチェックをはずす**
③ **例外タブで「ファイルとプリンタの共有」にチェックを入れる**

次のページにつづく

- Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows XP Home Editionの場合のセキュリティを高める設定

※ 以降の手順は、次の状態であることが前提の説明になっています。
- ● Windows XPの「Service Pack 2」が導入済みで、ファイアウォールが有効になっている
  - •「Service Pack 2」の導入については注意事項があります。導入のしかたも含めて、詳しくはMicrosoftのホームページをご覧ください。
- ● 前ページの「Windows XPの場合」の「お知らせ」に従って、ファイルとプリンタを共有にしている

1 以下の操作で、本機のIPアドレスを確認する
- **① 「メニュー」→「初期設定」→「通信設定」→「通信接続設定」→「LAN端子設定」→「IPアドレス設定」と進む**
- **② 「IPアドレス」と「サブネットマスク」を確認し、メモする**
  (例)　IPアドレス　　　：192.168.1.13
  　　　サブネットマスク：255.255.255.0

2 Windowsファイアウォールの例外タブでチェックした「ファイルとプリンタの共有」を選択し、「編集(E)...」ボタンをクリックする

3 「TCP 139」、「TCP 445」、「UDP 137」、「UDP 138」の各項目について、以下のように設定を変更する
- **① 「スコープの変更(C)...」ボタンをクリックする**
- **② 「カスタムの一覧(C)」を選択し、入力欄に、手順(1)でメモしたIPアドレス、またはIPアドレスとサブネットマスクを入力する**
  - ● 本機のIPアドレスが固定の場合の例(IPアドレスのみ)
    192.168.1.13
  - ● 本機のIPアドレスが自動取得の場合の例(IPアドレスとサブネットマスク)
    192.168.1.13 (IPアドレス)
    255.255.255.0 (サブネットマスク)
- **③ 「OK」ボタンをクリックして「スコープの変更」を完了させる**
- **④ 各項目について、同様に設定する**

4 「OK」ボタンをクリックして「サービスの編集」を完了させる

5 「OK」ボタンをクリックする
これで設定完了です。

※ 外出時などセキュリティの弱い場所でネットワーク接続するときには、Windowsファイアウォールの全般タブで、「例外を許可しない(D)」にチェックを入れておくことをおすすめします。

Windows 2000 の場合

1 ネットワーク設定
- **① 以下のように進む**
  「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイアルアップ接続」→「ローカルエリア接続」→「プロパティ」
- **② 全般タブをクリックし、以下の設定をする**
  - ● Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有にチェックを入れる
  - ● インターネットプロトコル(TCP/IP)にチェックを入れる

2 コンピュータ名、ワークグループの設定
- **① マイコンピュータを右クリックし、プロパティをクリックしてシステムのプロパティを開く**
- **② ネットワークIDタブをクリックする**
- **③ プロパティ(R)ボタンをクリックする**
- **④ 以下の設定をする**
  - ● コンピュータ名
    他の機器と重ならないように名前を設定する
  - ● ワークグループ名
    ワークグループ(W)を選択し、ワークグループ名を入力する
    本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

3 共有フォルダ設定
- **① 共有したいフォルダを右クリックして、「共有(H)...」をクリックする**
- **② 共有タブをクリックし、以下の設定をする**
  - ●「このフォルダを共有する」にチェックを入れる
  - ● 共有名を12文字以内(日本語不可)で設定する
  - ●「ユーザ制限」を「無限大」にする
  - ●「アクセス許可」のフルコントロールを許可にする

Windows Vista Home Basic の場合

1 コンピュータ名、ワークグループの設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[システム]→[システムの詳細設定]をクリックする
② [コンピュータ名]タブをクリックし、他の機器と重ならないように名前を設定する
③ 同タブで、[ワークグループ名]を「WORKGROUP」に設定する

2 ネットワーク設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]→[ネットワーク接続の管理]をクリックする
② [ローカルエリア接続]を右クリックし、[プロパティ]をクリックする
③ [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有]にチェックを入れる
④ [インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IP)]にチェックを入れる

3 共有設定(3種類)

3-❶ パブリック設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
② [共有と探索]の項目で、以下のように設定する
- [ネットワーク探索]: 有効
- [ファイル共有]:有効
- [パブリックフォルダ共有]:有効(ファイルを開く、変更する、作成するが可能)
- [パスワード保護機能]:無効

※「Public」というフォルダが機器検索で発見されます。

3-❷ 共有フォルダ設定(Windowsユーザを援用)
① 共有したいフォルダを右クリックし、[共有]をクリック
② PCでのユーザが[共有を許す人々]に[アクセス許可のレベル]が[所有者]として登録されているのを確認し、[共有]をクリックする
③ [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
④ [共有と探索]の項目で、以下のように設定
- [ネットワーク探索]: 有効
- [ファイル共有]:有効

※ 機器検索時にユーザ名とパスワードを入力すると共有にしたフォルダ名が発見されます。

3-❸ 共有フォルダ設定(Guestアカウント)
① 共有したいフォルダを右クリックし、[共有]をクリックする
② [共有を許す人々]に「Guest」を追加し、[アクセス許可のレベル]を、[共同所有者]か[投稿者]に設定し、[共有]をクリックする
③ [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]をクリック
④ [共有と探索]の項目で、以下のように設定する
- [ネットワーク探索]: 有効
- [ファイル共有]:有効
- [パスワード保護機能]:無効

※ 機器検索をすると、共有にしたフォルダ名が発見されます。

Windows Vista(Home Premium, Business, Ultimate)の場合

1 コンピュータ名、ワークグループの設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[システムとメンテナンス]→[システム]→[システムの詳細設定]をクリックする
② [コンピュータ名]タブをクリックし、他の機器と重ならないように名前を設定する
③ 同タブで、[ワークグループ名]を「WORKGROUP」に設定する

2 ネットワーク設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ファイルの共有の設定]→[ネットワークと共有センター]→[ネットワーク接続の管理]をクリックする
② [ローカルエリア接続]を右クリックし、[プロパティ]をクリックする
③ [Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有]にチェックを入れる
④ [インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IP)]にチェックを入れる

3 共有設定(3種類)

3-❶ パブリック設定
① [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ファイルの共有の設定]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
② [共有と探索]の項目で、以下のように設定する
- [ネットワーク探索]: 有効
- [ファイル共有]:有効
- [パブリックフォルダ共有]:有効(ファイルを開く、変更する、作成するが可能)
- [パスワード保護機能]:無効

※「Public」というフォルダが機器検索で発見されます。

3-❷ 共有フォルダ設定(Windowsユーザを援用)
① 共有したいフォルダを右クリックし、[共有]をクリックする
② PCでのユーザが[共有を許す人々]に[アクセス許可のレベル]が[所有者]として登録されているのを確認し、[共有]をクリックする
③ [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ファイルの共有の設定]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
④ [共有と探索]の項目で、以下のように設定
- [ネットワーク探索]: 有効
- [ファイル共有]:有効

※ 機器検索時にユーザ名とパスワードを入力すると共有にしたフォルダ名が発見されます。

3-❸ 共有フォルダ設定(Guestアカウント)
① 共有したいフォルダを右クリックし、[共有]をクリックする
② [共有を許す人々]に「Guest」を追加し、[アクセス許可のレベル]を、[共同所有者]か[投稿者]に設定し、[共有]をクリックする
③ [Windowsスタート]→[コントロールパネル]→[ファイルの共有の設定]→[ネットワークと共有センター]をクリックする
④ [共有と探索]の項目で、以下のように設定する
- [ネットワーク探索]: 有効
- [ファイル共有]:有効
- [パスワード保護機能]:無効

※ 機器検索をすると、共有にしたフォルダ名が発見されます。

DLNA認定サーバーについて

■ DLNA®とは

● DLNA（Digital Living Network Alliance）とは、デジタル時代の相互接続性を実現させるための標準化活動を推進している団体です。
● 現在、DLNA認定機器にはコンテンツを送り出すDLNA認定サーバーと、コンテンツを再生することができるDLNA認定プレーヤーがあります。本機はDLNA認定プレーヤー（動画／静止画）です。

■ 本機でできること

● DLNA認定サーバーが公開しているコンテンツを本機で視聴することができます。（接続のしかたは 60 ）
※ 早送り/早戻し再生などの特殊再生は、接続する機器によってはできない場合があります。
● 本機に接続したDLNA認定サーバーは「機器選択」の画面に表示され、「録画リストの基本操作」（操作編 44 ）や「写真をテレビで見る」（操作編 59 ）の操作でコンテンツを視聴することができます。
● 本機で視聴できるコンテンツのフォーマットは以下のとおりです。
- 映像（LAN再生）…………MPEG-2（VRフォーマット）
- 映像に附随する音声……リニアPCM、ドルビーデジタル、MPEG-1 Layer Ⅱ
- 静止画（写真再生）………JPEG（ただし、ファイルサイズが4MB以上の場合には、DLNA認定サーバー側で4MB以下にリサイズしてから公開している場合のみ表示できます）

● 本機は著作権保護に関する規格「DTCP-IP」（下の「お知らせ」参照）に対応しています。

■ 設定の手順

● 「IPアドレス設定」、「DNS設定」ともに「自動取得」で使用する前提です。本機でDLNA認定サーバーの設定はできませんので、あらかじめルーターやDLNA認定サーバー側で設定してください。（DLNA認定サーバーやルーターの取扱説明書をご覧ください
● 一般のDLNA認定サーバーはMACアドレスによるアクセス制限をかけています。本機のMACアドレスは、「通信接続設定」 86 〜 87 のメニューで確認できます。

❶ ルーター、DLNA認定サーバー、本機の順に電源を入れる

❷ 「LAN端子設定」（中央のLAN端子） 86 〜 87 で、IPアドレスが「192.168.XXX.XXX」、「172.16.XXX.XXX 〜 172.31.XXX.XXX」または「10.XXX.XXX.XXX」（XXXは数字）になっていることを確認する

DTCP-IP対応サーバーについて

■ 本機でできること

● LANハードディスクやUSBハードディスクに録画したデジタル放送番組を、DTCP-IP方式で著作権を保護しながらDTCPIP対応サーバーにダビング（「1回だけ録画可能」番組はムーブのみ、「ダビング10」番組はコピー 9回＋ムーブ1回）することができます。（接続のしかたは 60 、操作のしかたは操作編 47 ）
- すべてのDTCP-IP対応サーバーに対してダビングすることができるわけではありません。対応できる機器については、ホームページで順次公開する予定です。（ホームページについては、 16 をご覧ください）
- ダビング時の動作は番組のコピー制御情報に従います。
- DTCP-IP対応サーバーにダビングした番組を、他のDTCP-IP対応テレビ（REGZA Z2000、Z3500、ZH500、ZV500、Z7000、ZH7000の各シリーズなど）で視聴することができます。

■ 設定の手順

● DLNA認定サーバーの場合と同じです。（「DLNA認定サーバー」を「DTCP-IP対応サーバー」と読み替えてください）

● DTCP-IPについて
DTCP-IP（「Digital Transmission Content Protection over Internet Protocol」の略）はネットワーク上でデジタル放送などの著作権保護付データを配信するための規格です。この規格に対応することによって、著作権保護付データ（たとえば、1世代のみ録画が許された番組など）をホームネットワーク上で扱うことができます。また、ホームネットワーク外へのデータ伝送を禁止することで、著作権保護付データを保護します。
● オーディオコンテンツ（MP3、WAVなど）を再生することはできません。
● DLNA認定サーバーが公開している一部のコンテンツ（本機で視聴できるフォーマット以外のコンテンツなど）は再生できない場合があります
● 本機で受信した番組をDLNA認定サーバーに記録（録画・録音など）することはできません。
● 複数のDLNA認定サーバーを接続した場合、2台目以降の機器が「機器選択」（操作編 44 、 59 ）の画面に表示されるまでに15分程度の時間がかかることがあります。（機器選択画面を終了させて、もう一度機器選択画面を出すと表示される場合もあります）
● DLNA®はDigital Living Network Allianceの登録商標です。

LANハードディスク設定

LANハードディスクの登録と解除

● LANハードディスクを接続した場合は、必要に応じて以下の設定をしてください。

登録について

● LANハードディスクを本機のハードディスク専用LAN端子につないでいる場合は、通常は自動登録されますので、この操作での登録は不要です。(自動登録されるのはguestユーザーでアクセス(ファイルの読み書き)可能な共有フォルダのみです)
● 次の場合に、以下の操作で登録してください。
- 次ページの「登録モード設定」を「手動」に設定している場合で、新たなLANハードディスクを登録する場合
- 9台以上のLANハードディスクをつないでいる場合(登録できるのは、最大8台までです)
- 共有フォルダを使用する際、ユーザー名とパスワードが必要な機器の場合

解除について

● 本機からはずして使用しなくなったLANハードディスクの登録を解除することができます。

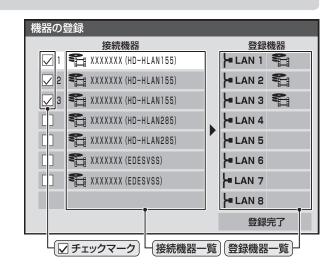
1 以下の操作で「LANハードディスク設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「LANハードディスク設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「機器の登録」を選び、決定を押す

● 登録画面が表示されます。
● LANハードディスクが1台もつながっていない場合は、その旨のメッセージが表示されます。

3 登録(または解除)したい機器を▲·▼で選び、決定を押す

● チェックマーク「✓」が付き、登録機器一覧の登録番号1～8の空いている小さい番号順に登録されます。
● 決定を押すたびに、「登録☑」と「解除☐」が交互に切り換わります。
解除すると、登録機器一覧からアイコンが消えます。
● 予約設定されているLANハードディスクは解除できません。

登録したいLANハードディスクが表示されていない場合

● 正しく接続されていることと、電源がはいっていることを確認して赤を押します。

ユーザー IDを切り換えるには

● LANハードディスクに複数のユーザー(ユーザー名とパスワード)が登録されている場合、共有フォルダにアクセスする際のユーザーを切り換えるには、以下の操作で入力します。

❶ 青を押す
● ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。
❷ ▲·▼·◀·▶で「ユーザー名」を選び、決定を押す
● 文字入力画面が表示されます。
❸「ユーザー名」を入力する
● 文字入力のしかたは、操作編 26 をご覧ください。
❹「パスワード」も同様にして入力する
❺ ▲·▼·◀·▶で「入力完了」を選び、決定を押す
● 正しく認証された場合は、入力されたユーザー IDでアクセスできる共有フォルダの一覧に切り換わります。

4 ▶で「登録完了」を選び、決定を押す

5 終了を押して、メニューを消す

● ユーザー IDを切り換えた場合、次回このLANハードディスクにアクセスしたときに、変更後のユーザー名とパスワードの入力が必要です。(guestユーザーの場合は不要です)
● ここで入力したユーザー名やパスワードは本機内に記憶されます。この設定をしたLANハードディスクで「動作テスト」をする際には、本機はこの情報を使ってLANハードディスクにアクセスします。

LANハードディスク、パソコン、DLNA認定サーバー、DTCP-IP対応サーバーをつなぐ つづき

登録モード設定

※ 通常は、この設定は不要です。

● LANハードディスクを自動で登録するか、手動操作で登録するかの設定をします。

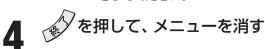
● ハードディスク専用LAN端子につないだLANハードディスクは、10分間ほど待てば自動で登録されます。LAN端子(中央)(ルーターを経由した場合を含みます)につないだLANハードディスクは、手動で登録する必要があります。ほかにも、本機に接続しているLANハードディスクのうち、一部だけを登録したい場合や、共有フォルダを使用する際にユーザー名とパスワードが必要な機器の場合は、以下の操作で「手動」にしてください。

1 前ページ手順1の操作で「LANハードディスク設定」画面にする

2 ▲·▼で「登録モード設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「手動」または「自動」を選び、決定を押す

- **自動**……ハードディスク専用LAN端子にLANハードディスクが接続されると、自動的にLANハードディスクが登録されます。自動登録されるのはguestユーザーでアクセス(ファイルの読み書き)可能な共有フォルダのみです。
- **手動**……自動登録をしないで、手動で登録をするモードです。「手動」にした場合は、前ページの「LANハードディスクの登録と解除」で登録をしてください。

4
終了を押して、メニューを消す

自動削除設定

● ハードディスクの容量が足りない場合に、本機で録画した日付の古い録画済番組から自動的に削除する機能です。ただし、保護(操作編 48☞)されている録画番組は、自動削除されません。

● 保護をした録画済番組が多くなると、自動削除機能が働かなくなる場合があり、録画できる時間は短くなります。

1 前ページ手順1の操作で「LANハードディスク設定」画面にする

2 ▲·▼で「自動削除設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「する」または「しない」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

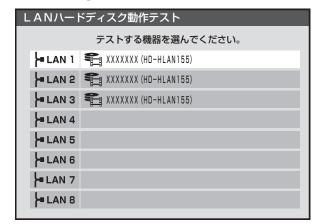
動作テスト

● 本機につないだLANハードディスクで、以下の動作ができるかテストします。

- **録画**……………………ハイビジョン画質での録画ができるかテストします。
- **同時録再**…………ハイビジョン画質での追っかけ再生や、録画しながらの録画済番組再生ができるかテストします。

1 前ページ手順1の操作で「LANハードディスク設定」画面にする

2 ▲·▼で「動作テスト」を選び、決定を押す

3 テストしたいLANハードディスクを▲·▼で選び、決定を押す

● テストが始まります。終了するまでに数分間かかります。

● テスト結果が「OK」となった動作ができます。

※ テスト結果は目安です。結果どおりの動作にならないことがあります。

4 終了を押して、メニューを消す

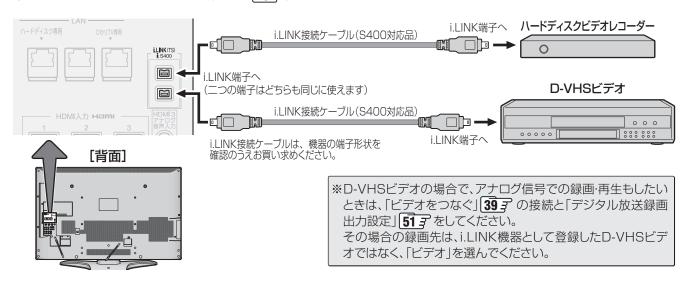
お知らせ

● 「録画再生設定」 51☞ もご覧ください。

i.LINK機器をつなぐ

機器の接続

● D-VHSビデオやハードディスクビデオレコーダー(デジタルハイビジョンハードディスクレコーダー)とi.LINK接続することで、次の機能を使うことができます。
① 本機(テレビ)のリモコンでD-VHSビデオやハードディスクビデオレコーダーを操作する(操作編 43)
② デジタル放送をデジタル録画する(操作編 28)

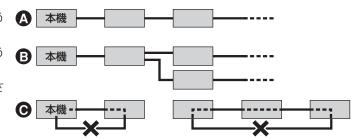
※D-VHSビデオの場合で、アナログ信号での録画・再生もしたいときは、「ビデオをつなぐ」39 の接続と「デジタル放送録画出力設定」51 をしてください。
その場合の録画先は、i.LINK機器として登録したD-VHSビデオではなく、「ビデオ」を選んでください。

■ 本機で使用できるi.LINK機器について

● 下表の製品については当社が独自に動作確認をしていますが、動作を保証するものではありません。
● 下表以外の製品では、本機との組合せで正しく動作しない場合や、i.LINK機器の登録ができない場合があります。

製　品	メーカー	形名(HS/STDモード対応)
D-VHS (デジタルハイビジョンビデオ)	東芝	A-HD2000
	日本ビクター	HM-DH20000、HM-DH30000、HM-DH35000、HM-DHX1、HM-DHX2、HM-DHS1
	松下電器産業	NV-DH1、NV-DH2、NV-DHE10、NV-DHE20
ハードディスクビデオレコーダー (デジタルハイビジョンハードディスクレコーダー)	東芝	THD-16A1(ディスクモード)
	アイ・オー・データ機器	HVR-HD120S(モード1)、 HVR-HD160M(ディスクモード)、 HVR-HD250M(ディスクモード)、 HVR-HD250F(ディスクモード)、 Rec-POT Rシリーズ(HVR-HD800Rなど全機種)、 Rec-POT EXシリーズ(HVR-HD1000EX)

■ i.LINK接続のしかた

● i.LINK接続では、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を通してつないだ機器も操作やデータのやりとりができます。ただし、接続する機器の仕様によっては、操作のしかたが異なったり、操作やデータのやりとりができなかったりする場合があります。

Ⓐ i.LINK機器は、i.LINKケーブルを使用して右図Ⓐのようにデイジーチェーン(直列つなぎ)でつなぎます。
Ⓑ i.LINK端子が三つ以上ある機器の場合は、右図Ⓑのように分岐してつなぐこともできます。
Ⓒ 右図Ⓒのようなループ状(環状)にはつながないでください。

i.LINK機器をつなぐ つづき

接続できる機器の数について

● 本機を含めて16台までデイジーチェーン（直列つなぎ）でつなげます。分岐して接続した場合は、最大63台まで接続できます。ただし、本機に登録できるのは8台までです。8台までは接続時に自動的に登録されますが、これよりも多くつないだ機器を本機で使いたい場合は、手動操作で登録済みの機器を解除してから使いたい機器を登録してください。詳しくは次ページの「i.LINK機器の登録と解除」をご覧ください。

通信速度について

● i.LINK機器にはその機器が対応している最大データ転送速度が、i.LINK端子の近くに表示されています。データ転送速度には、S100（100Mbps）、S200（200Mbps）、S400（400Mbps）の3種類が定められています。最大データ転送速度が異なる機器をつないだ場合や、機器の仕様によっては、実際の転送速度が遅くなることがあります。

接続についてのご注意

● 接続の際は、必ず「S400」対応のi.LINK専用ケーブル（4ピン、市販品）をご使用ください。「S400」対応以外のi.LINKケーブルを使うと信号が不安定になり、正しく動作しないことがあります。
● 一部の機器では、電源が切られていると信号を中継しない場合があります。このような機器をまたいで信号のやりとりをするときは、その機器の電源も入れてください。本機の場合、次ページの「外部機器からの制御」を「なし」に設定していると、電源が「切」のときには信号を中継できません。また、ダウンロード（操作編 87）が実行されるときにも、信号を中継できません。本機の二つのi.LINK端子に機器をつないで、その機器間で信号のやりとりをする場合はご注意ください。

i.LINKでの再生について

● 本機で扱うことのできるデジタル信号は、地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送のみです。これらの放送以外の信号（DVカメラの信号など）については、まったく再生できないか、または正常に再生できません。

i.LINK機能をご使用の際のご注意

● i.LINK機能の使用中は、使用していない他のi.LINK機器のケーブルの抜き差しや、新しいi.LINK機器の追加、電源の入/切はしないでください。
● 正しく制御できなくなったときは、各機器のケーブルの抜き差し（リセット動作）で復帰することがあります。
● 登録機器名が正しく表示されないときは、一度ケーブルを抜き、次ページの手順で機器を解除したあとで再度機器をつないでください。
● 複数の機器から同時にハードディスクビデオレコーダーを制御しないでください。意図しない動作をして、録画済みの番組が消えたりするおそれがあります。
● 複数の機器を接続していて動作が不安定な場合、使用していない機器をはずしたり、接続の順番を変更したりすると安定することがあります。
● ハードディスクビデオレコーダーの機種によっては、動作モード（D-VHSモードとハードディスクレコーダーモード）を切り換えられるものがあります。動作モードを切り換えたときには、必ず一度ケーブルを抜き、機器を解除したあとで再度機器をつないでください。本機での登録時のモードと異なっていると、正しく動作しません。
● ハードディスクビデオレコーダーの機種によっては、追っかけ再生、録画中の別番組の再生、録画中の録画リスト表示などの機能を操作できないことがあります。

他の機器から本機をi.LINK制御する際のご注意

● 次ページの「i.LINK設定」で、「外部機器からの制御」を「あり」に設定すると、他の機器から本機を制御できます。ただし、本機の電源を「入」または「待機」にしておく必要があります。

● i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間でデジタル映像信号やデジタル音声信号、データ信号を双方向で通信できるシリアルインターフェースで、i.LINKケーブル1本で接続することができます。
● DVビデオカメラなどのDV機器は、やりとりする信号の種類が異なるため、つないで使用することはできません。
● 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。この技術は、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送での著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像、音声、データでは、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、映像、音声、データのやりとりができない場合があります。

i.LINK設定

i.LINK機器の登録と解除

● i.LINK端子にD-VHSビデオなどのi.LINK機器（67の表を参照）をつないだ場合や、使用しない機器の登録を解除したい場合には、以下の設定をしてください。

登録について

● 通常は、本機にi.LINK機器が接続されると自動的に機器登録されるので、登録は不要です。
● 次の場合には、以下の手順で登録してください。
- 右表の「登録モード設定」を「手動」に設定している場合で、新たなi.LINK機器を登録する場合
- 9台以上のi.LINK機器をつないでいる場合（登録できるのは、最大8台までです）

● 登録できるのはD-VHSビデオとハードディスクビデオレコーダーです。

解除について

● 接続をはずして使用しなくなった機器の登録を解除することができます。
● つながっている機器の登録を解除する場合は、「登録モード設定」を「手動」に設定してください。

1 以下の操作で「i.LINK設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

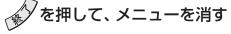
❸ ▲･▼で「i.LINK設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「機器の登録」を選び、決定を押す

● 登録画面が表示されます。
● i.LINK機器が1台もつながっていない場合は、その旨のメッセージが表示されます。

3 登録（または解除）したい機器を▲･▼で選び、決定を押す

● チェックマーク「✓」が付き、登録機器一覧の登録番号1～8の空いている小さい番号順に登録されます。
● 決定を押すたびに、「登録☑」と「解除□」が交互に切り換わります。
● 予約設定されているi.LINK機器は解除できません。

4 終了を押して、メニューを消す

その他のi.LINK設定

● お買い上げ時は、基本的な状態に設定されています。変更する場合は、左の手順2で必要に応じて各項目を選択して設定をしてください。項目と内容は下表のとおりです。

設定項目	内　容
登録モード設定	● 通常は「自動」のままで使用できますが、i.LINK機器の一部だけを登録したい場合や、自動登録の動作が不安定な場合は「手動」にしてください。 • **自動**…i.LINK機器を自動で登録します。 • **手動**…左記手順**1**～**3**に従ってi.LINK機器を手動で登録します。
ブロードキャスト入力設定	• **オン**…本機でブロードキャスト信号を受け取ります。 • **オフ**…本機でブロードキャスト信号を受け取りません。
最大データ転送速度設定	• **最適**…通常はこれに設定します。 • **S100**…転送速度が100Mbpsのケーブルや機器を使用する場合に設定します。
D-VHSテープ検出	• **オン**…D-VHSビデオで録画する際に、D-VHSテープがはいっているか検出します。 • **オフ**…D-VHSテープの検出をしません。
外部機器からの制御	• **あり**…i.LINK接続されている他の機器から本機を制御できるようにします。 • **なし**…i.LINK接続されている他の機器から本機を制御できないようにします。
テレビ電源入連動	• **連動する**……本機の電源を「入」にしたときに、「電源入連動機器」で設定した機器の電源も「入」にします。 • **連動しない**…電源は連動しません。
電源入連動機器	● 本機の電源「入」に連動させるハードディスクビデオレコーダーを1台だけ設定します。

外部機器の接続と設定

● 録画中はi.LINK設定はできません。
● ブロードキャストとは、i.LINK接続されている複数の機器に同時に映像や音声の信号を送り、それぞれの機器で受けるようにした機能のことです。本機は入力にのみ対応しており、お買い上げ時の設定は「オフ」です。本機でこの機能を使いたい場合には「オン」に設定します。
● 「D-VHSテープ検出」の設定で、D-VHSテープを入れても、はいっていないというメッセージが表示される場合は「オフ」に設定してください。これは、D-VHSビデオにテープの自動検出機能がないためです。
● 本機につないだときに自動登録された機器がハードディスクビデオレコーダーの場合は、自動的に「電源入連動機器」に設定されます。
● 「テレビ電源入連動」で「連動する」に設定したハードディスクビデオレコーダーの電源を、本機からの操作で「待機」にすることはできません。
● 「録画再生設定」51もご覧ください。

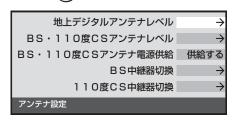
アンテナの設定と調整

地上デジタル用アンテナの方向調整

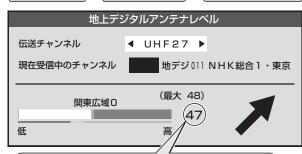
- 「はじめての設定」をしても地上デジタル放送が正しく受信できなかったときは、お買い上げの販売店などにご相談のうえ、以下の操作でアンテナの方向調整をしてください。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上デジタルアンテナレベル」を選び、決定を押す

3 ◀·▶で「伝送チャンネル」を選ぶ

- お住まいの地域の地上デジタル放送に使用されている伝送チャンネルを選んでください。
- ◀·▶を押すたびに以下のように切り換わります。UHF13～UHF62の範囲で選びます。

VHF1～VHF12 ↔ UHF13～UHF62 ↔ CATV13～CATV63

受信できるアンテナレベルの目安は、43以上です。（表示される数値は、受信C/Nを換算したものです）

4 アンテナをゆっくり動かして、「アンテナレベル」の数値が最大となるように調整する

- アンテナレベルがふえると ↗ が表示され、減ると ↘ が表示されます。
- 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認してください。

5 アンテナを固定して、決定を押す

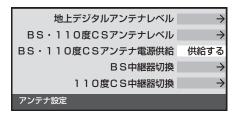
6 終了を押して、メニューを消す

BS・110度CSデジタル用アンテナ電源供給設定

- アンテナに供給する電源をアンテナ電源といいます。
- お買い上げ時は、「供給する」に設定されています。マンションなどで、アンテナに他の機器から電源が供給されているときは、「供給しない」に設定します。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「BS・110度CSアンテナ電源供給」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「供給する」または「供給しない」を選び、決定を押す

- 項目を選ぶとその状態に設定されます。

4 終了を押して、メニューを消す

■ BS・110度CSデジタル用アンテナのアンテナ電源供給設定について
- 「供給する」に設定した場合でも、本機の電源が「切」または「待機」のときは、番組情報の取得中や予約した番組の録画中、およびダウンロード中などの場合以外はアンテナ電源が供給されません。
- 本機の電源を入れないで、DVDレコーダー単独で録画するときなどは、本機以外からアンテナ電源を供給する必要があります。

BS・110度CSデジタル用アンテナの方向調整

● アンテナの方向調整は、お買い上げの販売店にご相談ください。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

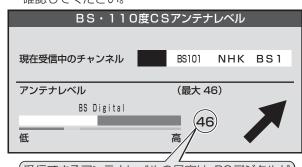
2 ▲・▼で「BS・110度CSアンテナレベル」を選び、決定を押す

3 BS―CSを押して、放送の種類（BSまたは110度CS）を選ぶ

4 契約しているチャンネル、または無料チャンネルをチャンネルで選ぶ

5 アンテナをゆっくり動かして、「アンテナレベル」の数値が最大となるように調整する

● アンテナレベルがふえると ↗ が表示され、減ると ↘ が表示されます。

● 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認してください。

受信できるアンテナレベルの目安は、BSデジタルが36以上、110度CSデジタルが28以上です。（表示される数値は、受信C/Nを換算したものです）

6 アンテナを固定して、決定を押す

7 終了を押して、メニューを消す

BS中継器切換／110度CS中継器切換

● 衛星の中継器が故障してすべての放送が受信できなくなってしまったときに、他の中継器に切り換えると、故障した中継器以外の放送が受信できます。通常は切換えの必要はありません。

● そのほかにも、外部機器からの電波の妨害などで一部の中継器が受信できない場合も同様です。

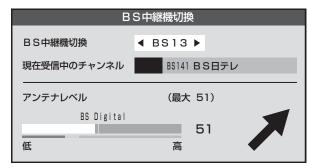
1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

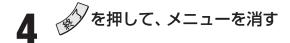
2 ▲・▼で「BS中継器切換」または「110度CS中継器切換」を選び、決定を押す

3 ◀・▶で中継器を切り換え、放送が受信できたら、決定を押す

（例）BS中継器切換の場合

● 選択できる中継器は

- BSデジタル放送の場合：
  BS01、BS03、BS05、BS07、BS09、BS11、BS13、BS15
- 110度CSデジタル放送の場合：
  ND02、ND04、ND06、ND08、ND10、ND12、ND14、ND16、ND18、ND20、ND22、ND24

※ 中継器は2008年9月現在の状態です。

4 終了を押して、メニューを消す

■ BS・110度CSデジタル用アンテナ方向調整について

● アンテナ線がショートしていると、手順5の画面に「アンテナ線がショートしています。」のメッセージが表示されます。その場合は、本体の電源ボタンで電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ショートの原因を取り除いてから、もう一度電源を入れて手順1からやり直してください。（※電源プラグを抜く前に、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」13をお読みください）

チャンネル設定

● 「はじめての設定」32 が済んでいて、特に変更の必要がない場合は「チャンネル設定」をする必要はありません。
● チャンネル設定には、「自動設定」と「手動設定」75 があります。

自動設定

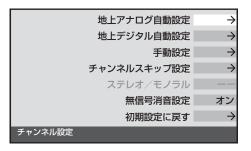
● 「自動設定」では、地上アナログ放送と地上デジタル放送が設定できます。
● BSデジタルチャンネルと、110度CSデジタルチャンネルについては、お買い上げ時に設定されています。（操作編 9 のお知らせをご覧ください）

地上アナログ放送の場合

● テレビをご覧になる地域で放送されているチャンネル（VHF/UHF）を自動で設定することができます。
● お買い上げ時は、リモコンのダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 にはVHFの1 ～ 12チャンネルがボタンの番号に合わせて設定されています。
● 地上アナログ自動設定は、「地上アナログ放送の自動設定一覧表」（104 ～ 111）の内容で設定されますが、チャンネルが変更されて受信できなくなることがあります。受信できないチャンネルがあるときは、「手動設定」75 で設定してください。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上アナログ自動設定」を選び、決定を押す

3 お住まいの地方を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

4 お住まいの都道府県を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

5 お住まいの地域・都市を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

● お住まいの地域や都市名が記載されていない場合は、アンテナが向いている近くの地域名を選びます。
● 自動で設定されるチャンネルについては、104 ～ 111 の一覧表をご覧ください。
● 設定された内容を変更したい場合は「手動設定」75 をしてください。

6 終了を押して、メニューを消す

■ 地上アナログ放送のチャンネル設定について

● お使いの地域・都市名で地上アナログ自動設定をしても正しく受信できない場合は、36 をご覧ください。
● ダウンロード（操作編 87）によって、本機内に設定している「地上アナログ放送の自動設定一覧表」（104 ～ 111）の内容が変わる場合があります。その結果、選択の手順**3** ～ **5**の項目が変わる場合もあります。
● 設定したチャンネルを一覧表示して確認する場合や、受信できないチャンネルがあるときは、「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」75 で設定してください。
● 地上アナログ放送の番組表を使用する場合で、上の手順**3**、**4**で設定した地域以外のチャンネルを受信する場合は、必要に応じて「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」で、該当するチャンネルの「受信地域」を変更してください。

地上デジタル放送の場合

● 地上デジタル放送の自動設定には、引越しなどで受信地域が変わったときにする「初期スキャン」と、放送チャンネルに変更があったときにする「再スキャン」があります。また、本機の電源が「切」または「待機」のときに自動的に行われる「自動スキャン」もあります。

初期スキャン

● 受信可能なチャンネルを自動的に探して、リモコンの［1］～［12］に放送の運用規定に基づいて設定します。
また、初期スキャン終了後の手順の中で「今すぐニュース番組登録」もできます。
● 「初期スキャン」をするとこれまでに選局設定した内容は、すべて消去されて、設定し直されますのでご注意ください。ただし、各放送局ごとにお客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数などは消去されません。
● 「はじめての設定」終了後、新たに開局した地上デジタル放送チャンネルを登録する場合や中継局が新設、変更された場合は、次ページの「再スキャン」をしてください。
● 自動設定される内容は「地上デジタル放送の放送（予定）一覧表」（112～113）が目安となります。

1 以下の操作で「地上デジタル自動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「地上デジタル自動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「初期スキャン」を選び、決定を押す

3 お住まいの地方を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

4 お住まいの都道府県または地域を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

● データ放送用のメモリー割当画面が表示された場合は37をご覧ください。

5 初期スキャン終了のメッセージ画面が表示されたら、以下の操作をする

設定された内容を確認する場合

❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す
❷ 設定内容を確認したら決定を押す

● 設定された内容を変更したい場合は、「初期スキャン」終了後に「手動設定」76をしてください。

設定された内容を確認しない場合

❶ ◀·▶で「いいえ」を選び、決定を押す

6 「今すぐニュース番組登録」をする

● 「はじめての設定」の手順**10**「今すぐニュース設定」34を参照して、番組の自動登録をしてください。

7 終了を押して、メニューを消す

●「はじめての設定」32と「初期スキャン」では、地方·都道府県·地域の設定のしかたが異なっています。これは「はじめての設定」では、地上アナログと地上デジタルの設定を同時にまとめて行っているためです。

チャンネル設定 つづき

自動設定 つづき

地上デジタル放送の場合 つづき

再スキャン

● 新たに放送局が開局したりしてチャンネルがふえた場合など、放送に変更があった場合は、「再スキャン」をすれば、チャンネルを追加設定することができます。

● 「初期スキャン」（33 または 73）をしていないと「再スキャン」はできません。

1 以下の操作で「地上デジタル自動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲･▼で「地上デジタル自動設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「再スキャン」を選び、決定を押す

● データ放送用のメモリー割当画面が表示された場合は 37 をご覧ください。

● 再スキャンの結果、放送に変更があった場合は、1～12への設定方法を選ぶ画面が表示されます。▲･▼でどちらかを選び、決定を押します。

• **すべて設定し直す** …… 地上デジタル放送のすべての設定をし直します。

• **現在の設定に追加する** … 1～12の未設定のボタンだけを新たに設定します。

3 再スキャン終了のメッセージ画面が表示されたら、以下の操作をする

設定された内容を確認する場合

❶ ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

❷ 設定内容を確認したら決定を押す

● 設定された内容を変更する場合は、「再スキャン」終了後に「手動設定」76 をしてください。

設定された内容を確認しない場合

❶ ◀･▶で「いいえ」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

自動スキャン

● 「自動スキャン」は本機の電源が「切」または「待機」のときに行われます。

● **「初期スキャン」（33 または 73）をしていないと、自動スキャンは行われません。**

● 「自動スキャン」で放送局の変更が見つかった場合は、本機のチャンネル設定の内容を自動で変更し、「本機に関するお知らせ」（操作編 25）でお知らせします。

● 変更後の受信できるチャンネルについては番組表（操作編 12）でご確認ください。（枝番（操作編 9）だけが変更されている場合もあります）

● お買い上げ時は「自動スキャンする」に設定されています。チャンネル設定した内容を自動で変更させたくない場合は、「自動スキャンしない」に設定してください。

● 「自動スキャン」は不定期に行われます。このため、「自動スキャンする」に設定していても、本機のチャンネル設定が最新になっていない場合があります。

※ 放送局の変更があった場合（もよりの放送局などから、そのような情報を得た場合）は、「再スキャン」をすることをおすすめします。また、録画予約などをしていた場合は、予約チャンネルをご確認ください。

1 以下の操作で「地上デジタル自動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲･▼で「地上デジタル自動設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「自動スキャン」を選び、決定を押す

3 ▲･▼で「自動スキャンする」または「自動スキャンしない」を選び、決定を押す

● 「自動スキャンしない」を選ぶと、「再スキャン」をしないかぎり、新しいチャンネルや変更になったチャンネルが受信できません。

4 終了を押して、メニューを消す

■ 「再スキャン」の動作について

● 前ページの「初期スキャン」の場合は、地上ダイレクト選局ボタン1～12にすでに設定されている放送局をすべて消去して、新たに放送局を設定し直します。
「再スキャン」では次のようになります。

• 放送局がすでに登録されている地上ダイレクト選局ボタンについて、「再スキャン」によって放送システム上の規定で設定すべき放送局が新たに見つかった場合、すでに登録されている放送局をそのまま残すのか、新たな放送局に設定し直すのかの選択ができます（手順2の操作）。（すべてのボタンについてまとめて選択します。個別の選択はできません。個別に設定を変えたい場合は、「再スキャン」終了後に「手動設定」76 をしてください）

• 新たな放送局が見つからなかった地上ダイレクト選局ボタンについては、そのまま設定が残ります。

● 「再スキャン」終了後の各チャンネルの構成については、番組表で確認できます。（操作編 12）

● 「再スキャン」をしても、枝番（操作編 9）については、通常は変更されません。

● 「再スキャン」によってチャンネルの設定がされても、電波が弱い場合には正常には受信できないことがあります。

手動設定

● リモコンのボタンに設定されている内容を変更したいときに手動設定をします。

地上アナログ放送(VHF／UHF／CATV C13～C63)の場合

● 以下の場合にも手動設定をしてください。
- 自動設定で正しく受信できないとき
- 設定されたチャンネル表示を変えたいとき
- 地上アナログ放送用の番組表の地域設定を変更するとき
- CATVのチャンネルを[1]～[12]に設定したいとき

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲･▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「地上アナログ」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン([1]～[12])の番号を▲･▼で選び、決定を押す

手動設定　地上アナログ

リモコン	チャンネル	表示	放送局
1	1	地アナ1	NHK総合
2	2	地アナ2	
3	3	地アナ3	NHK教育
4	4	地アナ4	日本テレビ
5	16	地アナ16	放送大学
▼ 6	6	地アナ6	TBS

リモコンボタンの番号
※▼を押し続ければ、7～12が表示されます。

4 次の❶～❹の手順で、それぞれの項目を設定する

手動設定　地上アナログ

	リモコンボタン	5
❶	チャンネル	◀ 14 ▶
❷	表示	地アナ5
❸	放送局	TOKYO MX
❹	受信地域	23区

❶ ▲･▼で「チャンネル」を選び、◀･▶で地上アナログ放送のチャンネルを選ぶ
- ◀･▶を押すと次のように切り換わります。(◀･▶を押し続けると、チャンネルを早く切り換えることができます)

地上アナログ放送(1～62) ⟷ CATV(C13～C63)

- 色が消えたり、映像が不安定になったりしたときに、«･»で微調整するとよくなる場合があります。
  ※ 調整前の状態に戻すには◀･▶でチャンネルを選び直してください。

❷ ▲･▼で「表示」を選び、画面に表示させるチャンネル番号を◀･▶で選ぶ
- ◀･▶を押すと次のように切り換わります。

地上アナログ放送(1～62) ⟷ CATV(C13～C63)
BSアナログ放送(BS1、BS3、…BS15)(CATVで放送されている場合)

❸ ▲･▼で「放送局」を選び、◀･▶で放送局名を選ぶ
- 「表示しない」を選ぶこともできます。

❹ ▲･▼で「受信地域」を選び、◀･▶でアンテナを向けている放送局の地域を選ぶ
※ これは地上アナログ放送の番組表を使うための設定です。

5 決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順**3**～**5**を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

- 「チャンネル設定」をした地上アナログチャンネルは、「チャンネルスキップ設定」79が自動的に「受信」に設定されます。
- 手動設定をしたあとで、「地上アナログ自動設定」72や「はじめての設定」32をすると、手動設定をした内容が消えますので再度設定をしてください。

■ CATV(ケーブルテレビ)について
- CATVの受信は、サービスの行われている地域でだけ可能で、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。さらに、スクランブルのかかった有料放送の視聴、録画には、ホームターミナル(アダプター)が必要になります。詳しくは、CATV会社にご相談ください。

チャンネル設定 つづき

手動設定 つづき

地上デジタル放送の場合

● はじめて地上デジタル放送のチャンネル設定をする場合は、「初期スキャン」73をしてください。「初期スキャン」が行われていない状態では、「手動設定」はできません。

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上デジタル」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1～12)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

手動設定　地上デジタル

リモコン	チャンネル	放送局
1	テレビ	ＮＨＫ総合・東京
2	テレビ	ＮＨＫ教育・東京
3	―――	
4	テレビ	日本テレビ
5	テレビ	テレビ朝日
6	テレビ	ＴＢＳ

リモコンボタンの番号
※▼を押し続ければ、7～12が表示されます。

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で地上デジタルのチャンネルを選ぶ

手動設定　地上デジタル

リモコンボタン	1
チャンネル	◀ テレビ ▶
放送局	ＮＨＫ総合・東京
設定を削除する	

● ◀·▶を押すと次のように切り換わります。(◀·▶を押し続けると、チャンネルを早く切り換えることができます)

テレビ ⟷ データ ⟷ 地上デジタルのチャンネルを順に選局 ⟷ テレビ

● 「チャンネル」の欄に「－－－」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。

■「テレビ」または「データ」を選んだ場合

● 手順**3**で選んだ番号のボタンに、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネルまたは複数のデータ放送チャンネルがまとめて設定されます。

❶ ▲·▼で「放送局」を選ぶ

❷ 設定したい放送局名を◀·▶で選ぶ

(例) 手順**3**で「6」を選び、ここで「テレビ」を選ぶと、視聴時の操作で6を押すたびに、「TBS」の「テレビ」チャンネルが順次選局できます。

■地上デジタルのチャンネルを選んだ場合

● 手順**3**で選んだ番号のボタンに、ここで選んだ地上デジタルのチャンネルだけが設定されます。
※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(これを変えることはできません)。

(例) 手順**3**で「6」を選び、ここで「地デジ071」を選ぶと、視聴時の操作で6を押したときに071チャンネルだけが選局できます。

5 決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順**3**～**5**を繰り返します。

6 ▶を押して、設定を保存する

7 終了を押して、メニューを消す

お知らせ

● 手動設定をしたあとで、「初期スキャン」73や「はじめての設定」32をすると、手動設定をした内容が消えますので再度設定をしてください。

BSデジタル放送の場合

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「BS」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1 NHK1～12 TwellV)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶でBSデジタルのチャンネルを選ぶ

● ◀·▶を押すと次のように切り換わります。(◀·▶を押し続けると、チャンネルを早く切り換えることができます)

テレビ ⟷ ラジオ ⟷ データ ⟷ BSデジタルのチャンネルを順に選局 ⟷ テレビ

● 「チャンネル」の欄に「－－－」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。

■「テレビ」、「データ」、または「ラジオ」を選んだ場合

● 一つのボタンに、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネル、または複数データ放送のチャンネル、または複数のラジオ放送チャンネルがまとめて設定されます。

❶ ▲·▼で「放送局」を選ぶ

❷ ◀·▶で設定したい放送局名を選ぶ

(例) 手順**3**で「4」を選び、ここで「テレビ」を選ぶと、視聴時の操作で 4 BS日テレ を押すたびに、「BS日テレ」のテレビ放送チャンネルが順次選局できます。

■BSデジタルのチャンネルを選んだ場合

● 手順**3**で選んだ番号のボタンに、ここで選んだBSデジタル放送のチャンネルだけが設定されます。

※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(これを変えることはできません)。

(例) 手順**3**で「4」を選び、ここで「BS141」を選ぶと、視聴時の操作で 4 BS日テレ を押したときに141チャンネルだけが選局できます。

5 決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順**3**～**5**を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

● 2008年9月現在、ラジオ放送は行われておりません。ラジオ放送が運用された場合に、「ラジオ」が選択できるようになります。

チャンネル設定 つづき

手動設定 つづき

110度CSデジタル放送の場合

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲･▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「110度CS」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン（1 NHK1～12 TwellV）の番号を▲･▼で選び、決定を押す

手動設定　110度CS

リモコン	チャンネル	放送局
1	CS001	
2	CS100	e2プロモ
3	–––	
4	–––	
5	–––	
▼ 6	–––	

4 ▲･▼で「チャンネル」を選び、◀･▶で110度CSデジタルのチャンネルを選んで、決定を押す

- ◀･▶を押すとすべてのチャンネルが番号順に切り換わります。
  （◀･▶を押し続けると、チャンネルを早く切り換えることができます）
- 放送メディア（テレビ／ラジオ／データ）を指定することはできません。
- リモコンの1 NHK1～12 TwellVを押したときに、ここで選んだチャンネルが選局されます。
- 「チャンネル」の欄に「–––」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。
- 「放送局」の欄には、選んだチャンネルの放送局名が表示されます。（放送局名を変えることはできません）

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3、4を繰り返します。

5 を押して、メニューを消す

チャンネル設定の内容を削除する

- デジタル放送のチャンネル設定の内容を削除できます。

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲･▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 放送の種類（「地上デジタル」、「BS」、「110度CS」）を▲･▼で選び、決定を押す

3 設定内容を削除したい「リモコン」の番号を▲･▼で選び、決定を押す

4 ▲･▼で「設定を削除する」を選び、決定を押す

手動設定　地上デジタル

リモコンボタン	1
チャンネル	テレビ
放送局	NHK総合・東京
設定を削除する	

※ 他のボタンの設定も削除する場合は、手順3、4を繰り返します。

5 終了を押して、メニューを消す

チャンネルスキップ設定

- チャンネル で選局するときに、不要なチャンネルを飛び越すことができます。
- CATVチャンネルは、お買い上げ時は「スキップ」になっています。受信するには、以下の手順で「受信」に設定してください。

1 以下の操作で「チャンネルスキップ設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「チャンネルスキップ設定」を選び、決定を押す

2 設定したい放送の種類を▲·▼で選び、決定を押す

3 スキップ設定を変更したいチャンネルを▲·▼で選び、決定を押す

地上アナログチャンネルスキップ設定

リモコン	チャンネル	放送局	スキップ
1	1	NHK総合	受信
2	2		スキップ
3	3	NHK教育	受信
4	4	日本テレビ	受信
5	16	放送大学	受信
▼ 6	6	TBS	受信

（例）手順**2**で「地上アナログ」を選んだ場合

- 決定を押すたびに「受信」⇔「スキップ」と交互に切り換わります。
- デジタル放送の放送メディア（テレビ／ラジオ／データ）を変えるときは青を押します。
- 1 ～ 12 に割り当てたCATVチャンネル（C13 ～ C63）は、「リモコン」欄が1 ～ 12よりも下のリストで「設定済み」として表示されます。

※ **他のチャンネルの設定をする場合は、手順3を繰り返します。**
（違う放送のチャンネルを設定する場合は、戻るを押し、手順**2**から操作してください）

4 終了を押して、メニューを消す

受信・スキップの設定ができるチャンネル

- **地上アナログ放送**
  1 ～ 12 に割り当てられた地上アナログ放送とCATVチャンネル、その他のCATVチャンネル
- **デジタル放送**
  受信可能なチャンネル

自動設定をしたあとのチャンネルスキップ設定

- **地上アナログ放送**
  1 ～ 12 にチャンネルが割り当てられているボタンは「受信」、チャンネルが割り当てられていないボタンは「スキップ」に設定されています。
- **地上デジタル放送**
  スキップ設定はありません。
- **CATV/BS・110度CSデジタル放送**
  自動設定前と同じです。

個別に設定をするとき

- 「手動設定」をしたチャンネルは、自動的に「受信」に設定されます。
- 放送局の代表チャンネルを「スキップ」に設定すると、その放送局の代表チャンネル以外のチャンネルもスキップします。代表チャンネル以外のチャンネルを「スキップ」に設定した場合は、代表チャンネルは選局できます。
- 2008年9月現在、ラジオ放送は行われておりません。ラジオ放送が運用された場合に、「ラジオ」が選択できるようになります。

チャンネル設定 つづき

ステレオ／モノラルの設定

- 電波の弱いステレオ放送のときに、雑音が出ることがあります。その場合、「モノラル」に設定すれば聴きやすくなることがあります。
- 電波の弱いチャンネルの放送を視聴している状態で以下の設定をします。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「ステレオ／モノラル」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「ステレオ」または「モノラル」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

■「モノラル」に設定していてステレオ放送を受信したとき

- 音声はモノラルになります。
- チャンネル切換時には、「ステレオ」と表示されます。
- 画面表示を押したときは、「モノラル選択中」と表示されます。

無信号消音設定

- 無信号のとき（放送のないチャンネルを選択したり、放送が終わったりしたときなど）に、音声が出ないように設定することができます。
- 電波が極端に弱いチャンネルを選択したときにも、機能が働く場合があります。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「無信号消音設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「オン」または「オフ」を選び、決定を押す

- **オン**……無信号のときに音声を出さない。
- **オフ**……無信号のときにも音声を出す。

4 終了を押して、メニューを消す

チャンネル設定を最初の状態に戻す

- すべてのチャンネル設定と、「ステレオ／モノラルの設定」、「無信号消音設定」をお買い上げ時の状態に戻します。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「初期設定に戻す」を選び、決定を押す

3 ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

■ ステレオ／モノラルの設定について

- ステレオ／モノラルの設定は、地上アナログ放送視聴時とアンテナ端子からのCATV放送視聴時にだけできます。

■ チャンネル設定を最初の状態に戻す場合について

- チャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すと、地上デジタル放送は受信できません。「初期スキャン」73をしてください。（「データ放送用メモリーの割当て」37や、お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数などはそのままです）

データ放送設定

郵便番号と地域の設定

- 「はじめての設定」が済んでいる場合は、この設定は不要です。
- お住まいの地域に応じたデータ放送、緊急警報放送などの視聴や、ダイヤルアップ通信をする際に、もよりのアクセスポイントを利用するための設定で、地域は「初期スキャン」73とは別に設定できます。

1 以下の操作で「郵便番号と地域の設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「データ放送設定」を選び、決定を押す

❹ ▲･▼で「郵便番号と地域の設定」を選び、決定を押す

2 お住まいの地域の郵便番号を 1 ～ 10 0 で入力し、決定を押す

- 上3ケタを入力して決定を押すと、残り4ケタは自動的に「0」が入力されます。

3 該当する地方を▲･▼･◀･▶で選び、決定を押す

- 「設定しない」を選んだ場合は、手順5に進みます。

4 該当する地域を▲･▼･◀･▶で選び、決定を押す

- 伊豆、小笠原諸島地域の方は「東京都島部」を選んでください。
- 南西諸島の鹿児島県地域の方は「鹿児島県島部」を選んでください。

5 終了を押して、メニューを消す

文字スーパー表示設定

- デジタル放送には文字スーパー表示機能があり、災害時の速報などに使用されます。複数言語の文字スーパーに対応した番組の場合には、本機で表示する言語を選択することができます。お買い上げ時は日本語優先になっています。

1 以下の操作で「文字スーパー表示設定」画面にする

❶ 左の手順1の❶～❸の操作をする

❷ ▲･▼で「文字スーパー表示設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「表示する」または「表示しない」を選び、決定を押す

- 「表示しない」を選んだ場合は、手順4に進みます。

3 ▲･▼･◀･▶で言語を選び、決定を押す

- 日本語／英語／ドイツ語／フランス語／イタリア語／ロシア語／中国語／韓国語／スペイン語から選ぶことができます。

4 終了を押して、メニューを消す

ルート証明書番号を確認する

- ルート証明書は、地上デジタル放送の双方向サービスで、本機と接続するサーバーの認証をする際に使用されます。
- ルート証明書は地上デジタル放送によって、放送局から送られます。本機内に記録された証明書番号を以下の手順で確認することができます。

1 以下の操作で「ルート証明書番号」画面にする

❶ 左の手順1の❶～❸の操作をする

❷ ▲･▼で「ルート証明書番号」を選び、決定を押す

2 ルート証明書番号を確認し、決定を押す

3 終了を押して、メニューを消す

■ 郵便番号と地域の設定について

- 「はじめての設定」32とここでの設定では、地方、都道府県、地域の設定のしかたが異なっています。これは「はじめての設定」では「地上アナログ/デジタル放送チャンネル設定」と同時にまとめて設定しているためです。
- データ放送を受信している状態で設定をした場合、放送によっては、設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後に再度データ放送を受信し直してください。

■ 文字スーパー表示の設定について

- 「表示する」に設定した場合、設定した言語の文字スーパーがあるときは、その言語で表示します。設定した言語が視聴している放送にない場合は、その放送に従って表示されます。

簡易確認テスト

● 引越しなどでチャンネル設定を変えた場合や、B-CASカードの状態を確かめたいときなどに、簡単な確認テストをすることができます。

1 以下の操作で「初期設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「簡易確認テスト」を選び、決定を押す

● 確認テストが始まります。テスト結果については下表をご覧ください。

簡易確認テスト	
地上デジタル受信テスト	伝送チャンネル ◀ UHF15 ▶ 正常に受信できています。
BS·110度CS受信テスト	正常に受信できています。
カードテスト	正常に動作しています。

■「地上デジタル受信テスト」の伝送チャンネルを変えるには

❶ ◀·▶で伝送チャンネルを選ぶ

● 受信テストが始まり、結果が表示されます。

● 他の伝送チャンネルをテストする場合も同じ操作をします。

※ お住まいの地域の地上デジタル放送で使用されている伝送チャンネルがわからない場合は、「地上デジタル受信テスト」を省略して、実際の放送が視聴できるか確認してください。

3 簡易確認テストが終了したら、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

地上アナログ番組表設定

● 地上アナログ放送の番組表を表示するかしないか設定します。お買い上げ時は「オン」に設定されています。

※ 地上アナログ放送の番組表を使うにはインターネットの常時接続と設定が必要です。(「LAN端子の接続(1)」29、「通信接続設定」86をご覧ください)

1 以下の操作で「機能設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す

❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上アナログ番組表設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「オン」または「オフ」を選び、決定を押す

• **オン**····地上アナログ放送の番組表を表示する。
• **オフ**····地上アナログ放送の番組表を表示しない。

4 終了を押して、メニューを消す

テスト項目	テスト結果の表示	内容または対処のしかた
地上デジタル受信テスト 地上デジタル放送が受信できることをテストします。	「正常に受信できています。」	――――
	「正しく受信できません。」	● アンテナの接続 24 とアンテナレベル 36 を確認してください。
BS・110度CS受信テスト BSデジタル放送と110度CSデジタル放送が受信できることをテストします。	「正常に受信できています。」	――――
	「正しく受信できません。」 または「BS(110度CS)は受信できますが110度CS(BS)が受信できません。」	● アンテナの接続 24 と設定・調整 70 ～ 71 を確認してください。
カードテスト 本機で使えるB-CASカードかどうかテストします。	「正常に動作しています。」	――――
	「B-CASカードを正しく挿入してください。」	● B-CASカードを正しい向きで挿入後、もう一度簡易確認テストをしてください。
	「このICカードはご使用になれません。 正しいB-CASカードを挿入してください。」	
	「このB-CASカードはご使用になれません。」	● B-CASカードを確かめてください。 ● B-CASカードを交換してください。 ● カードに記載のB-CASカスタマーセンターにお問い合わせください。
	「B-CASカードが故障しています。」	

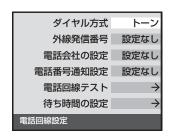
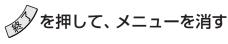
電話回線設定

● 電話回線設定は、デジタル放送で電話回線を使用した双方向サービスを利用する場合に必要です。
● 電話回線の接続をしていない場合は、「電話回線の接続」28に従って接続をしてから以下の設定をしてください。

1 以下の操作で「電話回線設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「通信設定」を選び、決定を押す
❹ ▲･▼で「電話回線設定」を選び、決定を押す

2 設定したい項目を▲･▼で選んで決定を押し、下表の手順に従って設定する

3 終了を押して、メニューを消す

設定項目	説明および操作手順
ダイヤル方式	● ご使用の電話回線のダイヤル方式を設定します。 ❶ ▲･▼で電話回線のダイヤル方式を選び、決定を押す ※「自動判定」を選んだ場合 • 「判定中」の画面が表示されます。 • 最初に「ダイヤルトーン検出」（電話回線が正しく接続されていることのチェック）が行われ、続いて「ダイヤル方式」の自動判定が行われます。 • 自動判定が終了すると判定結果が表示されます。 ■ 自動判定中に「ダイヤル方式判定エラー」が表示された場合 • 下図のメッセージの場合は、決定を押して「電話回線設定」の画面に戻り、電話回線の接続 28 を確認してから、もう一度「自動判定」を選んで決定を押してください。 ダイヤル方式判定エラー ダイヤル方式の自動検出で ダイヤルトーンの検出ができませんでした。 電話回線が正しく接続されているか確認してください。 決定 を押す • 電話回線の種類などによっては、自動判定ができない場合があります。自動判定ができない場合は、決定を押して「電話回線設定」の画面に戻り、使用している電話回線のダイヤル方式（トーン、20PPS、10PPS）を選んで決定を押してください。（ダイヤル方式が不明の場合は、ご加入のNTT営業所または局番なしの116番にお問い合わせください） ■ 自動判定が終了しない場合 • 3分以上たっても終了しない場合は、戻るを押して自動判定を中止し、電話回線と正しく接続されているか確認してください。
外線発信番号	● 電話をかけるときに、電話番号の前に「0」や「＃」などの外線発信番号を付ける必要がある場合に設定します。 ❶ ▲･▼で「外線発信番号あり」を選び、決定を押す ❷ 外線発信番号を 1 ～ 10 0（0）、11 ＊（＊）、12 #（#）で入力する（左詰めで入力してください） • 最大3ケタまでの設定ができます。 • 間違って入力した場合は、◀で前のケタに戻り、入力し直します。 • 1ケタ、または2ケタの設定をする場合は、左詰めで入力し、他のケタには何も入力しないで決定を押します。 ❸ 外線発信後の待ち時間を設定する（通常は「自動設定する」に設定してください） ▲･▼で「自動設定する」を選び、決定を押す ※「自動設定する」の設定で、下の「電話回線テスト」が失敗となる場合は、▲･▼で「時間を指定する」を選び、◀･▶で時間を選択して、決定を押します。 • 設定範囲は2秒～ 9秒（秒単位）です。

個別に設定をするとき

次のページにつづく

電話回線設定 つづき

設定項目	説明および操作手順
電話会社の設定	● 本機からの発信時に、マイラインやマイラインプラスを使いたい場合や、通常使用する電話会社以外の電話会社を使いたい場合に設定します。 ❶ ▲·▼で「電話会社を設定する」を選び、決定を押す ❷ ▲·▼でマイラインプラス（優先接続サービス）に「加入していない」または「加入している」を選び、決定を押す ❸ 1～10/0で電話会社を入力し、決定を押す • 最大8ケタまで設定できます。 • 間違って入力した場合は、◀で前のケタに戻り、もう一度入力してください。
電話番号通知設定	● 本機から電話の発信をしたときに、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。 ❶ ▲·▼でお好みの設定を選び、決定を押す • **通知しない**…. 本機は電話番号の最初に「184」をつけてダイヤルします。 • **通知する**……. 本機は電話番号の最初に「186」をつけてダイヤルします。 • **設定しない**…. 本機は何もつけずにダイヤルします。この場合は、NTTとの「ナンバーディスプレイ」の契約のとおりとなります。
電話回線テスト	● 電話回線の接続と設定が正しく行われているかを確認します。 ❶ ▲·▼で「電話回線テスト」または「センター接続テスト」を選ぶ • **電話回線テスト**………… 本機と電話回線の接続・設定が正しく行われているか確認します。テストの結果については下の表をご覧ください。 • **センター接続テスト**….. 本機とセンターの電話回線の接続が正しく行われているか確認します。テストの結果については下の表をご覧ください。**（このテストは電話料金がかかります）** ❷ 電話回線の接続状態を確認して、決定を押す ❸ テストが終了したら、決定を押す
待ち時間の設定	● 本機から電話の発信をしたいときに、「電話番号通知」、「マイラインプラス解除番号」、「電話会社指定番号」のあとにダイヤルまでの待ち時間が必要な場合に設定してください。 ❶ ▲·▼で「電話番号通知」、「マイラインプラス解除番号」または「電話会社指定番号」の設定したいどれかを選び、決定を押す ❷ ◀·▶でダイヤル待ち時間を選択し、決定を押す • 設定できる内容は、「設定しない」、「1秒」～「9秒」です。

「電話回線テスト」結果の表示	内容または対処のしかた
「電話回線の接続を確認しました。」	――――
「ダイヤルトーンの検出ができませんでした。」	● 電話回線が正しく接続されているか確認し、前ページと上記の「電話回線設定」で設定状態を再確認してください。
「電話回線の接続を確認できませんでした。」	● ダイヤル方式の設定が正しくないことが考えられます。なお、ターミナルアダプターを使用している場合は、電話回線テストはできません。
「外線発信番号の設定により電話回線テストができませんでした。」	● 外線発信後の待ち時間を数値で設定している場合は、電話回線テストはできません。この場合に電話回線の確認をするには、「センター接続テスト」をしてください。

「センター接続テスト」結果の表示	内容または対処のしかた
「センターと電話回線が正常に接続されたことを確認しました。」	● 正しく接続されています。
「センターと通信できませんでした。」	● 電話回線が正しく接続されているか確認し、前ページと上記の「電話回線設定」で設定状態を再確認してください。
「ただいまセンターがこみあっているため、センターと通信できません。」	● しばらくしてから、もう一度「センター接続テスト」をしてください。
「ただいまセンターと通信できません。」	

※ 次ページの「お知らせ」をご覧ください。

● 「電話回線設定」をした場合には、必要に応じて以下の「接続確認メッセージ設定」と「通信エラー履歴」の設定をしてください。

接続確認メッセージ設定

● データ放送でのダイヤルアップ通信の接続や切断をする際に、確認のメッセージを表示させることができます。
● お買い上げ時は、「表示する」に設定されています。

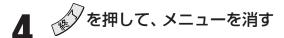
1 以下の操作で「通信設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲・▼で「通信設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「接続確認メッセージ設定」を選び、決定を押す

3 ▲・▼で「表示する」または「表示しない」を選び、決定を押す

● アクセスポイントにダイヤルアップ接続する場合やダイヤルアップ接続が切断される場合に、確認の画面を表示するかどうかが設定されます。
● 設定が完了して前画面に戻ります。

4
終了を押して、メニューを消す

通信エラー履歴

● 通信エラー履歴は、回線接続エラーが生じた場合に、一番新しい接続エラーを1件だけ記録して表示します。
※ **この通信エラー履歴は、放送局へのお問い合わせの際に必要になる場合があります。**

1 以下の操作で「通信設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲・▼で「通信設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「通信エラー履歴」を選び、決定を押す

● エラー履歴があれば表示されます。

3 内容を確認し、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

個別に設定をするとき

■ **外線発信番号の設定について**
● 手順❸で「時間を指定する」に設定した場合には、ダイヤルトーン検出をしません。
ダイヤルトーンのレベルが低い場合は、「時間を指定する」に設定してください。その場合、「ダイヤル方式」の設定の「自動判定」や「電話回線テスト」では回線の接続と設定の確認はできません。「電話回線テスト」の「センター接続テスト」で確認してください。

■ **電話会社の設定について（マイラインプラスに加入している場合）**
● 手順❷で「加入している」に設定してください。手順❸で設定した電話会社での回線発信ができます。
● 手順❷で「加入していない」に設定すると、手順❸で電話会社を設定しても回線発信ができなくなります。
● 手順❸で電話会社番号が未入力の場合は、手順❶の「電話会社を設定しない」に自動的に設定されます。

■ **待ち時間の設定について**
● 表示が「－－」になっている項目に対してダイヤルまでの待ち時間は設定できません。
各項目で「－－」表示になる場合は以下のとおりです。
・ 電話番号通知設定で「設定しない」に設定した場合
・ マイラインプラス（優先接続サービス）に「加入していない」に設定した場合
・ 電話会社の設定で「電話会社を設定しない」に設定した場合

■ **通信エラー履歴について**
● おもなエラーメッセージの対処のしかたは、操作編の103をご覧ください。

通信接続設定

- 「通信環境設定」は、「LAN端子の接続(1)」 29 をした場合および、デジタル放送でダイヤルアップ通信による双方向サービスを利用する場合に設定します。(ダイヤルアップ通信には、「電話回線の接続」 28 と「電話回線設定」 83 が必要です)
- 「LAN端子設定」は、「LAN端子の接続(1)」をした場合に設定します。ご契約のプロバイダーから設定内容の指定がある場合は、それをもとに設定します。(ダイヤルアップでのインターネット通信の設定はしないでください)
- 「LANハードディスク端子設定」は、LANハードディスクを使用する場合に必要に応じて設定します。

1 以下の操作で「通信接続設定」画面にする

❶ 設定メニュー(ふたの中)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「通信設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「通信接続設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、下表(次ページまで)の手順に従って設定する

3 設定を有効にするには、本体の電源ボタンで電源を切り、もう一度電源を入れる

設定項目		説明および操作手順
通信環境設定		● 番組(コンテンツ)によっては、通信方式をダイヤルアップ通信に指定してくる場合があり、その場合にダイヤルアップ通信を行うようにするか、しないかを設定します。 ❶ ▲·▼ で「イーサネット」または「イーサネット優先」を選び、決定を押す ・ **イーサネット** ダイヤルアップ通信を使用しない場合に選びます。 ・ **イーサネット優先** イーサネット通信を優先して接続しますが、データ放送でダイヤルアップ通信が指定された場合はダイヤルアップ通信に切り換わります。通常はこちらを選びます。
LAN端子設定(中央のLAN端子)	IPアドレス設定	● インターネットに接続するために、本機に割り当てられる固有の番号を設定します。 ※「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNS設定」の「DNSアドレス自動取得」は、自動的に「しない」に設定されます。その場合は、DNSアドレスを手動で設定してください。 ❶ ▲·▼で「IPアドレス設定」を選び、決定を押す ❷ IPアドレスを自動取得できる場合は、◀·▶で「する」を選ぶ **■ IPアドレスを自動取得できないネットワーク環境の場合** ① ◀·▶で「しない」を選ぶ ② ▲·▼で「IPアドレス」を選び、1～10/0で入力する ③ ▲·▼で「サブネットマスク」を選び、1～10/0で入力する ④ ▲·▼で「デフォルトゲートウェイ」を選び、1～10/0で入力する • ②～④では、最大3ケタの数字(「0」～「255」。ただし、左端の欄は「0」以外)を一組として、4箇所の欄に入力します。次の組(欄)に移動するには、▶を押します。間違って入力した場合は、◀を押してもう一度入力します。 ❸ 決定を押す
	DNS設定	● ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持ち、IPアドレスで特定されているDNSサーバーを設定します。 ※「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNSアドレス自動取得」は自動的に「しない」に設定され、「する」にはできません。DNSアドレスを手動で設定してください。 ❶ ▲·▼で「DNS設定」を選び、決定を押す ❷ DNSアドレスを自動取得できる場合は、◀·▶で「する」を選ぶ **■ DNSアドレスを自動的に割り当てられないネットワーク環境の場合** ① ◀·▶で「しない」を選ぶ ② ▲·▼で「DNSアドレス(プライマリ)」を選び、1～10/0で入力する ③ ▲·▼で「DNSアドレス(セカンダリ)」を選び、1～10/0で入力する • ②と③では最大3ケタの数字(「0」～「255」。ただし、左端の欄は「0」以外)を一組として、4箇所に入力します。次の組(欄)に移動するには、▶を押します。 ❸ 決定を押す

■ 通信環境設定について
- 「イーサネット優先」に設定した場合、何らかの原因(たとえばADSLモデムの故障など)でイーサネット通信ができないときには、ダイヤルアップ通信もできなくなることがあります。
- 実際に接続・設定している環境と異なる項目を選ぶと正常に働きません。

■ IPアドレス設定について
- 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。(通常は、「する」に設定してください。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
- ルーターのDHCP機能がOFFのときは、「自動取得」を「しない」にして、手動で設定してください。
- 手動で設定する際は、他の接続機器とIPアドレスが重複しないように設定してください。また、設定する固定IPアドレスはプライベートアドレスでなければなりません。
- 設定終了後、本機に設定されたIPアドレスとルーターのローカル側に設定されたIPアドレスのネットワークID部分がそれぞれ同じであることを確認してください。(詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

項目		内容
LAN端子設定（中央のLAN端子） つづき	プロキシ設定	● インターネットとの接続時にプロキシ（代理）サーバーを経由する場合に設定します。 ● ご契約のプロバイダーから指定がある場合にだけ設定してください。 ● ここでのプロキシ設定はHTTPに関するものです。 ❶ ▲·▼で「プロキシ設定」を選び、決定を押す ❷ ▲·▼で「使用する」を選び、決定を押す ❸ ▲·▼で「サーバー名」を選び、決定を押す ❹ サーバー名を入力する • 文字入力のしかたは操作編 26 をご覧ください。 • 入力できる文字は半角英字／半角数字で、記号は半角の!"#%＆()*+,-.:;<=>@[￥]^{|}~?_/です。 ❺ ▲·▼で「ポート番号」を選び、1～10/0でポート番号を入力する ❻ ▲·▼で「設定完了」を選び、決定を押す
	MACアドレス	● ネットワーク上につながっている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。 ❶ ▲·▼で「MACアドレス」を選び、決定を押す ❷ MACアドレスを確認したら、終了を押す
	接続テスト	●「LAN端子設定」が正しいかテストします。 ❶ ▲·▼で「接続テスト」を選び、決定を押す ❷ 接続テストをする場合は、決定を押す（テスト結果については下の「お知らせ」をご覧ください） ❸ 終了を押して、メニューを消す
LANハードディスク端子設定	IPアドレス設定	● ハードディスク専用LAN端子を使用するときのIPアドレスを設定します。通常は、お買い上げ時の状態（「自動取得」）のままでご使用ください。 ※「LAN端子設定」と「LANハードディスク端子設定」の「IPアドレス設定」は連動していて、「LAN端子設定」で「自動取得」に設定すると、「LANハードディスク端子設定」は自動的に「自動取得」になります。 ● 手動で設定する場合は、「LAN端子設定」の「IPアドレス設定」で、「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定してから、「LANハードディスク端子設定」で以下の操作をしてください。 →右表に続きます。

項目		内容
LANハードディスク端子設定（ハードディスク専用LAN端子） つづき	IPアドレス設定 つづき	つづき ❶ ▲·▼で「IPアドレス設定」を選び、決定を押す ❷ ▲·▼で「IPアドレス」を選び、1～10/0で3番目と4番目の欄に入力する • ここでのIPアドレスは、左端から1番目と2番目の欄が自動的に設定され、変更できません。 • 最大3ケタの数字（「0」～「255」）を一組として、3番目と4番目の欄に入力します。 ❸ ▲·▼で「サブネットマスク」を選び、1～10/0で入力する • 最大3ケタの数字（「0」～「255」。ただし、左端の欄は「0」以外）を一組として、4箇所の欄に入力します。 ❹ 決定を押す
	DHCPサーバー設定	● 通常はお買い上げ時の状態（「使用する」）でご使用ください。他の機器からIPアドレスを割り振るなどの場合は、「使用しない」に設定してください。 ❶ ▲·▼で「DHCPサーバー設定」を選び、決定を押す ❷ ◀·▶で「使用する」または「使用しない」を選ぶ ■ **「使用する」に設定した場合で、開始IPアドレスやリースアドレス数を変更する場合** ① ▲·▼で「開始IPアドレス」を選び、1～10/0で3番目と4番目の欄に入力する • 開始IPアドレスは、左端から1番目と2番目の欄が自動的に設定されます。（変更できますが、変更すると正常に動作しません） • 最大3ケタの数字（「0」～「255」）を一組として、3番目と4番目の欄に入力します。 ② ▲·▼で「リースアドレス数」を選び、1～10/0で入力する • 入力できる数字は「1」～「254」です。 ❸ 決定を押す
	MACアドレス	● ネットワーク上につながっている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。 ❶ ▲·▼で「MACアドレス」を選び、決定を押す ❷ MACアドレスを確認したら終了を押す

■ DNS設定について

● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。（通常は、「する」に設定してください。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です）

● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がOFFのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「しない」にして、プロバイダーから指定されたものを手動で設定してください。（プロバイダーによって設定方法が異なります。契約内容に沿った設定をしてください）

■ 接続テスト結果について（代表的なもの）

●「接続できませんでした。通信設定をご確認ください。」、「接続できませんでした。LANケーブルの接続をご確認ください。」のメッセージが表示された場合は、以下の対処をしてください。
- 「LAN端子の接続（1）」29 および前ページと上記の「LAN端子設定」で、接続・設定の状態を確認してください。
- LAN端子の各設定を有効にするには、必ず設定後に本体の電源ボタンで電源を一度切って、もう一度入れ直してください。

● 接続テストの結果、正しく通信できなかった場合は、以下を確認してください。
- 「LAN端子設定」が正しく設定されているかご確認ください。設定内容については、ルーターの設定内容に関係することがありますのでご注意ください。（ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください）
- 以下の手順で本機と同一ネットワーク上に接続されたパソコンからインターネットに接続できるか確認します。
  ❶ パソコンのインターネット・ブラウザ（Internet Explorerなど）を起動する
  ❷ URL欄に「http://www.toshiba.co.jp/」を入力し、ページが表示されることを確認する
  ページが正しく表示されない場合は、接続されているパソコン、ルーターの設定が正しいか確認してください（詳しくは、パソコン、ルーターの取扱説明書をご覧ください）。この場合、本機の問題ではない可能性があります。

■ ハードディスク専用LAN端子のDHCPサーバー設定について

● DHCPサーバーを使用しない場合は、中央のLAN端子で使っているIPアドレスとは異なる数値に設定してください。
たとえば「192.168.XXX.YYY」で、「XXX」の部分を中央のLAN端子とは異なる数値にします。

■ PPPoE設定について

● 本機ではPPPoEの設定はできません。PPPoEはルーター側に設定してください。（設定にはパソコンが必要です）

メール設定

● Eメールで録画予約（操作編 35）をするには、「LAN端子の接続(1)」 29 と「LAN端子設定」（中央のLAN端子） 86 ～ 87 が必要です。また、POP3を使用したメールサービスが利用できるインターネット接続業者（プロバイダー）との契約が必要です。詳しくは、インターネット接続業者にお問い合わせください。
● 本機はEメールでの録画予約だけに対応しています。一般のEメールを受信して見ることはできません。

基本設定

● Eメールで録画予約をするための基本的な設定をします。

1 以下の操作で「基本設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「メール設定」を選び、決定を押す
❹ ▲･▼で「基本設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲･▼で選んで決定を押し、下表に従って設定する

● 入力する内容はプロバイダーから提供された資料をご覧ください。
● 「APOP」と「POP3アクセス間隔」以外は、文字を入力します。文字入力のしかたは操作編の 26 をご覧ください。

3 終了を押して、メニューを消す

4 設定を有効にするには、本体の電源ボタンで電源を切り、もう一度電源を入れる

設定項目	説明および操作手順
POP3サーバーアドレス	POP3サーバーアドレスを入力します。 （例）pop.XXX.ne.jp
POP3ユーザー名	ユーザー IDを入力します。
POP3パスワード	パスワードを入力します。
APOP	● 録画予約メール受信時にパスワードを暗号化して送ります。メールサーバーやメールソフトが対応していない場合は「使用しない」を選びます。 ❶ ▲･▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す
POP3アクセス間隔	● 本機がメールサーバーに定期的に新着メールの確認にいく間隔を設定します。 ❶ ▲･▼･◀･▶で時間を選び、決定を押す
SMTPサーバーアドレス	SMTPサーバーアドレスを入力します。 （例）smtp.XXX.ne.jp
メールアドレス	メールアドレスを入力します。

メール録画予約設定

● Eメールでの録画予約機能を使う場合に必要な設定です。

1 **以下の操作で「メール録画予約設定」画面にする**

❶ 前ページの手順1の❶～❸の操作をする

❷ ▲·▼で「メール録画予約設定」を選び、決定を押す

2 **設定する項目を▲·▼で選んで決定を押し、下表に従って設定する**

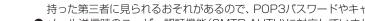
メール録画予約機能	使用する
録画機器	録画時出力
メール予約パスワード	未設定
予約設定結果通知	通知する
指定メールアドレス	
予約アドレス登録	→
メール録画予約設定	

● 「メール予約パスワード」、「指定メールアドレス」、「予約アドレス登録」では、文字を入力します。文字入力のしかたは、操作編の26をご覧ください。

3 **終了を押して、メニューを消す**

設定項目	説明および操作手順
メール録画予約機能	● Eメールでの録画予約機能を使用する、しないを設定します。 ※ 使用する場合は、先に「予約アドレス登録」をしてください。登録が1件もない場合は、この項目を選択できません。 ❶ ▲·▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定を押す
録画機器	● 番組の録画先の機器を指定します。 ❶ ▲·▼で録画先を選び、決定を押す ■ 本機のデジタル放送録画出力端子に接続した機器を指定する場合 • 「デジタル放送録画出力」を選びます。 • 手順2の画面の「録画機器」の欄には、「デジタル放送録画出力設定」51 に従って「常時出力」または「録画時出力」が表示されます。（「再生時出力」に設定している場合は、「録画時出力」と表示されます）
メール予約パスワード	● メールで録画予約をする場合に使用するパスワードを設定します。 ※ パスワードを設定しないと、メール録画予約はできません。 ❶ パスワードを設定する • パスワードには最小6文字～最大20文字までの半角英数字を入力します。 ❷ 入力が終わったら、決定を押す
予約設定結果通知	● メールでの録画予約設定の結果を、メールでお知らせする機能です。 ❶ 希望の通知先を▲·▼で選び、決定を押す • **使用しない**… 予約設定結果通知を使用しません。 • **指定アドレスへの通知**… 次項目の「指定メールアドレス」で指定したアドレスに通知します。 • **送信元アドレスへの通知**… 録画予約のメールを送ったアドレスに通知します。 • **指定アドレスと送信元アドレスへの通知**… 次項目の「指定メールアドレス」で指定したアドレスと、録画予約のメールを送ったアドレスに通知します。
指定メールアドレス	● 予約設定結果通知メールの送り先を設定します。 ※ 指定したアドレスに送信する場合は、上記の「予約設定結果通知」で「指定アドレスへの通知」または「指定アドレスと送信元アドレスへ通知」に設定してください。 ❶ 指定するメールアドレスを入力する ❷ 入力が終わったら、決定を押す
予約アドレス登録	● 以下で登録したアドレスからの録画予約メールだけを受信することができます。 ※ 予約アドレスを一件も登録しない場合は、「メール録画予約機能」の表示が自動的に「－－－」になります。 ■ 予約アドレスを登録する ● 6件のアドレスが登録できます。 ① ▲·▼·◀·▶で「新規追加」を選び、決定を押す ② アドレスを入力する • いくつものアドレスを登録する場合は手順①と②を繰り返します。 ■ 登録済のアドレスを編集・削除する場合 ● すでに登録されているアドレスの内容を編集・削除します。 ① 編集・削除したいアドレスを▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す ② ▲·▼で「編集する」または「削除する」を選び、決定を押す ■「編集する」を選んだ場合 ● 文字入力画面で、アドレスを変更します。 ■「削除する」を選んだ場合 ● 確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押せば、指定したアドレスが削除されます。 ● アドレスの登録、編集・削除が終わったら、▲·▼·◀·▶で「登録完了」を選び、決定を押します。

個別に設定をするとき

お知らせ

● 「メール予約パスワード」は、Eメールの本文に記載されるので、この点を考慮して文字数や文字列を決めてください。Eメールは悪意を持った第三者に見られるおそれがあるので、POP3パスワードやキャッシュカードの暗証番号などを使用しないことをおすすめします。

● メール送信時のユーザー認証機能（SMTP-AUTH）に対応していません。

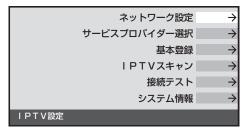
● ご契約のプロバイダーが、迷惑メール対策のために送信メール規制（ポート25通信規制）をしている場合、予約設定結果通知メールの送信ができないことがあります。ポート25通信規制についてはプロバイダーにご確認ください。

IPTV設定

● ひかりTVなど、光回線で提供される多チャンネル放送やビデオ作品などのIPTVサービスを視聴するための設定、確認をします。（ひかりTVについては、操作編 65 をご覧ください）
● 「LAN端子の接続（2）」 30 が終わってから設定してください。

1 以下の操作で「IPTV設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲･▼で「IPTV設定」を選び、決定を押す

2 設定する項目を▲･▼で選んで決定を押し、下表の手順に従って設定または確認する

3 終了を押して、メニューを消す

設定項目	説明および操作手順
ネットワーク設定	● ご契約の回線を選んでください。 ❶ ◀･▶で以下から選び、決定を押す 「NTT東日本」 「NTT西日本」 ❷ フレッツ 光ネクストを利用している場合は、▲･▼で「はい」を選び、決定を押す
サービスプロバイダー選択	● サービスプロバイダーが一覧表示されます。 ❶ 契約しているプロバイダーを▲･▼で選び、決定を押す ❷ 確認画面が表示されたら、決定を押す
基本登録	● ひかりTVの場合は、申込後に発行される資料に記載されている内容を入力します。 • 文字入力については、操作編の 26 をご覧ください。
IPTVスキャン	● IPTVのテレビサービスで視聴できるチャンネルを設定します。 ❶ IPスキャンをする場合は、▲･▼で「はい」を選び、決定を押す • スキャンが始まります。 • 中止する場合は 戻る を押します。 ❷ 設定の内容を確認する場合は、▲･▼で「はい」を選び、決定を押す ❸ 内容を確認したら、決定を押す • ページが複数ある場合は、▲･▼で切り換えられます。 • テレビサービスが開通していないと、IPスキャンはできません。 • IPスキャンの設定には数分かかる場合があります。
接続テスト	● 接続と設定が正しいか、テストします。 • 接続テストが始まります。 • 中止する場合は 戻る を押します。 • エラーメッセージが表示された場合は、メッセージに従って対処してください。 ※ エラーメッセージに「LAN端子」の用語がある場合、「LAN端子」とは「ひかりTV専用LAN端子」をさします。
システム情報	● システム情報が表示されます。 • DRM番号：ひかりTVサービスで利用される受信機固有の番号です。契約をする場合などの参考情報です。

お知らせ
● テレビサービスが利用できるようになるまでには、かなりの時間がかかる場合があります。

視聴制限設定

暗証番号の設定・削除

● 暗証番号は、視聴年齢制限のある番組を見るときに必要です。
● 暗証番号を設定した場合には、暗証番号の変更・削除および「すべての初期化」95 をするときにも暗証番号の入力が必要になります。

● **暗証番号を忘れた場合の消去は有料になります。**
暗証番号を忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れた場合は、東芝家電修理ご相談センター（裏表紙参照）にご連絡ください。

暗証番号の設定

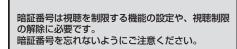
1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする
❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲・▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲・▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「暗証番号設定」を選び、決定を押す

■ はじめて暗証番号を登録する場合
※ 必要でない場合は、登録しないことをおすすめします。
● 登録したい暗証番号（4ケタの数字）を 1 〜 10₀ で入力してください。
● 間違えて入力した場合は、◀を押し、もう一度入力してください。
※ 入力した数字は画面には「＊」で表示されます。

暗証番号設定

新たに登録する暗証番号を入力してください。

暗証番号は視聴を制限する機能の設定や、視聴制限の解除に必要です。
暗証番号を忘れないようにご注意ください。

■ 暗証番号を変更する場合
● 変更する前の暗証番号を 1 〜 10₀ で入力してください。

3 1 〜 10₀ でもう一度暗証番号を入力し、確認画面で決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

暗証番号の削除

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする
❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲・▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲・▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「暗証番号削除」を選び、決定を押す

3 1 〜 10₀ で暗証番号を入力する

4 確認画面で、◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

5 終了を押して、メニューを消す

インターネット制限設定

● インターネット（操作編 68）を使用する際に、暗証番号の入力が必要となるように設定することができます。
● 暗証番号を設定していない場合は、先に暗証番号を設定してください。

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする
❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲・▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲・▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「インターネット制限設定」を選び、決定を押す
● 暗証番号の入力画面になります。

3 1 〜 10₀ で暗証番号を入力する

4 ▲・▼で「制限する」または「制限しない」を選び、決定を押す
・制限する………インターネットを使用するときに暗証番号の入力が必要になります。
・制限しない……インターネットを使用するための暗証番号入力は不要です。

5 終了を押して、メニューを消す

視聴制限設定 つづき

視聴年齢制限設定

● デジタル放送では番組ごとに視聴年齢が設定されている場合があります。視聴年齢制限のある番組を見るには設定が必要です。
● お買い上げ時には、視聴年齢制限は設定されていません。
● 暗証番号を設定していない場合は、先に暗証番号を設定してください。

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「視聴年齢制限設定」を選び、決定を押す

● 暗証番号の入力画面になります。

3 1 〜 10 で暗証番号を入力する

4 ◀·▶で年齢を設定し、決定を押す

● 設定できる年齢は、4歳から20歳までです。
● 視聴年齢制限機能を使わない場合は、「20歳（制限しない）」に設定してください。

視聴年齢制限設定
４〜２０歳の間で、視聴を制限したい年齢を設定してください。
4歳 ▶
番組の視聴制限年齢がこの設定年齢よりも高い場合、その番組の視聴には暗証番号の入力が必要になります。視聴年齢制限を使わないときは「２０歳」にしてください。

5 終了を押して、メニューを消す

● 視聴時の動作および操作は以下のとおりです。

■ 番組の設定年齢が、設定した年齢よりも上の場合

● メッセージが表示されます。
● 決定を押し、1 〜 10 で暗証番号を入力してください。

■ 本機に暗証番号や視聴年齢制限が設定されていない場合

● 視聴年齢制限のある番組を見ることはできません。
● 決定を押し、設定が必要な項目を設定してください。

室内環境設定

● 「映像メニュー」（操作編 74）の「おまかせ」をより効果的に働かせるための設定です。
● 「映像メニュー」で「おまかせ」を選択していないときは、この設定項目は選択できません。
● 「室内環境設定」以外の「映像設定」については操作編をご覧ください。

1 以下の操作で「室内環境設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す
❷ ▲·▼で「映像設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「お好み調整」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「室内環境設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「照明の色」を選び、決定を押す

照明の色 電球色
外光設定 外光あり
室内環境設定

3 ▲·▼で「電球色（暖かい白）」または「蛍光灯色（クールな白）」を選び、決定を押す

照明の色
部屋の照明色を選択してください。
電球色（暖かい白） 蛍光灯色（クールな白）

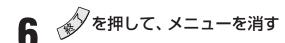
• **電球色（暖かい白）**…室内の照明が白熱灯（電球）や電球色の蛍光灯の場合に選びます
• **蛍光灯色（クールな白）**…室内の照明が蛍光灯の場合に選びます（蛍光灯のタイプが電球色の場合は「電球色」を選んでください）

4 ▲·▼で「外光設定」を選び、決定を押す

5 ▲·▼で「外光あり（通常）」または「外光なし」を選び、決定を押す

• **外光あり（通常）**…日中、屋外から光がはいる場合。
• **外光なし**…………日中、屋外からはいる光が少なく、室内照明を使用している場合。

● 「外光あり」に設定した場合、手順**3**で設定した照明の色と外光に合わせた画質に自動調整されます。デジタル放送やiNETサーバー、IPTVのサーバーなどから時刻情報を取得していない場合には、この設定では動作しません。
● 「外光なし」に設定した場合、手順**3**で設定した照明の色に合わせた画質に自動調整されます。

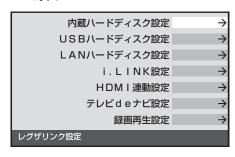
6 終了を押して、メニューを消す

内蔵ハードディスク設定

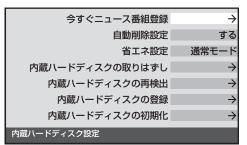
● 内蔵ハードディスクの機能を使用する場合は、必要に応じて以下の設定をしてください。

1 以下の操作で「内蔵ハードディスク設定」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「レグザリンク設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「内蔵ハードディスク設定」を選び、決定を押す

2 以下の操作で設定する

※ 設定が必要な項目（次ページまで）の操作をして、終わったら手順**3**の操作でメニューを消してください。

■ 今すぐニュース番組登録

● 「今すぐニュース」（操作編 34）で録画するニュース番組の登録や、取消しができます。
● 番組は18個まで登録できます。
※ 番組編成は変更になることがあります。その場合は設定を変更してください。

❶ ▲·▼で「今すぐニュース番組登録」を選び、決定を押す

今すぐニュース番組登録

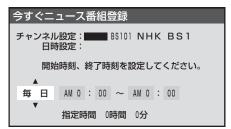
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月〜土	AM 6:00〜AM 6:30
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(日)	AM 6:00〜AM 6:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月〜金	PM 0:00〜PM 0:20
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(土)	PM 0:00〜PM 0:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎週(日)	PM 0:00〜PM 0:15
1	地デジ011	NHK総合1・東京	毎 日	PM 7:00〜PM 7:30
1	地デジ011	NHK総合1・東京	月〜金	PM 9:00〜PM10:00
新規登録				

※ 画面は例です。

❷ 以下の操作でニュース番組を登録、または取消しする

■ 番組を手動で登録する場合

① ▲·▼で「新規登録」を選び、決定を押す
② 指定する項目を◀·▶で選び、▲·▼で内容を選んで、決定を押す
左：放送の種類（BS／CS／地デジ）
右：チャンネル

③ 指定する項目を◀·▶で選び、▲·▼で内容を選んで、決定を押す
左　：曜日（毎日／毎週(日)〜毎週(土)／月〜木／月〜金／月〜土）
※ 毎週(日)〜毎週(土)は、毎週指定した曜日だけ予約を実行します。
中央：番組の開始時刻
右　：番組の終了時刻
※ 録画できる時間は最大2時間です。

■ 番組を自動登録する場合

● すでに登録されているニュース番組をすべて取り消して自動登録をします。
① 青を押す
② 自動登録の確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す
● 「チャンネルが設定されていないため、自動登録できません。」というメッセージが表示された場合は、「チャンネル設定」の「地上デジタルの場合」73で「初期スキャン」をしてください。

■ すでに登録した番組を取り消す場合

① 取り消したい番組を▲·▼で選び、決定を押す
② 取消の確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

■ 登録されている番組をすべて取り消す場合

① 赤を押す
② すべて取消の確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● 「今すぐニュース番組登録」は、番組表のクイックメニューからもできます。（操作編 15）
● 残量の少ない内蔵ハードディスクと交換した場合は、今すぐニュース番組登録で登録した番組がすべて削除されます。（今すぐニュースで録画した内容も削除されます）
● 「録画再生設定」51もご覧ください。

内蔵ハードディスク設定 つづき

自動削除設定

● 内蔵ハードディスクの容量が足りない場合に、日付の古い録画済み番組から自動的に削除する機能です。ただし、保護(操作編 48)されている録画番組は、自動削除されません。
● 保護をした録画番組が多くなると、自動削除機能は働かなくなる場合があり、録画できる時間は短くなります。

❶ ▲･▼で「自動削除設定」を選び、決定を押す

❷ ▲･▼で「する」または「しない」を選び、決定を押す

省エネ設定

● ハードディスクは電源がはいってから録画や再生ができるまでに、しばらく時間がかかります。「通常モード」に設定すると、内蔵ハードディスクの電源は常に「入」の状態となり、内蔵ハードディスクをすぐに使いたい場合に便利です。

❶ ▲･▼で「省エネ設定」を選び、決定を押す

❷ ▲･▼で「通常モード」または「省エネモード」を選び、決定を押す
- 通常モード…本機の電源が「入」のとき、内蔵ハードディスクの電源は常時「入」の状態です。
- 省エネモード…内蔵ハードディスクをしばらく使わないと、内蔵ハードディスクの電源は待機状態になり、使う操作をすると自動的に電源がはいります。(内蔵ハードディスク動作するまでに、しばらく時間がかかります)

内蔵ハードディスクの取りはずし

● 内蔵ハードディスクを取りはずすときには、その前に以下の操作をします。

❶ ▲･▼で「内蔵ハードディスクの取りはずし」を選び、決定を押す

❷ ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す
- 取りはずしの処理が始まり、終了すると取りはずしができる旨のメッセージが表示されます。

❸ メッセージを確認し、決定を押す

❹「内蔵ハードディスクの交換について」97を参照してハードディスクを取りはずす

内蔵ハードディスクの再検出

●「内蔵ハードディスクの取りはずし」の操作をしたハードディスクがまだ接続されている場合、以下の操作をすれば使用できるようになります。
● 本機に登録済みの内蔵ハードディスクを接続したときには自動的に検出されます。

❶ ▲･▼で「内蔵ハードディスクの再検出」を選び、決定を押す

❷ 検出のメッセージを確認し、決定を押す

内蔵ハードディスクの登録

● 未登録の内蔵ハードディスクを本機で使用できるようにします。
● 未登録の内蔵ハードディスクを接続したときに本機が自動的に検出する場合があります。その場合は以下の❷以降の操作をしてください。
※ 登録できるのは4台までです。

> ※ はじめて登録するときには、ハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

❶ ▲･▼で「内蔵ハードディスクの登録」を選び、決定を押す

❷ 登録の確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

❸ 初期化(消去)の確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す
- 初期化と登録の処理が始まり、終了すると登録名設定のメッセージが表示されます。

❹ 登録名を設定する場合は、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す
- 文字入力画面で登録名を入力します。

❺ 録画･予約時の録画機器を、登録したハードディスクに変更する場合は、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

● 登録が完了すると、登録されている内蔵ハードディスクの一覧画面が表示されます。
● 登録されている内蔵ハードディスクの一覧画面で、以下の操作ができます。

登録名の変更

① 登録名を変更したい内蔵ハードディスクを▲･▼で選択し、青を押す
② ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す
③ 文字入力画面で登録名を入力する

登録の解除

① 登録を解除したい内蔵ハードディスクを▲･▼で選択し、赤を押す
② ◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

内蔵ハードディスクの初期化

● 内蔵ハードディスクが正常に使用できなくなった場合に、初期化をすれば使用できるようになることがあります。

> ※ 初期化すると、内蔵ハードディスクに保存されている内容はすべて消去されます。

❶ ▲･▼で「内蔵ハードディスクの初期化」を選び、決定を押す

❷ 初期化の確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す

❸ 初期化終了の画面で決定を押す

3

を押して、メニューを消す

お買い上げ時の状態に戻すには（設定内容を初期化するには）

● お買い上げ時の状態に戻す設定内容は3種類あります。目的に合わせて行ってください。

※ 初期化をすると初期化前の状態に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定項目	内　容
初期化1	● 以下の項目以外の設定項目をお買い上げ時の状態に戻します。 ・チャンネル設定（IPTVも含みます） ・各機器の自動削除設定 ・「視聴制限設定」の「暗証番号設定」、「視聴年齢制限設定」 ● 内蔵ハードディスクの記録内容は削除されません。 ● お好みに設定した項目を設定し直すときに行うと便利です。
初期化2	● 以下の項目以外の設定項目をお買い上げ時の状態に戻します。 ・各機器の自動削除設定 ・「視聴制限設定」の「暗証番号設定」、「視聴年齢制限設定」 ● 内蔵ハードディスクの記録内容は削除されません。
すべての初期化	● 本機に設定されたすべての内容をお買い上げ時の状態に戻します。 ● 内蔵ハードディスクの記録内容は削除されます。 ※ **この初期化は、データ放送の個人情報（住所、氏名、視聴ポイント数など）、アクトビラの識別情報（操作編 63）、IPTVの登録情報についてもすべて初期化されますので、本機を廃棄処分する場合や他の人に譲り渡す場合にのみ行ってください。**

1 以下の操作で「設定の初期化」画面にする

❶ 設定メニュー（ふたの中）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「設定の初期化」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「初期化1」、「初期化2」、または「すべての初期化」を選び、決定を押す

● 初期化される項目の内容は、上の表をご覧ください。

設定の初期化

初期化1
初期化2
すべての初期化

設定項目を初期化します。
ただし、チャンネル設定、自動削除設定、
暗証番号入力が必要な設定は初期化されません。
内蔵ハードディスクの記録内容は削除されません。

すべての初期化をする場合

● 暗証番号入力画面が表示された場合は暗証番号を入力してください。

3 初期化する場合は◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

※ 初期化したあとに初期化前の状態に戻すことはできません。

すべての初期化

お買い上げ時の状態に戻しますか？

はい　いいえ

※お買い上げ時の状態に戻すとすべてのデータを
元に戻すことはできませんのでご注意ください。
データ放送、アクトビラ、ＩＰＴＶサービスで
登録した情報なども消去されます。
アクトビラで購入したコンテンツは
ご覧になれなくなります。

4 初期化終了の画面が表示されたら、以下の操作をする

● 「初期化1」、「初期化2」の場合は決定を押します。

● 「すべての初期化」の場合は電源を切ります。

「初期化できませんでした。ハードディスクが壊れている可能性があります。」が表示されたとき

● ハードディスク収納部のカバーを取りはずして、ハードディスクが取り付けられていることをご確認ください。（97 を参考にしてください）
ハードディスクが取り付けられていて上記のメッセージが表示された場合は、ハードディスクが壊れている可能性がありますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

重要なお知らせ

「すべての初期化」をすると、取りはずしていたハードディスクを含めて、内蔵ハードディスクに保存されている番組の再生はできなくなります。

これは、著作権法に基づき、番組制作者等の権利を保護すること（権利の保護）と、視聴者が無意識に違法行為をしてしまわないようにすること（視聴者の保護）を意図した仕様ですので、ご理解ください。

お買い上げ時の状態に戻すには つづき

お買い上げ時の状態

項目			設定内容	
映像メニュー			おまかせ	
お好み調整	黒レベル		00	
お好み調整	色の濃さ		00	
お好み調整	色あい		00	
お好み調整	シャープネス		00	
お好み調整	室内環境設定	照明の色	電球色	
お好み調整	室内環境設定	外光設定	外光あり	
お好み調整	カラーイメージプロ設定		オン	
お好み調整	カラーパレットプロ調整		色あい	色の濃さ
お好み調整	カラーパレットプロ調整	レッド	00	00
お好み調整	カラーパレットプロ調整	グリーン	00	+04
お好み調整	カラーパレットプロ調整	ブルー	00	+04
お好み調整	カラーパレットプロ調整	イエロー	00	00
お好み調整	カラーパレットプロ調整	マゼンダ	00	00
お好み調整	カラーパレットプロ調整	シアン	00	00
お好み調整	超解像処理		オン	
お好み調整	MPEG NR		オート	
お好み調整	ダイナミックNR		オート	
お好み調整	ヒストグラムバックライト制御		オン	
お好み調整	モーションクリア		オン	
お好み調整	オートファインシネマ		おまかせ	
お好み調整	色温度		00	
お好み調整	ダイナミックガンマ		00	
お好み調整	ガンマ調整		00	
お好み調整	Vエンハンサー		00	
明るさセンサー			オン	
色空間			オート	
音声メニュー			おまかせ	
お好み調整	イコライザー	低	0	
お好み調整	イコライザー	中	0	
お好み調整	イコライザー	高	0	
お好み調整	低音強調		おまかせ	
バランス			中央	
ドルビーボリューム			弱	
ドルビー DRC			オフ	
光デジタル音声出力			PCM	
ヘッドホーンモード			主画面モード	
省エネ設定	消費電力		標準	
省エネ設定	番組情報取得設定		取得する	
省エネ設定	無操作自動電源オフ		動作しない	
省エネ設定	オンエアー無信号オフ		待機にする	
省エネ設定	外部入力無信号オフ		待機にする	
視聴年齢制限設定			−−	
地上アナログ番組表設定			オン	
HDMI3音声入力設定			オート	
外部入力表示設定			ビデオ1：DVD	HDMI1：DVD
			ビデオ2：DVD	HDMI2：DVD
			ビデオ3：DVD	HDMI3：DVD
			ビデオ4：ゲーム	HDMI4：DVD
外部入力スキップ設定			「ビデオオート」のみスキップ「する」	
デジタル放送録画出力設定			再生時出力	
BS・110度CSアンテナ電源供給			供給する	
自動スキャン			自動スキャンする	
チャンネルスキップ設定			CATV：スキップ、他の放送：受信	
ステレオ／モノラル			ステレオ	
無信号消音設定			オン	
文字スーパー表示設定			表示言語：表示する、言語設定：日本語	
ダイヤル方式			トーン	
外線発信番号			設定なし	
電話会社の設定			設定なし	
電話番号通知設定			設定なし	
待ち時間設定	電話番号通知		設定しない	
待ち時間設定	マイラインプラス解除番号		設定しない	
待ち時間設定	電話会社指定番号		設定しない	
接続確認メッセージ設定			表示する	
自動ダウンロード			ダウンロードする	

項目			設定内容
内蔵ハードディスク設定	今すぐニュース番組登録		未設定
内蔵ハードディスク設定	自動削除設定		する
内蔵ハードディスク設定	省エネ設定		通常モード
USBハードディスク設定	自動削除設定		する
USBハードディスク設定	省エネ設定		通常モード
LANハードディスク設定	登録モード設定		自動
LANハードディスク設定	自動削除設定		する
i.LINK設定	機器の登録		未登録
i.LINK設定	登録モード設定		自動
i.LINK設定	ブロードキャスト入力設定		オフ
i.LINK設定	最大データ転送速度設定		最適
i.LINK設定	D-VHSテープ検出		オン
i.LINK設定	外部機器からの制御		なし
i.LINK設定	テレビ電源入連動		連動する
i.LINK設定	電源入連動機器		設定なし
HDMI連動設定	HDMI連動機能		使用する
HDMI連動設定	連動機器→テレビ入力切換		連動する
HDMI連動設定	連動機器→テレビ電源		連動する
HDMI連動設定	テレビ→連動機器電源オフ		連動する
HDMI連動設定	PC映像連動		使用する
HDMI連動設定	AVシステム連動		使用する
HDMI連動設定	優先スピーカー		テレビスピーカー
テレビdeナビ設定※1	RD本体名		未設定
テレビdeナビ設定※1	ユーザー名		未設定
テレビdeナビ設定※1	パスワード		未設定
テレビdeナビ設定※1	ポート設定		80
テレビdeナビ設定※1	連動ライン入力番号(「東芝RDアナログ」のみ)		ライン入力3
録画再生設定	ダイレクト録画時間		2時間
録画再生設定	ワンタッチスキップ設定		30秒
録画再生設定	ワンタッチリプレイ設定		10秒
通信環境設定			イーサネット優先
LAN端子設定	IPアドレス設定		自動取得
LAN端子設定	DNS設定		自動取得
LAN端子設定	プロキシ設定		使用しない
LANハードディスク端子設定	IPアドレス設定		自動取得
LANハードディスク端子設定	DHCPサーバー設定		使用する
メール設定	基本設定	POP3サーバーアドレス	未設定
メール設定	基本設定	POP3ユーザー名	未設定
メール設定	基本設定	POP3パスワード	未設定
メール設定	基本設定	APOP	使用しない
メール設定	基本設定	POP3アクセス間隔	15分
メール設定	基本設定	SMTPサーバーアドレス	未設定
メール設定	基本設定	メールアドレス	未設定
メール設定	メール録画予約設定	メール録画予約機能	使用しない
メール設定	メール録画予約設定	録画機器	内蔵ハードディスク
メール設定	メール録画予約設定	メール予約パスワード	未設定
メール設定	メール録画予約設定	予約設定結果通知	送信元アドレスへの通知
メール設定	メール録画予約設定	指定メールアドレス	未設定
メール設定	メール録画予約設定	予約アドレス登録	未設定
番組表	文字サイズ変更		小さい
番組表	ジャンル色分け設定		青：映画、橙：スポーツ、緑：音楽
番組表	スキップチャンネル表示設定		スキップチャンネル表示
番組表	チャンネル表示数設定		7チャンネル表示
オフタイマー			切
音多切換			主音声
字幕			字幕オフ
降雨対応放送			通常の放送
音量			30

※1：「テレビdeナビ」の設定状態は、「東芝RDアナログ」と「東芝RDデジタル1～3」で同じです。

内蔵ハードディスクの交換について

● 複数の内蔵ハードディスクを交換して使うことができます。その場合は、別売の「東芝テレビ内蔵用ハードディスクユニット」（形名：THH-30U5）をお買い求めください。ご購入については本機をお買い上げの販売店にご相談ください。（ただし、本機に登録できるのは4台までです）
● ハードディスクには寿命があり、使用状態によっては数年で異常をきたす場合があります。内蔵ハードディスクに録画した映像にノイズが発生しやすくなった場合は、上記の内蔵用ハードディスクユニットに交換してください。

● すでに番組が録画されているハードディスクと交換するときには、録画済みの番組が意図せずに削除されるのを防ぐために、交換前に「内蔵ハードディスク設定」93の「自動削除設定」94を「しない」に設定してください。
● 「使用上のお願いとご注意」13～14のハードディスクについての内容もよくお読みください。
● ハードディスクは分解しないでください。分解すると録画内容が消えたり、ハードディスクが故障したりする原因となります。分解した場合は無料保証の対象になりませんので、ご注意ください。

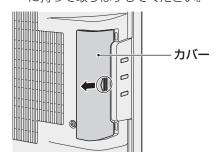
内蔵ハードディスクの交換

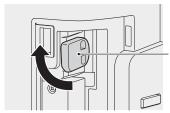
1 93～94を参照し、「内蔵ハードディスクの取りはずし」の操作をする

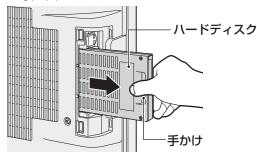
※ この操作をしないでハードディスクを取りはずすと、録画内容が消えたり、ハードディスクが故障したりすることがあります。

● 本機の電源が「切」や「待機」の場合は、電源を入れてこの操作をしてください。
● 電源プラグをコンセントから抜いている場合は、この操作は不要です。（電源プラグを抜いてから内蔵ハードディスクを取りはずす場合は、「電源プラグをコンセントから抜く際のご注意」13をお読みください）

2 ハードディスク収納部のカバーを取りはずす

● カバーの○印部分を押しながら、矢印の方向へ少しすべらせればロックがはずれます。落とさないように持って取りはずしてください。

3 ハードディスクのロックをはずす

● ハードディスク押さえをテレビの背面側に向けて、ロックをはずします。

4 内蔵ハードディスクを取り出す

● ハードディスクの手かけ部分（くぼみ）に指をかけて引き出します。

5 新しいハードディスクを取り付ける

● 新しいハードディスクを奥まで差し込みます。

6 ハードディスクをロックし、カバーを取り付ける

● ハードディスク押さえを下に向けて、ハードディスクをロックしてから、カバーを取り付けます。

7 93～94を参照し、「内蔵ハードディスクの登録」の操作をする

● 登録済みの内蔵ハードディスクに交換した場合は不要です。

● 手順**1**のあとでそのまま放置したり、ほかの操作をしたりすると、検出機能の働きによって接続した状態に戻る場合があります。
● 内蔵ハードディスクに録画した番組は本機でしか再生できません。
● 内蔵ハードディスクを取りはずしている間、内蔵ハードディスクでの「今すぐニュース」（操作編34）や「録画・再生」（操作編28）などの機能は動作しません。内蔵ハードディスクでの録画予約をしていた場合には、ご注意ください。

メニュー 一覧

- メニュー 一覧を下図に示します。（薄く記載している部分は、別冊「操作編」で説明している部分です）
  「操作編」のメニュー 一覧は、操作編 110～111 をご覧ください。
- メニューに表示される項目や項目名、選択できる項目などは設定状態や接続機器の有無などによって変わり、選択できない項目はメニュー画面で薄く表示されます。
- 以下は、「映像メニュー」、「音声メニュー」で「おまかせ」を選んでいる場合のメニュー 一覧です。

設定メニュー
レグザリンク設定
内蔵ハードディスク設定
93 ～ 94
今すぐニュース番組登録
自動削除設定
省エネ設定
内蔵ハードディスクの取りはずし
内蔵ハードディスクの再検出
内蔵ハードディスクの登録
内蔵ハードディスクの初期化
USBハードディスク設定
56 ～ 57
機器の登録
自動削除設定
省エネ設定
機器の取りはずし
機器の再検出
動作テスト
機器の初期化
LANハードディスク設定
65 ～ 66
機器の登録
登録モード設定
自動削除設定
動作テスト
i.LINK設定
69
機器の登録
登録モード設定
ブロードキャスト入力設定
最大データ転送速度設定
D-VHSテープ検出
外部機器からの制御
テレビ電源入連動
電源入連動機器
HDMI連動設定
52
HDMI連動機能
HDMI連動機器リスト
連動機器→テレビ入力切換
連動機器→テレビ電源
テレビ→連動機器電源オフ
PC映像連動
AVシステム連動
優先スピーカー
テレビdeナビ設定
42
東芝RDアナログ
東芝RDデジタル1
東芝RDデジタル2
東芝RDデジタル3
録画再生設定
51
ダイレクト録画時間
ワンタッチスキップ設定
ワンタッチリプレイ設定
設定メニュー
初期設定
はじめての設定
32
アンテナ設定
70 ～ 71
地上デジタルアンテナレベル
BS・110度CSアンテナレベル
BS・110度CSアンテナ電源供給
BS中継器切換
110度CS中継器切換
チャンネル設定
地上アナログ自動設定
72
地上デジタル自動設定
73 ～ 74
初期スキャン
再スキャン
自動スキャン
手動設定
75 ～ 78
地上アナログ
地上デジタル
BS
110度CS
チャンネルスキップ設定
79
地上アナログ
地上デジタル
BS
110度CS
ステレオ／モノラル
80
無信号消音設定
80
初期設定に戻す
80
データ放送設定
81
郵便番号と地域の設定
文字スーパー表示設定
ルート証明書番号
通信設定
電話回線設定
83 ～ 84
ダイヤル方式
外線発信番号
電話会社の設定
電話番号通知設定
電話回線テスト
待ち時間の設定
通信接続設定
86 ～ 87
通信環境設定
LAN端子設定
IPアドレス設定
DNS設定
プロキシ設定
MACアドレス
接続テスト
LANハードディスク端子設定
IPアドレス設定
DHCPサーバー設定
MACアドレス
接続確認メッセージ設定
85
通信エラー履歴
85
メール設定
88 ～ 89
基本設定
POP3サーバーアドレス
POP3ユーザー名
POP3パスワード
APOP
POP3アクセス間隔
SMTPサーバーアドレス
メールアドレス
メール録画予約設定
メール録画予約機能
録画機器
メール予約パスワード
予約設定結果通知
指定メールアドレス
予約アドレス登録
IPTV設定
90
ネットワーク設定
サービスプロバイダー選択
基本登録
IPTVスキャン
接続テスト
システム情報
B-CASカード番号表示
簡易確認テスト
82
設定の初期化
95

デジタル放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）について

● デジタル放送は、最新のデジタル技術を活用することによって、高画質（ハイビジョン放送）･多チャンネルのテレビ放送やデータ放送などさまざまな魅力を満載しています。
● デジタル放送は音声信号を効率よく圧縮して放送することができるので、原音に近い高音質な音声をお楽しみいただけます（デジタルオーディオ：MPEG-2 AAC方式）。さらに、5.1チャンネルステレオのサラウンド放送も行われています。

テレビ放送の特長

● デジタルハイビジョン放送を中心に、4種類の放送フォーマットがあります。

	デジタルハイビジョン放送(HD)		プログレッシブ放送(SD)	通常放送(SD)
放送フォーマット	1080i放送	720p放送	480p放送	480i放送
走査線の数	有効1080本	有効720本	有効480本	有効480本
走査の方式	インターレース（飛び越し走査）	プログレッシブ（順次走査）	プログレッシブ（順次走査）	インターレース（飛び越し走査）
画面サイズ	16：9	16：9	16：9	16：9、4：3

● デジタルハイビジョン放送１番組と通常放送3番組程度を時間帯によって切り換えて放送する、マルチチャンネル放送もあります。
※本機はすべての放送フォーマットをデジタル処理によって、液晶パネルの画素数に合わせて表示します。
● 1080i放送には1035iの放送信号もあります。1035iの放送信号を受信した場合は、画面上部が黒く表示されます。

データ放送の特長

● テレビ番組やラジオ番組に関連するデータ放送（番組連動データ放送）と、番組とは無関係の独立したデータ放送（独立データ放送）の2種類があります。
● 番組連動データ放送では、番組を視聴しながらいろいろな情報をチェックするなどの使いかたができます。
● 独立データ放送では、天気予報などのいろいろな情報がご覧になれます。

お知らせ
● 本機はデジタルラジオ放送にも対応していますが、2008年9月現在、ラジオ放送は行われておりません。

地上デジタル放送について

●地上デジタル(テレビ)放送とは？

地上波のUHF帯を使用したデジタル放送のことです。
(本書および別冊の「操作編」では、「地上デジタル放送」と記載しています)
現在行われているアナログ方式の地上放送(本書および別冊の「操作編」では、「地上アナログ放送」と記載しています)は、今後この地上デジタル放送に変わっていきます。

●地上デジタル放送の特長

これまでの地上アナログ放送に比べて、以下のメリットがあります。

(1) **デジタルハイビジョン放送を中心とした高画質放送・多チャンネル放送**
(前ページの「テレビ放送の特長」をご覧ください)

(2) **CD並みの高音質放送(MPEG-2 AAC方式)**

(3) **ゴーストの影響を受けにくいため、画像が鮮明**

(4) **データ放送や双方向サービス**
通常の番組に加えて、地域に密着したニュースや天気予報などのデータ放送があります。
また、電話回線などを使った双方向サービスによるオンラインショッピングや、視聴者参加型のクイズ番組なども予定されています。

(5) **移動体受信・部分受信サービス**
車や電車などでの移動体受信サービスや、携帯電話などで受信できる部分受信サービス(ワンセグ)があります。
※ 本機は部分受信サービス(ワンセグ)の放送を内蔵ハードディスクに録画することができます。録画した番組を再生したり、SDメモリーカードにダビングしてモバイル機器などで視聴したりすることができます。

●BSデジタル放送や110度CSデジタル放送との違いは？

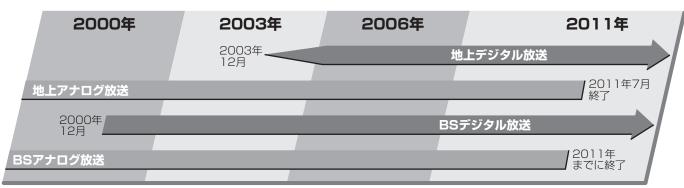
BSデジタル放送や110度CSデジタル放送の場合................ 衛星を使った放送であり、日本全国どこでも同じ番組を楽しめます。
地上デジタル放送の場合 .... 放送は各地域の放送局から送信されます。
地域に密着した放送・番組が多く提供される予定です。

●地上デジタル放送を受信するには

本機のほかに、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナが必要です。
(ほかに、混合器や分波器が必要な場合もあります)

アナログ放送からデジタル放送への移行について

●デジタル放送への移行スケジュール

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の都道府県の県庁所在地は2006年末までに放送が開始されました。今後も受信可能エリアは順次拡大されます。この放送のデジタル化に伴い、地上アナログ放送は2011年7月までに、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の法令によって定められています。

本機で市販のキーボードを使う場合の動作について

各キーの基本動作

● そのときのモードによっては、動作が異なる場合があります。

キー	はたらき	キー	はたらき
Alt+ひらがな/カタカナ	ローマ字入力/かな入力を切り換えます	Shift+↑	選択範囲を指定します
Shift＋無変換	全角英数モードと半角英数モードを切り換えます	Shift+↓	選択範囲を指定します
無変換	ひらがなモードと全角カタカナモードを切り換えます	Shift+←	選択範囲を指定します
		Shift+→	選択範囲を指定します
英数/CapsLock	英数モードとひらがなモードを切り換えます	Ctrl+x	選択範囲を切り取ります
半角/全角/漢字	英数モードでの半角モードと全角モードを切り換えます	Ctrl+c	選択範囲をコピーします
		Ctrl+v	切り取り、コピーした文字を貼り付けます
Shift＋CapsLock	英数モードでの大文字←→小文字を切り換えます	Windows	このキーは無効です
Esc	漢字変換時に押すと、変換中の文字列が削除されます 未確定文字列内にカーソルがある状態で押すと、すべての未確定文字列を消去します 設定の途中などで前の画面に戻ることができます	tab	半角8文字分スペースが入力されます
		前候補、変換	文字変換します
		Shift＋前候補、変換	前変換します
		App	このキーは無効です
Enter	未確定文字がある場合、変換中の文字を確定します 未確定文字がない場合、改行します （改行が必要な場合は、文字入力モードを終了します） 選んでいる番組や項目を決定します	PrintScan	このキーは無効です
		Insert	挿入モードと上書きモードを切り換えます
		ScrollLock	このキーは無効です
		Pause	このキーは無効です
Delete	1文字削除します	PageUP ※	画面表示の中に ▲･▼ のマークがある場合は、ページを切り換えることができます
BackSpace	前文字削除します	PageDown ※	
Space	変換中の文字がある場合、文字変換します 変換中の文字がない場合、スペースが入力されます	NumLock	10キーの操作を切り換えます
		ファンクション(F1)※	カラーボタン：青
Home	文字カーソルを行頭に移動します	ファンクション(F2)※	カラーボタン：赤
End	文字カーソルを行末に移動します	ファンクション(F3)※	カラーボタン：緑
↑	文字カーソルを矢印の方向に移動します	ファンクション(F4)※	カラーボタン：黄
↓	文字カーソルを矢印の方向に移動します	ファンクション(F5)※	dデータ
←	文字カーソルを矢印の方向に移動します	ファンクション(F6)	インターネットの起動
→	文字カーソルを矢印の方向に移動します	ファンクション(F7)※	クイック
		ファンクション(F8～F12)	このキーは無効です

● ※印については、リモコンボタンと同じはたらきをします。

10キー操作（NumLockオフの場合）

キーの種類	はたらき	キーの種類	はたらき
/	"/"が入力されます	6／→	文字カーソルを移動します
*	"*"が入力されます	7／Home	文字カーソルを行頭に移動します
0／ins	挿入モードと上書きモードを切り換えます	8／↑	文字カーソルを移動します
Insert	挿入モードと上書きモードを切り換えます	9／PgUp	このキーは無効です
1／End	文字カーソルを行末に移動します	.／Del	1文字削除します
2／↓	文字カーソルを移動します	−	"−"が入力されます
3／PgDn	このキーは無効です	＋	"+"が入力されます
4／←	文字カーソルを移動します	Enter	変換中の文字を確定します
5	このキーは無効です		

10キー操作（NumLockオンの場合）

● 通常の10キー操作になります。

「ローマ字入力」モードで使うとき

● 以下の表に従って入力してください。
● ひらがなとカタカナを切り換えるときは「無変換キー」を押してください。

入力する文字	キー操作	入力する文字	キー操作	入力する文字	キー操作	入力する文字	キー操作	入力する文字	キー操作
あ	a	よ	yo	う゛ぇ	ve	ひゅ	hyu	ぢゅ	dyu
い	i	ら	ra	う゛ぉ	vo	ひぇ	hye	ぢぇ	dye
う	u	り	ri	きゃ	kya	ひょ	hyo	ぢょ	dyo
え	e	る	ru	きぃ	kyi	ふぁ	fa	でゃ	dha
お	o	れ	re	きゅ	kyu	ふぃ	fi	でぃ	dhi
か	ka	ろ	ro	きぇ	kye	ふぇ	fe	でゅ	dhu
き	ki	わ	wa	きょ	kyo	ふぉ	fo	でぇ	dhe
く	ku	うぃ	wi	しゃ	sya	ふゃ	fya	でょ	dho
け	ke	う	wu	しゃ	sha	ふぃ	fyi	びゃ	bya
こ	ko	うぇ	we	しぃ	syi	ふゅ	fyu	びぃ	byi
さ	sa	を	wo	しゅ	syu	ふぇ	fye	びゅ	byu
し	shi	ん	nn	しゅ	shu	ふょ	fyo	びぇ	bye
し	si			しぇ	sye	みゃ	mya	びょ	byo
す	su	が	ga	しぇ	she	みぃ	myi	ぴゃ	pya
せ	se	ぎ	gi	しょ	syo	みゅ	myu	ぴぃ	pyi
そ	so	ぐ	gu	しょ	sho	みぇ	mye	ぴゅ	pyu
た	ta	げ	ge			みょ	myo	ぴぇ	pye
ち	chi	ご	go	ちゃ	tya	りゃ	rya	ぴょ	pyo
ち	ti	ざ	za	ちゃ	cya	りぃ	ryi		
つ	tsu	じ	zi	ちゃ	cha	りゅ	ryu	ぁ	xa
つ	tu	じ	ji	ちぃ	tyi	りぇ	rye	ぁ	la
て	te	ず	zu	ちぃ	cyi	りょ	ryo	ぃ	xi
と	to	ぜ	ze	ちゅ	tyu	ぎゃ	gya	ぃ	li
な	na	ぞ	zo	ちゅ	cyu	ぎぃ	gyi	ぅ	xu
に	ni	だ	da	ちゅ	chu	ぎゅ	gyu	ぅ	lu
ぬ	nu	ぢ	di	ちぇ	tye	ぎぇ	gye	ぇ	xe
ね	ne	づ	du	ちぇ	cye	ぎょ	gyo	ぇ	le
の	no	で	de	ちぇ	che	じゃ	zya	ぉ	xo
は	ha	ど	do	ちょ	tyo	じゃ	ja	ぉ	lo
ひ	hi	ば	ba	ちょ	cyo	じゃ	jya	ゃ	xya
ふ	fu	び	bi	ちょ	cho	じぃ	zyi	ゃ	lya
ふ	hu	ぶ	bu	てゃ	tha	じぃ	jyi	ぃ	xyi
へ	he	べ	be	てぃ	thi	じゅ	zyu	ぃ	lyi
ほ	ho	ぼ	bo	てゅ	thu	じゅ	ju	ゅ	xyu
ま	ma			てぇ	the	じゅ	jyu	ゅ	lyu
み	mi	ぱ	pa	てょ	tho	じぇ	zye	ぇ	xye
む	mu	ぴ	pi	にゃ	nya	じぇ	je	ぇ	lye
め	me	ぷ	pu	にぃ	nyi	じぇ	jye	ょ	xyo
も	mo	ぺ	pe	にゅ	nyu	じょ	zyo	ょ	lyo
や	ya	ぽ	po	にぇ	nye	じょ	jo	っ	xtu
い	yi	う゛ぁ	va	にょ	nyo	じょ	jyo	っ	ltu
ゆ	yu	う゛ぃ	vi	ひゃ	hya	ぢゃ	dya		
いぇ	ye	う゛	vu	ひぃ	hyi	ぢぃ	dyi		

地上アナログ放送の自動設定一覧表

- 「はじめての設定」32 や「地上アナログ自動設定」72 をすると、この表にある放送局がリモコンの地上ダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 に自動設定されます。
- この表にない放送局を受信するとき（受信できる場合）は、「手動設定」75 で設定してください。
- お住まいの地域がこの表に記載されていない場合は、近くの地域・都市名で「地上アナログ自動設定」をして、正しく受信できないときは「手動設定」で設定してください。
- 地上デジタル放送開始にともなう「アナログ周波数変更対策」によって、この表のチャンネルの内容が変わることがあります。その場合は「手動設定」で設定してください。
- この表に記載のお使いになる地域・都市名を「はじめての設定」や「地上アナログ自動設定」で選んで設定しても、アンテナの向きや高層物などの影響によって、正しく受信できない場合があります。その場合は 36 の下の説明をご覧ください。
- ダウンロード（操作編 87 ）によって、この表の内容（自動設定される内容）は、変わる場合があります。
- この表の内容は放送局側の運用変更によって、変わる場合があります。

2006年12月1日現在

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
北海道	北海道・北部	旭川	2	NHK教育	2	2
			4	テレビ北海道（TVh）	33	33
			5	北海道文化放送（UHB）	37	37
			6	北海道テレビ放送（HTB）	39	39
			7	札幌テレビ放送（STV）	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送（HBC）	11	11
		釧路	2	NHK教育	2	2
			3	北海道テレビ放送（HTB）	39	39
			4	北海道文化放送（UHB）	41	41
			7	札幌テレビ放送（STV）	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送（HBC）	11	11
		北見	2	NHK教育	2	2
			4	北海道テレビ放送（HTB）	61	61
			5	北海道文化放送（UHB）	59	59
			7	札幌テレビ放送（STV）	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送（HBC）	53	53
		網走	1	北海道放送（HBC）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	札幌テレビ放送（STV）	5	5
			7	北海道文化放送（UHB）	27	27
			9	北海道テレビ放送（HTB）	35	35
			12	NHK教育	12	12
		稚内	2	北海道文化放送（UHB）	26	26
			4	NHK総合	28	28
			6	札幌テレビ放送（STV）	22	22
			8	北海道テレビ放送（HTB）	24	24
			10	北海道放送（HBC）	10	10
			12	NHK教育	30	30
北海道	北海道・北部	名寄	2	北海道文化放送（UHB）	26	26
			4	NHK総合	4	4
			6	札幌テレビ放送（STV）	6	6
			8	北海道テレビ放送（HTB）	24	24
			10	北海道放送（HBC）	10	10
			12	NHK教育	12	12
		根室	2	NHK教育	2	2
			5	北海道文化放送（UHB）	62	62
			6	北海道テレビ放送（HTB）	60	60
			7	札幌テレビ放送（STV）	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送（HBC）	11	11
	北海道・南部	札幌	1	北海道放送（HBC）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	テレビ北海道（TVh）	17	17
			5	札幌テレビ放送（STV）	5	5
			7	北海道文化放送（UHB）	27	27
			10	北海道テレビ放送（HTB）	35	35
			12	NHK教育	12	12
		函館	1	北海道文化放送（UHB）	27	27
			3	北海道テレビ放送（HTB）	35	35
			4	NHK総合	4	4
			5	テレビ北海道（TVh）	21	21
			6	北海道放送（HBC）	6	6
			10	NHK教育	10	10
			12	札幌テレビ放送（STV）	12	12
		帯広	1	北海道文化放送（UHB）	32	32
			3	北海道テレビ放送（HTB）	34	34
			4	NHK総合	4	4
			6	北海道放送（HBC）	6	6
			10	札幌テレビ放送（STV）	10	10
			12	NHK教育	12	12
北海道	北海道・南部	苫小牧	2	NHK教育	49	49
			4	北海道テレビ放送（HTB）	61	61
			5	北海道文化放送（UHB）	53	53
			7	札幌テレビ放送（STV）	57	57
			9	NHK総合	51	51
			11	北海道放送（HBC）	55	55
			12	テレビ北海道（TVh）	47	47
		小樽	2	NHK教育	2	2
			4	北海道テレビ放送（HTB）	4	4
			5	北海道文化放送（UHB）	26	26
			7	札幌テレビ放送（STV）	7	7
			9	北海道放送（HBC）	9	9
			11	NHK総合	11	11
			12	テレビ北海道（TVh）	24	24
		室蘭	2	NHK教育	2	2
			4	テレビ北海道（TVh）	29	29
			5	北海道文化放送（UHB）	37	37
			6	北海道テレビ放送（HTB）	39	39
			7	札幌テレビ放送（STV）	7	7
			9	NHK総合	9	9
			11	北海道放送（HBC）	11	11
東北	青森	青森	1	青森放送（RAB）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	青森朝日放送（ABA）	34	34
			5	NHK教育	5	5
			12	青森テレビ（ATV）	38	38

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
東北	青森	八戸	2	アイビーシー岩手放送（IBCテレビ）	2	2
			3	テレビ岩手	37	37
			4	岩手めんこいテレビ	29	29
			6	岩手朝日テレビ	27	27
			7	NHK教育	7	7
			9	NHK総合	9	9
			10	青森朝日放送（ABA）	31	31
			11	青森放送（RAB）	11	11
			12	青森テレビ（ATV）	33	33
		むつ	4	NHK総合	4	4
			6	青森朝日放送（ABA）	56	56
			8	青森テレビ（ATV）	58	58
			10	青森放送（RAB）	10	10
			12	NHK教育	12	12
	岩手	盛岡	1	テレビ岩手	35	35
			4	NHK総合	4	4
			6	アイビーシー岩手放送（IBCテレビ）	6	6
			8	NHK教育	8	8
			10	岩手めんこいテレビ	33	33
			12	岩手朝日テレビ	31	31
		釜石	2	NHK総合	2	2
			4	岩手朝日テレビ	62	62
			6	岩手めんこいテレビ	60	60
			8	テレビ岩手	58	58
			10	アイビーシー岩手放送（IBCテレビ）	10	10
			12	NHK教育	12	12
		二戸	2	アイビーシー岩手放送（IBCテレビ）	2	2
			4	岩手朝日テレビ	27	27
			5	NHK総合	5	5
			8	岩手めんこいテレビ	29	29
			10	テレビ岩手	37	37
			12	NHK教育	12	12
	宮城	仙台	1	東北放送（TBCテレビ）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	NHK教育	5	5
			7	東日本放送	32	32
			9	宮城テレビ放送（ミヤギテレビ）	34	34
			12	仙台放送	12	12
		石巻	1	東北放送（TBCテレビ）	59	59
			3	NHK総合	51	51
			5	NHK教育	49	49
			7	東日本放送	61	61
			9	宮城テレビ放送（ミヤギテレビ）	55	55
			12	仙台放送	57	57
		気仙沼	2	NHK総合	2	2
			4	東北放送（TBCテレビ）	4	4
			6	仙台放送	6	6
			8	東日本放送	43	43
			10	NHK教育	10	10
			12	宮城テレビ放送（ミヤギテレビ）	37	37
東北	秋田	秋田	2	NHK教育	2	2
			5	秋田朝日放送	31	31
			9	NHK総合	9	9
			11	秋田放送（ABSテレビ）	11	11
			12	秋田テレビ（AKT）	37	37
		大館	1	青森放送（RAB）	1	1
			4	NHK総合	4	4
			5	秋田朝日放送	59	59
			6	秋田放送（ABSテレビ）	6	6
			8	NHK教育	8	8
			12	秋田テレビ（AKT）	57	57
		大仙・横手	2	NHK教育	43	43
			5	秋田朝日放送	41	41
			9	NHK総合	45	45
			11	秋田放送（ABSテレビ）	47	47
			12	秋田テレビ（AKT）	51	51
	山形	山形	4	NHK教育	4	4
			6	テレビユー山形（TUY）	36	36
			8	NHK総合	8	8
			10	山形放送（YBC山形放送）	10	10
			11	さくらんぼテレビジョン（さくらんぼテレビ）	30	30
			12	山形テレビ	38	38
		鶴岡・酒田	1	山形放送（YBC山形放送）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			6	NHK教育	6	6
			8	テレビユー山形（TUY）	22	22
			11	さくらんぼテレビジョン（さくらんぼテレビ）	24	24
			12	山形テレビ	39	39
		米沢	2	さくらんぼテレビジョン（さくらんぼテレビ）	60	60
			4	NHK教育	50	50
			6	テレビユー山形（TUY）	56	56
			8	NHK総合	52	52
			10	山形放送（YBC山形放送）	54	54
			12	山形テレビ	58	58
		新庄	2	NHK教育	2	2
			4	さくらんぼテレビジョン（さくらんぼテレビ）	28	28
			6	テレビユー山形（TUY）	26	26
			9	NHK総合	9	9
			11	山形放送（YBC山形放送）	11	11
			12	山形テレビ	58	58
	福島	福島・郡山	2	NHK教育	2	2
			4	テレビユー福島	31	31
			6	福島中央テレビ	33	33
			9	NHK総合	9	9
			10	福島放送（KFB）	35	35
			11	福島テレビ（FTV）	11	11
東北	福島	いわき	4	NHK総合	4	4
			6	福島中央テレビ	58	58
			7	テレビユー福島	62	62
			8	福島テレビ（FTV）	8	8
			10	NHK教育	10	10
			12	福島放送（KFB）	60	60
		会津若松	1	NHK総合	1	1
			3	NHK教育	3	3
			4	テレビユー福島	47	47
			6	福島テレビ（FTV）	6	6
			8	福島中央テレビ	37	37
			10	福島放送（KFB）	41	41
関東	茨城	水戸	1	NHK総合	44	1
			3	NHK教育	46	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	42	4
			6	東京放送（TBS）	40	6
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	38	8
			10	テレビ朝日	36	10
			12	テレビ東京	32	12
		日立	1	NHK総合	52	1
			3	NHK教育	50	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	54	4
			6	東京放送（TBS）	56	6
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	58	8
			10	テレビ朝日	60	10
			12	テレビ東京	62	12
	栃木	宇都宮	1	NHK総合	51	1
			3	NHK教育	49	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	53	4
			5	とちぎテレビ	31	31
			6	東京放送（TBS）	55	6
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	57	8
			10	テレビ朝日	41	10
			12	テレビ東京	44	12
		矢板	1	NHK総合	40	1
			3	NHK教育	30	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	36	4
			5	とちぎテレビ	33	31
			6	東京放送（TBS）	42	6
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	45	8
			10	テレビ朝日	59	10
			12	テレビ東京	61	12
	群馬	前橋	1	NHK総合	52	1
			3	NHK教育	50	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	54	4
			5	放送大学	40	40
			6	東京放送（TBS）	56	6
			7	テレビ埼玉（テレ玉）	38	38
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	58	8
			10	テレビ朝日	60	10
			11	群馬テレビ	48	48
			12	テレビ東京	62	12

地上アナログ放送の自動設定一覧表 つづき

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
関東	群馬	桐生	1	NHK総合	51	1
			3	NHK教育	57	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	53	4
			5	放送大学	40	40
			6	東京放送（TBS）	55	6
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	35	8
			10	テレビ朝日	59	10
			11	群馬テレビ	41	48
			12	テレビ東京	61	12
	埼玉	さいたま	1	NHK総合	1	1
			3	NHK教育	3	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	4	4
			5	放送大学	16	16
			6	東京放送（TBS）	6	6
			7	テレビ埼玉（テレ玉）	38	38
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	8	8
			10	テレビ朝日	10	10
			11	群馬テレビ	48	48
			12	テレビ東京	12	12
		熊谷・児玉	1	NHK総合	51	1
			3	NHK教育	35	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	53	4
			6	東京放送（TBS）	55	6
			7	テレビ埼玉（テレ玉）	30	38
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	57	8
			10	テレビ朝日	59	10
			11	群馬テレビ	48	48
			12	テレビ東京	61	12
		秩父	1	NHK総合	14	1
			3	NHK教育	49	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	16	4
			6	東京放送（TBS）	18	6
			7	テレビ埼玉（テレ玉）	47	38
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	29	8
			10	テレビ朝日	38	10
			12	テレビ東京	44	12
	千葉	千葉・船橋	1	NHK総合	1	1
			2	TOKYO MX	14	14
			3	NHK教育	3	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	4	4
			5	放送大学	16	16
			6	東京放送（TBS）	6	6
			7	テレビ神奈川（tvk）	42	42
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	8	8
			9	千葉テレビ放送（CTC）	46	46
			10	テレビ朝日	10	10
			12	テレビ東京	12	12
		銚子	1	NHK総合	51	1
			3	NHK教育	49	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	53	4
			6	東京放送（TBS）	55	6
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	57	8
			9	千葉テレビ放送（CTC）	39	46
			10	テレビ朝日	59	10
			12	テレビ東京	61	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
関東	東京	23区	1	NHK総合	1	1
			2	放送大学	16	16
			3	NHK教育	3	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	4	4
			5	TOKYO MX	14	14
			6	東京放送（TBS）	6	6
			7	テレビ神奈川（tvk）	42	42
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	8	8
			9	千葉テレビ放送（CTC）	46	46
			10	テレビ朝日	10	10
			11	テレビ埼玉（テレ玉）	38	38
			12	テレビ東京	12	12
		八王子	1	NHK総合	33	1
			3	NHK教育	29	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	35	4
			5	TOKYO MX	40	14
			6	東京放送（TBS）	37	6
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	31	8
			10	テレビ朝日	45	10
			12	テレビ東京	62	12
		多摩	1	NHK総合	49	1
			3	NHK教育	47	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	51	4
			5	TOKYO MX	61	14
			6	東京放送（TBS）	53	6
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	55	8
			10	テレビ朝日	57	10
			12	テレビ東京	59	12
	神奈川	横浜・川崎	1	NHK総合	1	1
			3	NHK教育	3	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	4	4
			5	放送大学	16	16
			6	東京放送（TBS）	6	6
			7	テレビ神奈川（tvk）	42	42
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	8	8
			9	千葉テレビ放送（CTC）	46	46
			10	テレビ朝日	10	10
			12	テレビ東京	12	12
		横浜みなと	1	NHK総合	52	1
			3	NHK教育	50	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	54	4
			6	東京放送（TBS）	56	6
			7	テレビ神奈川（tvk）	48	42
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	58	8
			9	千葉テレビ放送（CTC）	46	46
			10	テレビ朝日	60	10
			12	テレビ東京	62	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
関東	神奈川	平塚・茅ヶ崎	1	NHK総合	33	1
			3	NHK教育	29	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	35	4
			6	東京放送（TBS）	37	6
			7	テレビ神奈川（tvk）	31	42
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	39	8
			10	テレビ朝日	41	10
			12	テレビ東京	43	12
		小田原	1	NHK総合	52	1
			3	NHK教育	50	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	54	4
			6	東京放送（TBS）	56	6
			7	テレビ神奈川（tvk）	46	42
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	58	8
			10	テレビ朝日	60	10
			12	テレビ東京	62	12
		秦野	1	NHK総合	47	1
			3	NHK教育	49	3
			4	日本テレビ放送網（日本テレビ）	51	4
			6	東京放送（TBS）	53	6
			7	テレビ神奈川（tvk）	61	42
			8	フジテレビジョン（フジテレビ）	55	8
			10	テレビ朝日	57	10
			12	テレビ東京	59	12
甲信越	新潟	新潟	3	UX 新潟テレビ21（UXTV）	21	21
			4	テレビ新潟放送網（TeNY）	29	29
			5	新潟放送（BSN新潟放送）	5	5
			8	NHK総合	8	8
			10	新潟総合テレビ	35	35
			12	NHK教育	12	12
		上越	1	NHK教育	1	1
			3	NHK総合	3	3
			6	UX 新潟テレビ21（UXTV）	37	37
			8	テレビ新潟放送網（TeNY）	27	27
			10	新潟放送（BSN新潟放送）	10	10
			12	新潟総合テレビ	33	33
	山梨	※	1	NHK総合	1	1
			3	NHK教育	3	3
			5	山梨放送（YBS）	5	5
			6	テレビ山梨（UTY）	37	37
	長野	長野（美ヶ原）	2	NHK総合	2	2
			4	長野朝日放送（ABN）	20	20
			6	テレビ信州	30	30
			9	NHK教育	9	9
			10	長野放送（NBS）	38	38
			11	信越放送	11	11

※山梨は、甲府地域のチャンネルが設定されます。

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
甲信越	長野	長野（善光寺平）	2	NHK総合	44	44
			4	長野朝日放送（ABN）	50	50
			6	テレビ信州	40	40
			9	NHK教育	46	46
			10	長野放送（NBS）	42	42
			11	信越放送	48	48
		松本	2	NHK総合	44	44
			4	長野朝日放送（ABN）	50	50
			6	テレビ信州	48	48
			9	NHK教育	46	46
			10	長野放送（NBS）	42	42
			11	信越放送	40	40
		飯田	3	NHK教育	3	3
			4	NHK総合	4	4
			6	信越放送	6	6
			8	テレビ信州	42	42
			10	長野放送（NBS）	40	40
			12	長野朝日放送（ABN）	44	44
		岡谷・諏訪	1	長野朝日放送（ABN）	61	61
			4	NHK総合	4	4
			6	信越放送	6	6
			8	NHK教育	8	8
			10	テレビ信州	59	59
			12	長野放送（NBS）	47	47
中部	富山	富山	1	北日本放送	1	1
			3	NHK総合	3	3
			6	チューリップテレビ	32	32
			10	NHK教育	10	10
			12	富山テレビ放送（BBT）	34	34
		高岡	1	北日本放送	50	1
			3	NHK総合	48	3
			6	チューリップテレビ	42	32
			10	NHK教育	46	10
			12	富山テレビ放送（BBT）	44	34
	石川	金沢	4	NHK総合	4	4
			6	北陸放送（MRO）	6	6
			7	北陸朝日放送（HAB）	25	25
			8	NHK教育	8	8
			10	テレビ金沢	33	33
			12	石川テレビ放送（石川テレビ）	37	37
		七尾	1	テレビ金沢	57	57
			3	北陸朝日放送（HAB）	59	59
			5	NHK教育	5	5
			7	石川テレビ放送（石川テレビ）	55	55
			9	NHK総合	9	9
			11	北陸放送（MRO）	11	11
	福井	福井	3	NHK教育	3	3
			9	NHK総合	9	9
			11	福井放送（FBCテレビ）	11	11
			12	福井テレビジョン放送（福井テレビ）	39	39
		敦賀	6	NHK総合	6	6
			8	福井放送（FBCテレビ）	8	8
			10	福井テレビジョン放送（福井テレビ）	38	38
			12	NHK教育	12	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
中部	岐阜	岐阜	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	中部日本放送（CBC）	5	5
			6	三重テレビ放送（三重テレビ）	33	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	9	9
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	37	37
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	11	11
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	35	35
		長良	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	57	57
			3	NHK総合	53	53
			5	中部日本放送（CBC）	55	55
			9	NHK教育	49	49
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	61	61
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	59	59
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	47	47
		高山	2	NHK教育	2	2
			3	中京テレビ放送（中京テレビ）	26	26
			4	NHK総合	4	4
			6	中部日本放送（CBC）	6	6
			8	東海テレビ放送（東海テレビ）	8	8
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	38	38
			12	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	12	12
		各務原	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	中部日本放送（CBC）	5	5
			9	NHK教育	9	9
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	37	37
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	11	11
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	35	35
		中津川	3	中京テレビ放送（中京テレビ）	26	26
			4	NHK総合	4	4
			6	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	6	6
			8	中部日本放送（CBC）	8	8
			10	東海テレビ放送（東海テレビ）	10	10
			11	岐阜放送（岐阜テレビ）	28	28
			12	NHK教育	12	12
	静岡	静岡	2	NHK教育	2	2
			4	静岡第一テレビ	31	31
			6	静岡朝日テレビ	33	33
			9	NHK総合	9	9
			11	静岡放送（SBSテレビ）	11	11
			12	テレビ静岡	35	35
		浜松	2	静岡第一テレビ	30	30
			4	NHK総合	4	4
			6	静岡放送（SBSテレビ）	6	6
			8	NHK教育	8	8
			10	静岡朝日テレビ	28	28
			12	テレビ静岡	34	34

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
中部	静岡	三島・沼津	2	NHK教育	51	51
			3	静岡第一テレビ	61	61
			5	静岡朝日テレビ	57	57
			7	テレビ静岡	59	59
			9	NHK総合	53	53
			11	静岡放送（SBSテレビ）	55	55
		島田	1	NHK総合	56	56
			3	NHK教育	54	54
			5	静岡放送（SBSテレビ）	62	62
			7	静岡第一テレビ	48	48
			10	静岡朝日テレビ	50	50
			12	テレビ静岡	58	58
		富士	2	NHK教育	54	54
			3	静岡第一テレビ	27	27
			5	静岡朝日テレビ	29	29
			7	テレビ静岡	39	39
			9	NHK総合	52	52
			11	静岡放送（SBSテレビ）	41	41
		藤枝	1	NHK総合	42	42
			3	NHK教育	44	44
			5	静岡放送（SBSテレビ）	40	40
			7	静岡第一テレビ	24	24
			10	静岡朝日テレビ	26	26
			12	テレビ静岡	38	38
	愛知	名古屋	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	中部日本放送（CBC）	5	5
			6	三重テレビ放送（三重テレビ）	33	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	9	9
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	37	37
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	11	11
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	35	35
		豊橋	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	56	1
			3	NHK総合	54	3
			5	中部日本放送（CBC）	62	5
			6	三重テレビ放送（三重テレビ）	33	33
			7	テレビ愛知	52	25
			9	NHK教育	50	9
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	37	37
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	60	11
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	58	35
		豊田	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	57	1
			3	NHK総合	53	3
			5	中部日本放送（CBC）	55	5
			6	三重テレビ放送（三重テレビ）	33	33
			7	テレビ愛知	49	25
			9	NHK教育	51	9
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	37	37
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	61	11
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	59	35

次のページにつづく

地上アナログ放送の自動設定一覧表 つづき

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
中部	三重	津	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	中部日本放送（CBC）	5	5
			6	三重テレビ放送（三重テレビ）	33	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	9	9
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	37	37
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	11	11
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	35	35
		伊勢	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	57	1
			3	NHK総合	53	3
			5	中部日本放送（CBC）	55	5
			6	三重テレビ放送（三重テレビ）	59	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	49	9
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	37	37
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	61	11
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	47	35
		名張	1	東海テレビ放送（東海テレビ）	62	1
			3	NHK総合	52	3
			5	中部日本放送（CBC）	60	5
			6	三重テレビ放送（三重テレビ）	58	33
			7	テレビ愛知	25	25
			9	NHK教育	50	9
			10	岐阜放送（岐阜テレビ）	37	37
			11	名古屋テレビ放送（メ～テレ）	56	11
			12	中京テレビ放送（中京テレビ）	54	35
近畿	滋賀	大津	2	NHK総合	28	2
			4	毎日放送	36	4
			6	朝日放送（ABC）	38	6
			7	京都放送（KBS京都）	34	34
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	40	8
			9	びわ湖放送（BBCびわ湖放送）	30	30
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	42	10
			12	NHK教育	46	12
		彦根	2	NHK総合	52	2
			4	毎日放送	54	4
			6	朝日放送（ABC）	58	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	60	8
			9	びわ湖放送（BBCびわ湖放送）	56	56
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	62	10
			12	NHK教育	50	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
近畿	京都	京都	2	NHK総合	32	2
			3	テレビ大阪	19	19
			4	毎日放送	4	4
			6	朝日放送（ABC）	6	6
			7	京都放送（KBS京都）	34	34
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	8	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	10	10
			12	NHK教育	12	12
		山科	2	NHK総合	52	2
			4	毎日放送	54	4
			6	朝日放送（ABC）	56	6
			7	京都放送（KBS京都）	62	62
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	58	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	60	10
			12	NHK教育	50	12
		福知山	2	NHK総合	50	2
			4	毎日放送	54	4
			6	朝日放送（ABC）	58	6
			7	京都放送（KBS京都）	56	56
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	60	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	62	10
			12	NHK教育	52	12
		舞鶴	2	NHK総合	51	2
			4	毎日放送	53	4
			6	朝日放送（ABC）	55	6
			7	京都放送（KBS京都）	57	57
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	59	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	61	10
			12	NHK教育	49	12
	大阪	※	2	NHK総合	2	2
			3	テレビ大阪	19	19
			4	毎日放送	4	4
			5	サンテレビジョン（サンテレビ）	36	36
			6	朝日放送（ABC）	6	6
			7	京都放送（KBS京都）	34	34
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	8	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	10	10
			12	NHK教育	12	12
	兵庫	神戸	2	NHK総合	28	28
			4	毎日放送	31	4
			5	テレビ大阪	19	19
			6	朝日放送（ABC）	41	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	43	8
			9	サンテレビジョン（サンテレビ）	36	36
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	47	10
			12	NHK教育	45	12

※大阪は、大阪地域のチャンネルが設定されます。

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
近畿	兵庫	姫路	2	NHK総合	50	50
			4	毎日放送	54	4
			6	朝日放送（ABC）	58	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	60	8
			9	サンテレビジョン（サンテレビ）	56	56
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	62	10
			12	NHK教育	52	12
		明石	2	NHK総合	51	51
			4	毎日放送	53	4
			5	テレビ大阪	19	19
			6	朝日放送（ABC）	57	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	59	8
			9	サンテレビジョン（サンテレビ）	55	55
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	61	10
			12	NHK教育	49	12
		川西	2	NHK総合	29	29
			4	毎日放送	35	4
			6	朝日放送（ABC）	37	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	39	8
			9	サンテレビジョン（サンテレビ）	33	33
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	41	10
			12	NHK教育	31	12
		灘	2	NHK総合	52	52
			4	毎日放送	54	4
			5	テレビ大阪	19	19
			6	毎日放送（ABC）	56	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	58	8
			9	サンテレビジョン（サンテレビ）	62	62
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	60	10
			12	NHK教育	50	12
		長田	2	NHK総合	44	44
			4	毎日放送	38	4
			6	朝日放送（ABC）	40	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	42	8
			9	サンテレビジョン（サンテレビ）	34	34
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	48	10
			12	NHK教育	46	12
		北淡・垂水	2	NHK総合	51	51
			4	毎日放送	53	4
			6	朝日放送（ABC）	57	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	59	8
			9	サンテレビジョン（サンテレビ）	55	55
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	61	10
			12	NHK教育	49	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
近畿	兵庫	三木	2	NHK総合	44	44
			4	毎日放送	34	4
			6	朝日放送（ABC）	38	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	40	8
			9	サンテレビジョン（サンテレビ）	36	36
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	42	10
			12	NHK教育	46	12
	奈良	奈良	2	NHK総合	2	2
			4	毎日放送	4	4
			5	京都放送（KBS京都）	34	34
			6	朝日放送（ABC）	6	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	8	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	10	10
			11	奈良テレビ放送	55	55
			12	NHK教育	12	12
		生駒	2	NHK総合	2	2
			4	毎日放送	4	4
			6	朝日放送（ABC）	6	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	8	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	10	10
			11	奈良テレビ放送	26	55
			12	NHK教育	22	12
		五條	2	NHK総合	43	2
			4	毎日放送	33	4
			6	朝日放送（ABC）	35	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	37	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	39	10
			11	奈良テレビ放送	41	55
			12	NHK教育	45	12
	和歌山	和歌山	2	NHK総合	32	2
			4	毎日放送	42	4
			5	テレビ和歌山	30	30
			6	毎日放送（ABC）	44	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	46	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	48	10
			12	NHK教育	25	12
		海南・田辺	2	NHK総合	50	2
			4	毎日放送	54	4
			5	テレビ和歌山	56	56
			6	朝日放送（ABC）	58	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	60	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	62	10
			12	NHK教育	52	12
		新宮	2	NHK総合	44	2
			4	毎日放送	36	4
			5	テレビ和歌山	34	34
			6	朝日放送（ABC）	38	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	40	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	42	10
			12	NHK教育	46	12

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
中国	鳥取	鳥取	1	日本海テレビジョン放送（日本海テレビ）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	NHK教育	4	4
			10	山陰放送（BSSテレビ）	22	22
			12	山陰中央テレビジョン放送（TSK）	24	24
		米子	3	NHK総合	42	42
			5	NHK教育	5	5
			8	日本海テレビジョン放送（日本海テレビ）	8	8
			10	山陰放送（BSSテレビ）	10	10
			12	山陰中央テレビジョン放送（TSK）	34	34
		倉吉	1	日本海テレビジョン放送（日本海テレビ）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	NHK教育	4	4
			8	山陰中央テレビジョン放送（TSK）	58	58
			10	山陰放送（BSSテレビ）	56	56
	島根	松江	1	日本海テレビジョン放送（日本海テレビ）	30	30
			6	NHK総合	6	6
			8	山陰中央テレビジョン放送（TSK）	34	34
			10	山陰放送（BSSテレビ）	10	10
			12	NHK教育	12	12
		浜田	2	NHK総合	2	2
			3	日本海テレビジョン放送（日本海テレビ）	54	54
			5	山陰放送（BSSテレビ）	5	5
			8	山陰中央テレビジョン放送（TSK）	58	58
			9	NHK教育	9	9
	岡山	岡山	3	NHK教育	3	3
			5	NHK総合	5	5
			6	テレビせとうち	23	23
			7	瀬戸内海放送	25	25
			9	西日本放送	9	9
			11	山陽放送（RSK）	11	11
			12	岡山放送（OHK）	35	35
		津山	2	NHK総合	2	2
			4	テレビせとうち	56	56
			6	瀬戸内海放送	62	62
			7	山陽放送（RSK）	7	7
			9	西日本放送	58	58
			11	岡山放送（OHK）	60	60
			12	NHK教育	12	12
		笠岡	2	NHK総合	2	2
			4	NHK教育	4	4
			5	テレビせとうち	22	22
			6	山陽放送（RSK）	6	6
			9	西日本放送	34	34
			10	瀬戸内海放送	55	55
			11	岡山放送（OHK）	60	60

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
中国	広島	広島	1	テレビ新広島（TSS）	31	31
			3	NHK総合	3	3
			4	中国放送（RCC）	4	4
			7	NHK教育	7	7
			9	広島ホームテレビ	35	35
			12	広島テレビ放送（広島テレビ）	12	12
		福山	1	テレビ新広島（TSS）	54	54
			3	NHK教育	3	3
			5	NHK総合	5	5
			7	中国放送（RCC）	7	7
			9	広島ホームテレビ	57	57
			11	広島テレビ放送（広島テレビ）	11	11
		呉	1	NHK教育	1	1
			3	広島ホームテレビ	24	24
			5	広島テレビ放送（広島テレビ）	5	5
			7	テレビ新広島（TSS）	26	26
			9	中国放送（RCC）	9	9
			11	NHK総合	11	11
		尾道	1	NHK総合	1	1
			3	広島ホームテレビ	24	24
			5	テレビ新広島（TSS）	26	26
			7	NHK教育	7	7
			10	中国放送（RCC）	10	10
			12	広島テレビ放送（広島テレビ）	12	12
	山口	山口	1	NHK教育	42	42
			6	山口朝日放送（YAB山口朝日放送）	52	52
			7	テレビ山口（TYS）	49	49
			9	NHK総合	44	44
			11	山口放送（KRY山口放送）	46	46
		下関	1	NHK教育	41	41
			3	TVQ九州放送	23	23
			4	山口放送（KRY山口放送）	4	4
			6	山口朝日放送（YAB山口朝日放送）	21	21
			7	テレビ山口（TYS）	33	33
			9	NHK総合	39	39
			10	テレビ西日本（TNC）	10	10
			12	福岡放送（FBS）	35	35
		宇部	1	NHK教育	55	55
			6	山口朝日放送（YAB山口朝日放送）	24	24
			7	テレビ山口（TYS）	44	44
			9	NHK総合	58	58
			10	テレビ西日本（TNC）	10	10
			11	山口放送（KRY山口放送）	61	61

地上アナログ放送の自動設定一覧表 つづき

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
中国	山口	岩国	1	NHK教育	1	1
			6	山口朝日放送（YAB山口朝日放送）	28	28
			7	テレビ山口（TYS）	62	62
			9	NHK総合	9	9
			11	山口放送（KRY山口放送）	11	11
		防府	1	NHK教育	1	1
			6	山口朝日放送（YAB山口朝日放送）	28	28
			7	テレビ山口（TYS）	38	38
			9	NHK総合	9	9
			11	山口放送（KRY山口放送）	11	11
四国	徳島	※	1	四国放送	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	毎日放送	4	4
			6	朝日放送（ABC）	6	6
			8	関西テレビ放送（関西テレビ）	8	8
			10	読売テレビ放送（よみうりテレビ）	10	10
			12	NHK教育	38	12
	香川	高松	3	NHK教育	39	39
			5	NHK総合	37	37
			6	テレビせとうち	19	19
			7	瀬戸内海放送	33	33
			9	西日本放送	41	41
			11	山陽放送（RSK）	29	29
			12	岡山放送（OHK）	31	31
		丸亀	3	NHK教育	40	40
			5	NHK総合	44	44
			6	テレビせとうち	46	46
			7	瀬戸内海放送	42	42
			9	西日本放送	50	50
			11	山陽放送（RSK）	48	48
			12	岡山放送（OHK）	52	52
	愛媛	松山	2	NHK教育	2	2
			6	NHK総合	6	6
			8	あいテレビ	29	29
			9	愛媛朝日テレビ（EAT）	25	25
			10	南海放送（RNB）	10	10
			11	広島ホームテレビ	35	35
			12	テレビ愛媛	37	37
		今治	2	NHK教育	30	30
			6	NHK総合	32	32
			8	あいテレビ	27	27
			9	愛媛朝日テレビ（EAT）	17	17
			10	南海放送（RNB）	34	34
			12	テレビ愛媛	36	36
		新居浜	2	NHK総合	2	2
			4	NHK教育	4	4
			6	南海放送（RNB）	6	6
			7	愛媛朝日テレビ（EAT）	14	14
			8	あいテレビ	27	27
			12	テレビ愛媛	36	36

※徳島は、徳島地域のチャンネルが設定されます。

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
四国	愛媛	宇和島	1	NHK教育	1	1
			6	NHK総合	6	6
			8	あいテレビ	25	25
			9	愛媛朝日テレビ（EAT）	16	16
			10	南海放送（RNB）	10	10
			12	テレビ愛媛	27	27
	高知	高知	4	NHK総合	4	4
			6	NHK教育	6	6
			8	高知放送（RKC）	8	8
			10	テレビ高知（KUTV）	38	38
			12	高知さんさんテレビ（さんさんテレビ）	40	40
		四万十	1	NHK総合	1	1
			3	高知放送（RKC）	3	3
			6	テレビ高知（KUTV）	32	32
			8	高知さんさんテレビ（さんさんテレビ）	14	14
			11	NHK教育	11	11
九州・沖縄	福岡	福岡	1	九州朝日放送（KBC）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			4	アール・ケー・ビー毎日放送（RKB）	4	4
			5	TVQ九州放送	19	19
			6	NHK教育	6	6
			9	テレビ西日本（TNC）	9	9
			12	福岡放送（FBS）	37	37
		北九州	2	九州朝日放送（KBC）	2	2
			3	福岡放送（FBS）	35	35
			5	TVQ九州放送	23	23
			6	NHK総合	6	6
			8	アール・ケー・ビー毎日放送（RKB）	8	8
			10	テレビ西日本（TNC）	10	10
			12	NHK教育	12	12
		久留米	1	九州朝日放送（KBC）	57	57
			3	NHK総合	46	46
			4	アール・ケー・ビー毎日放送（RKB）	48	48
			5	TVQ九州放送	14	14
			6	NHK教育	54	54
			9	テレビ西日本（TNC）	60	60
			12	福岡放送（FBS）	52	52
		大牟田	1	九州朝日放送（KBC）	58	58
			3	NHK総合	53	53
			4	アール・ケー・ビー毎日放送（RKB）	61	61
			5	TVQ九州放送	19	19
			6	NHK教育	50	50
			9	テレビ西日本（TNC）	55	55
			12	福岡放送（FBS）	43	43

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
九州・沖縄	福岡	行橋	2	九州朝日放送（KBC）	57	57
			3	福岡放送（FBS）	43	43
			5	TVQ九州放送	19	19
			6	NHK総合	49	49
			8	アール・ケー・ビー毎日放送（RKB）	60	60
			10	テレビ西日本（TNC）	54	54
			12	NHK教育	46	46
	佐賀	佐賀	2	NHK教育	40	40
			3	福岡放送（FBS）	52	52
			4	サガテレビ	36	36
			5	TVQ九州放送	14	14
			6	九州朝日放送（KBC）	57	57
			8	アール・ケー・ビー毎日放送（RKB）	48	48
			9	NHK総合	38	38
			10	テレビ西日本（TNC）	60	60
			11	熊本放送（RKK）	11	11
		伊万里	1	NHK教育	44	44
			3	福岡放送（FBS）	52	52
			4	サガテレビ	41	41
			5	TVQ九州放送	14	14
			6	九州朝日放送（KBC）	57	57
			8	アール・ケー・ビー毎日放送（RKB）	48	48
			9	NHK総合	51	51
			10	テレビ西日本（TNC）	60	60
			11	熊本放送（RKK）	11	11
	長崎	長崎	1	NHK教育	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	長崎放送（NBC）	5	5
			7	テレビ長崎（KTN）	37	37
			9	長崎文化放送（NCC）	27	27
			11	長崎国際テレビ	25	25
		佐世保	2	NHK教育	2	2
			6	長崎文化放送（NCC）	31	31
			7	テレビ長崎（KTN）	35	35
			8	NHK総合	8	8
			10	長崎放送（NBC）	10	10
			11	長崎国際テレビ	17	17
		諫早	1	NHK教育	51	51
			3	NHK総合	59	59
			5	長崎放送（NBC）	62	62
			7	テレビ長崎（KTN）	39	39
			9	長崎文化放送（NCC）	56	56
			11	長崎国際テレビ	32	32

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
九州・沖縄	熊本	熊本	2	NHK教育	2	2
			3	熊本朝日放送（KAB）	16	16
			4	熊本県民テレビ（KKT）	22	22
			6	テレビ熊本（TKU）	34	34
			9	NHK総合	9	9
			11	熊本放送（RKK）	11	11
		水俣	1	NHK教育	1	1
			3	熊本朝日放送（KAB）	32	32
			4	NHK総合	4	4
			6	熊本放送（RKK）	6	6
			8	熊本県民テレビ（KKT）	36	36
			10	テレビ熊本（TKU）	38	38
	大分	大分	3	NHK総合	3	3
			5	大分放送（OBS）	5	5
			6	大分朝日放送（OAB大分朝日放送）	24	24
			7	テレビ大分（TOS）	36	36
			12	NHK教育	12	12
		中津	3	NHK総合	48	48
			5	大分放送（OBS）	51	51
			6	大分朝日放送（OAB大分朝日放送）	17	17
			7	テレビ大分（TOS）	37	37
			12	NHK教育	45	45

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
九州・沖縄	大分	佐伯	1	NHK教育	1	1
			5	テレビ大分（TOS）	49	49
			6	大分朝日放送（OAB大分朝日放送）	31	31
			7	NHK総合	7	7
			9	大分放送（OBS）	9	9
	宮崎	宮崎	3	テレビ宮崎（UMK）	35	35
			8	NHK総合	8	8
			10	宮崎放送（MRT）	10	10
			12	NHK教育	12	12
		延岡	2	NHK教育	2	2
			4	NHK総合	4	4
			6	宮崎放送（MRT）	6	6
			8	テレビ宮崎（UMK）	39	39
	鹿児島	鹿児島	1	南日本放送（MBC）	1	1
			3	NHK総合	3	3
			5	NHK教育	5	5
			7	鹿児島放送（KKB鹿児島放送）	32	32
			9	鹿児島テレビ放送（KTS）	38	38
			11	鹿児島読売テレビ（KYT）	30	30

地方名	都道府県名	地域・都市名	リモコンボタン	放送局名 ※カッコ内は画面に略号で表示される場合	チャンネル	画面の番号表示
九州・沖縄	鹿児島	鹿屋	2	NHK教育	2	2
			4	NHK総合	4	4
			6	南日本放送（MBC）	6	6
			8	鹿児島放送（KKB鹿児島放送）	31	31
			10	鹿児島テレビ放送（KTS）	33	33
			12	鹿児島読売テレビ（KYT）	25	25
		阿久根	4	鹿児島放送（KKB鹿児島放送）	23	23
			6	鹿児島テレビ放送（KTS）	35	35
			8	NHK総合	8	8
			10	南日本放送（MBC）	10	10
			11	鹿児島読売テレビ（KYT）	17	17
			12	NHK教育	12	12
	沖縄	※	2	NHK総合	2	2
			6	琉球朝日放送（QAB）	28	28
			8	沖縄テレビ放送（OTV）	8	8
			10	琉球放送（RBC）	10	10
			12	NHK教育	12	12

※沖縄は、那覇地域のチャンネルが設定されます。

地上デジタル放送の放送（予定）一覧表

● この表は、地上デジタル放送の放送予定を表したものです。
同時に、以下についても記載しています。

(1) 域内（お住まいの地域）の放送がリモコンボタンに自動設定される目安

- 「はじめての設定」32 や「地上デジタル自動設定」（73 ～ 74 ）をすると、地上デジタル放送の受信可能なチャンネルを探してリモコンの地上ダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 に放送の運用規定に基づいて自動設定されます。
  この表では、その際に域内のどの放送局がどのリモコンボタンに自動設定されるのか、その目安を記載しています。

(2) 番組表に表示される域内の放送局の順番（目安）

● この表をご覧の際には、次ページの「お知らせ」もよくお読みください。

● 放送局の開局の状況などによっては、この表のとおり（上記のとおり）にならない場合があります。

2008年3月現在

地方名	都道府県名または地域・都市名	リモコンボタン ※1	放送局名	番組表表示の並び順
北海道	北海道全域（区域放送開始前）	1	HBC北海道放送	3
		2	NHK教育・札幌	2
		3	NHK総合・札幌	1
		5	STV札幌テレビ	4
		6	HTB北海道テレビ	5
		7	TVH	7
		8	UHB	6
	旭川（区域放送開始後）	1	HBC旭川	3
		2	NHK教育・旭川	2
		3	NHK総合・旭川	1
		5	STV旭川	4
		6	HTB旭川	5
		7	TVH旭川	7
		8	UHB旭川	6
	釧路（区域放送開始後）	1	HBC釧路	3
		2	NHK教育・釧路	2
		3	NHK総合・釧路	1
		5	STV釧路	4
		6	HTB釧路	5
		7	TVH釧路	7
		8	UHB釧路	6
	北見（区域放送開始後）	1	HBC北見	3
		2	NHK教育・北見	2
		3	NHK総合・北見	1
		5	STV北見	4
		6	HTB北見	5
		7	TVH北見	7
		8	UHB北見	6
	帯広（区域放送開始後）	1	HBC帯広	3
		2	NHK教育・帯広	2
		3	NHK総合・帯広	1
		5	STV帯広	4
		6	HTB帯広	5
		7	TVH帯広	7
		8	UHB帯広	6
	札幌（区域放送開始後）	1	HBC札幌	3
		2	NHK教育・札幌	2
		3	NHK総合・札幌	1
		5	STV札幌	4
		6	HTB札幌	5
		7	TVH札幌	7
		8	UHB札幌	6
	函館（区域放送開始後）	1	HBC函館	3
		2	NHK教育・函館	2
		3	NHK総合・函館	1
		5	STV函館	4
		6	HTB函館	5
		7	TVH函館	7
		8	UHB函館	6
	室蘭（区域放送開始後）	1	HBC室蘭	3
		2	NHK教育・室蘭	2
		3	NHK総合・室蘭	1
		5	STV室蘭	4
		6	HTB室蘭	5
		7	TVH室蘭	7
		8	UHB室蘭	6

地方名	都道府県名	リモコンボタン ※1	放送局名	番組表表示の並び順
東北	青森	1	RAB青森放送	3
		2	NHK教育・青森	2
		3	NHK総合・青森	1
		5	青森朝日放送	5
		6	ATV青森テレビ	4
	岩手	1	NHK総合・盛岡 ※3	1
		2	NHK教育・盛岡 ※3	2
		4	テレビ岩手	4
		5	岩手朝日テレビ	6
		6	IBCテレビ	3
		8	めんこいテレビ	5
	宮城	1	TBCテレビ	3
		2	NHK教育・仙台	2
		3	NHK総合・仙台	1
		4	ミヤギテレビ	5
		5	KHB東日本放送	6
		8	仙台放送	4
	秋田	1	NHK総合・秋田	1
		2	NHK教育・秋田	2
		4	ABS秋田放送	3
		5	AAB秋田朝日放送	5
		8	AKT秋田テレビ	4
	山形	1	NHK総合・山形	1
		2	NHK教育・山形	2
		4	YBC山形放送	3
		5	YTS山形テレビ	4
		6	テレビユー山形	5
		8	さくらんぼテレビ	6
	福島	1	NHK総合・福島 ※3	1
		2	NHK教育・福島 ※3	2
		4	福島中央テレビ	4
		5	KFB福島放送	5
		6	テレビユー福島	6
		8	福島テレビ	3
関東	茨城	1	NHK総合・水戸 ※3	1
		2	NHK教育・東京	2
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	8
	栃木	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	とちぎテレビ	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9

地方名	都道府県名	リモコンボタン ※1	放送局名	番組表表示の並び順
関東	群馬	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	群馬テレビ	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9
	埼玉	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	テレ玉	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9
	千葉	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	チバテレビ	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9
	東京	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		9	TOKYO MX	8
		12	放送大学	9
	神奈川	1	NHK総合・東京	1
		2	NHK教育・東京	2
		3	tvk	8
		4	日本テレビ	3
		5	テレビ朝日	6
		6	TBS	4
		7	テレビ東京	7
		8	フジテレビジョン	5
		12	放送大学	9

地方名	都道府県名	リモコンボタン ※1	放送局名	番組表表示の並び順
甲信越	新潟	1	NHK総合・新潟	1
		2	NHK教育・新潟	2
		4	TeNYテレビ新潟	5
		5	新潟テレビ21	6
		6	BSN	3
		8	NST	4
	山梨	1	NHK総合・甲府 ※3	1
		2	NHK教育・甲府 ※3	2
		4	YBS山梨放送	3
		6	UTY	4
	長野	1	NHK総合・長野	1
		2	NHK教育・長野	2
		4	テレビ信州	3
		5	abn長野朝日放送	4
		6	SBC信越放送	5
		8	NBS長野放送	6
中部	富山	1	KNB北日本放送	3
		2	NHK教育・富山 ※3	2
		3	NHK総合・富山 ※3	1
		6	チューリップテレビ	5
		8	BBT富山テレビ	4
	石川	1	NHK総合・金沢 ※3	1
		2	NHK教育・金沢 ※3	2
		4	テレビ金沢	3
		5	北陸朝日放送	4
		6	MRO	5
		8	石川テレビ	6
	福井	1	NHK総合・福井 ※3	1
		2	NHK教育・福井 ※3	2
		7	FBCテレビ	3
		8	福井テレビ	4
	静岡	1	NHK総合・静岡	1
		2	NHK教育・静岡	2
		4	静岡第一テレビ	5
		5	静岡朝日テレビ	6
		6	SBS	3
		8	テレビ静岡	4
	愛知	1	東海テレビ	3
		2	NHK教育・名古屋	2
		3	NHK総合・名古屋	1
		4	中京テレビ	6
		5	CBC	4
		6	メ~テレ	5
		10	テレビ愛知	7
	三重	1	東海テレビ	3
		2	NHK教育・名古屋	2
		3	NHK総合・津 ※3	1
		4	中京テレビ	6
		5	CBC	4
		6	メ~テレ	5
		7	三重テレビ	7
	岐阜	1	東海テレビ	3
		2	NHK教育・名古屋	2
		3	NHK総合・岐阜 ※3	1
		4	中京テレビ	6
		5	CBC	4
		6	メ~テレ	5
		8	岐阜テレビ	7
近畿	滋賀	1	NHK総合・大津 ※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		3	BBCびわ湖放送	7
		4	MBS毎日放送	3
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
近畿	京都	1	NHK総合・京都 ※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		4	MBS毎日放送	3
		5	KBS京都	7
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
	大阪	1	NHK総合・大阪	1
		2	NHK教育・大阪	2
		4	MBS毎日放送	3
		6	ABCテレビ	4
		7	テレビ大阪	7
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
	兵庫	1	NHK総合・神戸 ※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		3	サンテレビ	7
		4	MBS毎日放送	3
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
	奈良	1	NHK総合・奈良 ※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		4	MBS毎日放送	3
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		9	奈良テレビ	7
		10	読売テレビ	6
	和歌山	1	NHK総合・和歌山 ※3	1
		2	NHK教育・大阪	2
		4	MBS毎日放送	3
		5	テレビ和歌山	7
		6	ABCテレビ	4
		8	関西テレビ	5
		10	読売テレビ	6
中国	鳥取	1	日本海テレビ	5
		2	NHK教育・鳥取 ※3	2
		3	NHK総合・鳥取 ※3	1
		6	BSSテレビ	4
		8	山陰中央テレビ	3
	島根	1	日本海テレビ	5
		2	NHK教育・松江 ※3	2
		3	NHK総合・松江 ※3	1
		6	BSSテレビ	4
		8	山陰中央テレビ	3
	岡山	1	NHK総合・岡山 ※3	1
		2	NHK教育・岡山 ※3	2
		4	RNC西日本テレビ	3
		5	KSB瀬戸内海放送	4
		6	RSKテレビ	5
		7	テレビせとうち	6
		8	OHKテレビ	7
	広島	1	NHK総合・広島	1
		2	NHK教育・広島	2
		3	RCCテレビ	3
		4	広島テレビ	4
		5	広島ホームテレビ	5
		8	TSS	6
	山口	1	NHK総合・山口 ※3	1
		2	NHK教育・山口 ※3	2
		3	tysテレビ山口	4
		4	KRY山口放送	3
		5	yab山口朝日	5
四国	徳島	1	四国放送	3
		2	NHK教育・徳島 ※3	2
		3	NHK総合・徳島 ※3	1
	香川	1	NHK総合・高松 ※3	1
		2	NHK教育・高松 ※3	2
		4	RNC西日本テレビ	3
		5	KSB瀬戸内海放送	4
		6	RSKテレビ	5
		7	テレビせとうち	6
		8	OHKテレビ	7
	愛媛	1	NHK総合・松山	1
		2	NHK教育・松山	2
		4	南海放送	3
		5	愛媛朝日	4
		6	あいテレビ	5
		8	テレビ愛媛	6
	高知	1	NHK総合・高知	1
		2	NHK教育・高知	2
		4	高知放送	3
		6	テレビ高知	4
		8	さんさんテレビ	5
九州・沖縄	福岡	1	KBC九州朝日放送	3
		2	NHK教育・福岡 NHK教育・北九州 ※2	2
		3	NHK総合・福岡 NHK総合・北九州 ※2	1
		4	RKB毎日放送	4
		5	FBS福岡放送	5
		7	TVQ九州放送	6
		8	TNCテレビ西日本	7
	佐賀	1	NHK総合・佐賀 ※3	1
		2	NHK教育・佐賀 ※3	2
		3	STSサガテレビ	3
	長崎	1	NHK総合・長崎 ※3	1
		2	NHK教育・長崎 ※3	2
		3	NBC長崎放送	3
		4	NIB長崎国際テレビ	6
		5	NCC長崎文化放送	5
		8	KTNテレビ長崎	4
	熊本	1	NHK総合・熊本 ※3	1
		2	NHK教育・熊本 ※3	2
		3	RKK熊本放送	3
		4	KKTくまもと県民	5
		5	KAB熊本朝日放送	6
		8	TKUテレビ熊本	4
	大分	1	NHK総合・大分 ※3	1
		2	NHK教育・大分 ※3	2
		3	OBS大分放送	3
		4	TOSテレビ大分	4
		5	OAB大分朝日放送	5
	宮崎	1	NHK総合・宮崎 ※3	1
		2	NHK教育・宮崎 ※3	2
		3	UMKテレビ宮崎	4
		6	MRT宮崎放送	3
	鹿児島	1	MBC南日本放送	3
		2	NHK教育・鹿児島 ※3	2
		3	NHK総合・鹿児島 ※3	1
		4	KYT鹿児島読売TV	6
		5	KKB鹿児島放送	5
		8	KTS鹿児島テレビ	4
	沖縄	1	NHK総合・那覇	1
		2	NHK教育・那覇	2
		3	RBCテレビ	3
		5	QAB琉球朝日放送	4
		8	沖縄テレビ(OTV)	5

■ 表中の「リモコンボタン※１」の項目について
- 「初期スキャン」や「再スキャン」をしたときに、その放送局がリモコンのどの地上ダイレクト選局ボタンに設定されるかを表します。

■ 表中の「※2」が記載されている放送局の放送について
- 「初期スキャン」や「再スキャン」の際に、入力レベルの高いほうの放送が地上ダイレクト選局ボタンに設定されます。
  (これは、放送の運用規定によるものです)

■ 表中の「※3」が記載されている放送局(NHK)の放送について
- 「初期スキャン」や「再スキャン」の際に受信できなかった場合は、受信できた域外(お住まいの地域以外)のNHK放送が地上ダイレクト選局ボタンに設定されます。(設定される放送は、地域によって決められています)
  その後「※3」の放送が受信できると、新しい放送に設定が変更されます。(これは、放送の運用規定によるものです)

用語について

● ☞は該当の用語を使用している代表的なページです。
● 用語によっては、他の分野で別の意味で使用している場合があります。

■ABC順

CA（Certificate Authority）証明書（操作編 73☞）
ルート証明書の下の階層にある中間証明書です。第三者機関（認証局）によってデジタル署名入りの状態で発行されます。

CSS（操作編 72☞）
スタイルシートの一種で、Webページの視覚効果などをさらに向上させることができます。

DNSサーバー（86☞）
ドメイン名（×××.co.jpなど）をIPアドレスに置き換える機能を持つサーバーで、本機では自動的に取得されます。自動で取得できない場合は、手動で、プロバイダーからの資料で指定されたDNSアドレスを「プライマリ」に入力します。二つある場合は、もう一方を「セカンダリ」に入力します。
（例：111.112.xxx.xxx）
※ ご契約のプロバイダーによっては、「ネームサーバー」、「DNS1/DNS2サーバー」、「ドメインサーバー」などと呼ばれることがあります。

IPアドレス（86☞）
インターネットに接続する場合に、端末に割り当てられる固有の番号です。形式は、最大3ケタの数字4組を点で区切った形になっています。（例：111.112.xxx.xxx）

JavaScript（ジャバスクリプト）（操作編 72☞）
米国Netscape社が開発したHTML文書内に埋め込まれるオブジェクト指向スクリプト言語。ホームページのもととなるHTML文書に記述または関連付けることで、対応しているインターネットブラウザで実行させせることができます。

MACアドレス（87☞）
イーサネット回線上につながっている機器の識別のために、各機器ごとに割り当てられる固有の番号です。本機の値を確認する必要がある場合は、表示させることができます。

SSL（Secure Socket Layer）（操作編 10☞ 72☞）
米国Netscape社が考案した暗号通信方式。伝送するデータを暗号化することで、第三者によるデータの盗聴を困難にします。

URL（Uniform Resource Locator）（操作編 36☞ 68☞）
ホームページのインターネット上の所在場所にアクセスするための文字列。アドレスと呼ばれることもあります。

■アイウエオ順

ア行

アイコン（操作編 10☞ 114☞）
各種情報の機能などを、簡単な図・マークなどで表示したものです。

お気に入り（操作編 36☞ 64☞）
見ているWebページを登録することによって、次回はURLを入力することなくリストの中から選択するだけで見られるようにする機能です。

カ行

ご案内チャンネル（操作編 100☞）
放送についての説明や、契約のしかたなどを説明しているチャンネルのことです。未契約の有料放送チャンネルを選局した場合には、このご案内チャンネルを簡単な操作で見ることができます。

サ行

サーバ証明書（操作編 71☞）
ご利用のサーバーが信頼できることを確認するために使用されるデジタル証明書（下の「デジタル証明書」を参照）のことです。この証明書自体ができるようにするため、一般的には第三者機関（認証局）が発行したものをさします。

サブネットマスク（86☞）
ネットワークを区切るために、端末に割り当てられるIPアドレスの範囲を限定するためのものです。
（例：255.255.xxx.xxx）

ジャンル（操作編 13☞）
洋画、邦画、音楽などのような、番組の分野のことです。

セキュリティ（61☞、操作編 10☞ 72☞）
インターネットなどのネットワーク上で安全を得ること、または安全を得るための方法・システム。たとえば、データの暗号化やパスワードによる管理などがあります。

タ行

ダウンロード（操作編 87☞）
放送波やインターネットを使って、ソフトウェアなどを端末に転送することです。

デジタル証明書
個人や、インターネット上のサーバーなどが信頼できることを証明するためのデータ・ファイル。デジタル証明書は、認証局（CA：Certificate Authority）と呼ばれる、信頼できる第三者機関によって発行されます。

デフォルトゲートウェイ（86☞）
ネットワーク外のサーバーにアクセスする際に、使用するルーターなどの機器を指定するためのものです。IPアドレスで特定されています。（例：111.112.xxx.xxx）

ナ行

（放送の）ネットワーク（操作編 15☞「番組情報の取得」）
デジタル放送の放送の単位。チャンネルや番組についての情報は、このネットワークごとに送られてきます。

ハ行

プロキシ（87☞）
ご契約のプロバイダーから指定があるときだけ設定してください。
（例：proxy.xxx.xxx.xxx）
この設定をすると、HTTPプロキシサーバーからファイアウォール（外部からの不正侵入防護壁）を越えて通信先のブラウザにデータを高速で送ることができます。

ラ行

ルート証明書（81☞）
サーバーを認証する第三者機関（認証局）を証明するものです。この証明書をもとにして、「サーバ証明書」のデジタル署名を検証し、「サーバ証明書」が信頼できることを確認します。

東芝デジタルテレビZH7000で使われるソフトウェアのライセンス情報

東芝デジタルテレビ42/46/52ZH7000（**ZH7000**と略して記載します）に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに東芝または第三者の著作権が存在します。

東芝デジタルテレビZH7000は、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知（以下、「EULA」といいます）に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧いただくようお願いいたします。
ホームページアドレス
http://www.toshiba.co.jp/product/tv/LZ1/eula/
また、**東芝デジタルテレビZH7000**のソフトウェアコンポーネントには、東芝自身が開発もしくは作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェア及びそれに付帯したドキュメント類には、東芝の所有権が存在し、著作権法、国際条約条項及び他の準拠法によって保護されています。「EULA」の適用を受けない東芝自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネンツは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた**東芝デジタルテレビZH7000**は、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし、「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になられることが認められるものがあります。この場合、当該ソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、"as is"（現状）の状態で、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけないで、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定目的適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、東芝は一切の責任を負いません。適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます（データの消失、又はその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません）。当該ソフトウェアコンポーネンツの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

東芝デジタルテレビZH7000に組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。なお、各「EULA」は東芝以外の第三者による規定であるため、原文（英文）を記載します。

東芝デジタルテレビZH7000で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント　**原文（英文）**

対応ソフトウェアモジュール	
Linux Kernel samba udhcp netfilter/iptables pump busybox e2fsprogs parted xfsprogs mount.cifs mkdosfs	Exhibit A
glibc gcc	Exhibit B
malloc	Exhibit C
libupnp	Exhibit D
popt	Exhibit E
PPxP	Exhibit F
WIDE-DHCPv6	Exhibit G

E x h i b i t A

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License;they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part there of, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any thirdparty, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange;or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all.

For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised

and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/ OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<One line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © 19yy <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/ or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright © 19yy name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items – whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program; if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>,1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

ExhibitB

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages – typically libraries – of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General PublicLicense. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in nonfree programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any

derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machinereadable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables..

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may

also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library", the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among

countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/ or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/ OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/ OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>,1 April 1990
Ty Coon,President of Vice

That's all there is to it!

ExhibitC

This is a version (aka dlmalloc) of malloc/free/realloc written by Doug Lea and released to the public domain. Use, modify, and redistribute this code without permission or acknowledgement in any way you wish. Send questions, comments, complaints, performance data, etc to dl@cs.oswego.edu

VERSION 2.7.2 Sat Aug 17 09:07:30 2002 Doug Lea (dl at gee)

Note: There may be an updated version of this malloc obtainable at
ftp://gee.cs.oswego.edu/pub/misc/malloc.c

Check before installing!

ExhibitD

under an open source software distribution license in 2000.

Copyright (c) 2000-2003 Intel Corporation All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither name of Intel Corporation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL INTEL OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Exhibit E

Copyright (c) 1998 Red Hat Software
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:
The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE X CONSORTIUM BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.
Except as contained in this notice, the name of the X Consortium shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from the X Consortium.

Exhibit F

●利用と配布
Copyright (c) 1997, 1998, 1999 The PPxP Development Team. All rights reserved.

以下の条件が満たされる限り、変更の有無に関係なくソースおよびバイナリ形式での再配布と利用を許可します:

ソースコードの再配布には上記の著作権表示、これらの条項と後述の免責条項がそのまま含まれていなければなりません。
バイナリ形式の再配布には上記の著作権表示、これらの条項と後述の免責条項が配布に含まれている文章、もしくはその他の資料にそのまま含まれていなければなりません。
このソフトウェアの機能や利用方法について記述されている全ての宣伝資料には以下の文章を記載して下さい:
　この製品にはPPxP開発チームによって開発されたソフトウェアが含まれています。

事前承諾なしにこのソフトウェアから派生した製品の推奨や宣伝のためにこのチームや賛同者達の名前を利用することはできません。

●免責
PPxP開発チームが提供しているのはソフトウェアそのもののみであり、保証や責任などを提供しているわけではありません。このソフトウェアを導入したり、利用したりすることにより、あるいは何もしないことによりよって生じたいかなる問題についてもこのチーム、そのメンバー、テスター、および本ソフトウェア内に名前が記載されている者が責任を負うことはありません。

Exhibit G

Copyright (C) 1998-2004 WIDE Project.
All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

保証とアフターサービス

必ずお読みください

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびに、お取り扱い・お手入れに関するご不明な点は **お買い上げの販売店にご相談ください。**

〈レグザ〉のお取り扱いのご相談は「東芝 レグザ サポートセンター」

一般回線からのご利用は（通話料：無料） フリーダイヤル 0120-97-9674（クナン クローナシ）
※携帯電話・PHS など一部の電話ではご利用になれません。

携帯電話からのご利用は（通話料：有料） ナビダイヤル 0570-05-5100
※PHS・IP 電話などからは、ご利用になれない場合があります。

365日 受付時間 9:00～20:00
FAX 03-3258-0470

販売店に修理のご相談ができない場合

東芝家電修理ご相談センター

フリーダイヤル 0120-1048-41 受付時間：365日 **24**時間
携帯電話からのご利用は ナビダイヤル 0570-06-4114（通話料：有料）
PHSなどからのご利用は 0173-38-3168（通話料：有料）

お買い物・お取り扱いのご相談

東芝家電ご相談センター

フリーダイヤル 0120-1048-86 受付時間：365日 **9:00～20:00**
携帯電話・PHSなどからのご利用は 03-3426-1048（通話料：有料）
FAXでのご利用は 03-3425-2101（通信料：有料）

- 「東芝家電修理ご相談センター」は、東芝テクノネットワーク株式会社が運営しております。
- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

ホームページに最新の商品情報などを掲載しておりますので、ご参照ください。 http : //www.toshiba.co.jp/product/tv/
※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。このような場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ（http://www.toshiba.co.jp/）をご参照ください。

保証書（別添）

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、たいせつに保管してください。

保証期間……お買い上げの日から1年間です。
B-CASカードは、保証の対象から除きます。

補修用性能部品の保有期間

- 液晶テレビの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後8年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は弊社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～出張修理

- 「操作編」89ページに従って調べていただき、なお異常があるときは本体の電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■保証期間中は

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

■ご連絡いただきたい内容

品名	地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン液晶テレビ
形名	42ZH7000、46ZH7000、52ZH7000
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等もあわせてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	
お買い上げ店名	おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。 TEL（ ） ―

廃棄時のお願い

- **一般の廃棄物といっしょにしないでください。**ごみ廃棄場で処分されるごみの中にテレビを捨てないでください。
  本機の蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

愛情点検

長年ご使用のテレビの点検をぜひ！ 熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いによって部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。

ご使用の際このような症状はありませんか?
- 電源を入れても映像や音が出ない。
- 映像が時々、消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源を切っても、映像や音が消えない。
- 内部に水や異物がはいった。

ご使用中止

このような場合、故障や事故防止のため、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。
ご自分での修理は危険ですので、絶対にしないでください。

- 表紙は有機物質を含む廃液が少ない水なし印刷方式で作成しました。

- この印刷物は環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。
- この印刷物は再生紙を使用しています。

株式会社 東芝
デジタルメディアネットワーク社
〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1
※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

ちょっとした心づかいでテレビの安全

(TH/T1) VX1A00120200